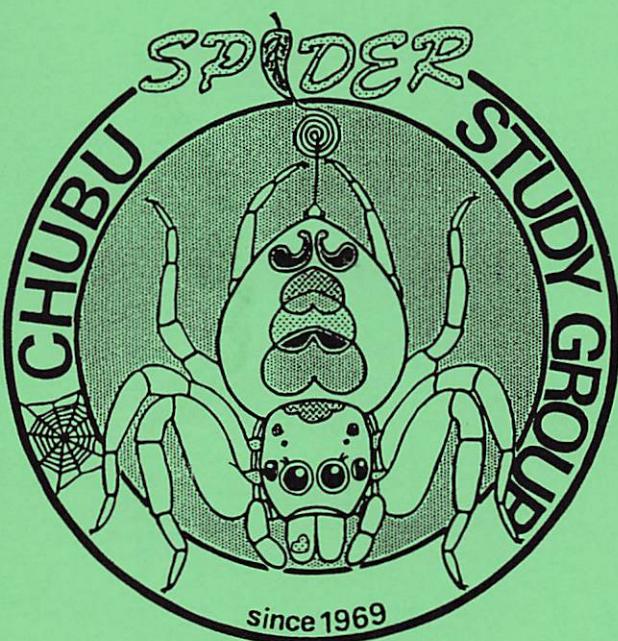


ISSN 0917-7906

蜘蛛

No.47
2014



中部蜘蛛懇談会
CHUBU SPIDER STUDY GROUP

目 次

貞元己良：富士山のクモ	1339	(1)
貞元己良：長野県高峰高原のクモ	1345	(7)
矢部寛延・片山詔久：ジョロウグモの横糸の分子構造研究	1352	(14)
貝發憲治：単眼欠如のクモ	1358	(20)
塩崎哲哉：石垣島・西表島探蜘蛛	1360	(22)
池田博明：クモの幼体の記録と撮影	1367	(29)
吉田 真：比叡山のクモ類 I	1370	(32)
緒方清人：愛知県内におけるツシマトリノフンダマシの記録	1380	(42)
緒方清人：愛知県知多郡美浜町奥田のクモ類	1382	(44)
緒方清人：愛知県三河地方におけるセアカゴケグモの現況	1386	(48)
緒方清人：愛知県産クモ目録 追加種 (VI)	1393	(55)
緒方清人：クモを捕らえた野鳥の記録	1396	(58)
柴田良成：越冬する蜘蛛－3	1399	(61)
短 報		
柴田良成：名古屋市内でトゲグモを発見	1402	(64)
益田和昌：蜘蛛本州にて採集されたヤスデ	1403	(65)
杉山時雄：ハツリグモの網に入るクロマルイソウロウグモ	1404	(66)
追悼 清水善夫氏		
須賀英文：第一代代表 清水善夫氏に捧ぐ	1405	(67)
村上 勝：清水さんとのこと	1406	(68)
太田定浩：清水さん ありがとうございました	1407	(69)
益田和昌：清水善夫さんを偲んで	1408	(70)
柴田良成：先生の形見	1409	(71)
緒方清人：清水善夫さん 本当にありがとうございました	1410	(72)
故清水先生を偲ぶ	1411	(73)
総会・研究会・採集観察会等報告		
◆2013年度総会・研究会報告	1413	(75)
◆2013年度三重・中部の蜘蛛の会 合同一泊観察会報告	1418	(80)
◆2013年度採集観察会報告	1421	(83)
第1回 5月20日 名古屋市緑区「大高緑地公園」		
第2回 6月10日 名古屋市守山区「小幡緑地公園」		
夏休み子供観察会 8月12日 名古屋市昭和区八事興正寺		
第3回 9月 2日 犬山市名鉄犬山遊園駅から「荒子川公園」		
第4回 10月14日 名古屋市守山区「庄内緑地公園」		
投稿のきまり	1426	(88)

富士山のクモ

貞元己良
〒274-0824 千葉県船橋市前原東 5-42-12

2013年師弟コンビ採集会第1弾は、8月21日水曜日から23日金曜日の三日間で行った。例の如く「予定は未定」で、弟子の私は一般サラリーマンであることから、休みの計画と申請を一ヶ月ほど前から会社側に了解を得る必要があり、当日になって予定を変えることが出来ない。これに対し師匠は仕事柄一ヶ月先の予定までは組めないほど過密なスケジュールの中から見切り発車する事が多い。21日出発日当日も、朝からの旅行予定が師匠の仕事の都合で昼過ぎとなり、翌日の午前中も師匠の仕事の都合から昼から合流となって、三日間「富士山のクモ」採集三昧のハズが実質1日だけであった。

1日目

新海師匠から前日の夜に「明日、午前中仕事が入ったから、家に来るのは昼過ぎにして欲しい。」と、連絡が入った。千葉に住む私の家から師匠の家までは、丁度2時間かかる。いつもの通り、新海邸ビル地下一階写真スタジオのお客さん待合いフロアに設置されたソファーに腰掛けて師匠の登場を待つ。師匠は私の顔を見るや「明日の午前中も仕事が入ったので、遠出が出来ない。」と述べて出発となった。「遠出が出来ない」という理由から最初の場所は、東京都町田市の小野路で行った。この場所は以前、東京クモ談話会の観察会で採集会を行った場所で、水田と林・小高い丘が見られる都内でも最後の秘境と呼べる豊かな田園風景が特徴の場所で、都内で唯一「コガネグモ」が生息する場所でもある。夜間採集は、東京都八王子市裏高尾町（高尾山は国道20号線沿いにあり、反対側に回り込む道を進むと裏高尾町へ行く）の古毛沢へ行く。この場所は昨年、東京都で初めてワクドツキジグモが目撲された場所で、私自身もムツトゲイセキグモを採集したことのある思い入れの強い場所であった。夜10時ころ「八王子にホテルを予約してあるから。」と、師匠に言われ八王子駅で師匠と別れ、師匠の車を借りたままホテルに入る。

2日目

午前8時にチェックアウトした私は、ナビの付いていない師匠の車で記憶を頼りに八王子城址へ行く。ここも以前、東京クモ談話会の観察会で採集会を行った場所で、キジロオヒキグモが何度か採れている竹林の多い場所である。8月下旬という時期はクモを採集する期間としては終盤戦、若しくは最後であると認識しているが特に珍しいクモには出会えなかった。昼頃、師匠から「仕事が片付いたので、八王子に行く。」と携帯に連絡が入る。慌てて車に乗り込み、八王子駅の待ち合わせ場所に向け車を飛ばす。本日の宿泊地は富士山山麓と決めていたが、真っ直ぐ向かうのも芸がないと考えた師匠は、以前から計画倒れに終わる場所の一つとして長野県と山梨県の県境にある、山梨県牧丘町の大弛（おおだるみ）峠、標高2千400メートル地点へ今回、挑戦することにした。下界は快晴であったが大弛峠は曇天で気

温も低く、一枚重ね着をして採集活動を行った。帰り道、少し下がった標高2千200メートル付近で熊笹が茂る道路脇に車を停め、師匠に「15分だけ、時間を下さい。」と懇願し、山道のカーブからカーブまでの約50メートル区間に生える崖側の熊笹をビーティングした。これは昨年の夏の四会合同合宿で、新穂高から奥穂高岳に上がるアスファルト道路の脇に生えていた熊笹をビーティングして、「エビスハエトリ」という珍しいハエトリグモを採集していたので、熊笹を見ると叩いてみたくなる衝動に駆られたのであった。しかし、アリと小さな甲虫しか入らずハエトリグモの姿が皆無であったが、網の一番奥に丸丸と太った、「キタグニオニグモ」が入っていた。付近の環境と場所を考えて、居るハズは無いが産卵のための場所として冬でも枯れない熊笹の中を選んだかもしれない、と師匠が推測した。

クモは師匠に献上したが、後日クモが産卵したそうで、日本で初めてキタグニオニグモの「卵のう」を写真に納めることが出来たと喜んでいた。

宿泊先として予約していたホテルへは、師匠が助手席で最新の地図で検索しながら運転している弟子に「そこ右、そこ…左！」と指示を出しが、途中から「全然、分からなくなつた。」と絶望的となり、カーナビが欲しいと今更ながら思った。それでも真っ暗ではあったが、なんとか宿に辿り着き、コンビニ弁当の夕食を兼ねて夜間観察へ出発した。宿で貰った周辺地図を頼りに浅間神社へ行く途中で横道があることに気付き、師匠曰く「50年近く富士山には来ているが、この道は初めてだ。」と言うので、入ってみることにした。道は延々と山麓の中を走るようで、高度計から標高1400メートル地点で車を停めて採集活動を行い、明日改めて来ることにした。

3日目

宿で朝食を食べて午前9時30分に出発。昨夜、発見した場所は山梨県富士吉田市、富士浅間神社裏手、吉田登山道沿いの林道「滝沢線」で、車で入れる最高点は4合目（標高1800メートル）であった。師匠の車には高度計が搭載されていたので、200メートル置きに車を停め、垂直分布を試しに調査することにした。午後3時ころ、携帯のベルが鳴り師匠に仕事の連絡が入った。仕方なく私達は、慌ただしく高速に乗って帰京となり採集旅行は終了した。

採集場所（略称）

小野路・・・・・ 東京都町田市小野路

古毛沢・・・・・ 東京都八王子市裏高尾町古毛沢

八王子城址・・・ 東京都八王子市高尾町

大弛峠・・・・・ 山梨県牧丘町

富士18・・・・・ 山梨県富士吉田市、林道滝沢線・標高1800メートル地点

富士16・・・・・ 山梨県富士吉田市、林道滝沢線・標高1600メートル地点

富士14・・・・・ 山梨県富士吉田市、林道滝沢線・標高1400メートル地点

富士12・・・・・ 山梨県富士吉田市、林道滝沢線・標高1200メートル地点

記号説明

♀雌成体 ♂雄成体 f 雌亜成体 m 雄亜成体 y 性別不明幼体 sp 種不明

採集リスト

ウズグモ科 Uloboridae

カタハリウズグモ *Octonoba sybotides* (Bösenberg & Strand 1906)

古毛沢 y

マネキグモ *Miagrammopes orientalis* Bösenberg & Strand 1906

小野路 m

ナミハグモ科 Cybaeidae

カチドキナミハグモ *Cybaeus nipponicus* (Uyemura 1938)

大弛峠♀

ヤチグモ科 Coelotidae

ヤマヤチグモ *Tegecoelotes corasides* (Bösenberg & Strand 1906)

大弛峠♂

ヤチグモ sp

大弛峠♂

タナグモ科 Agelenidae

イナヅマクサグモ *Agelena labyrinthica* (Clerck 1758)

富士 16 ♀

コモリグモ科 Lycosidae

ウツキコモリグモ *Pardosa astrigera* L. Koch 1878

富士 18 y

キシダグモ科 Pisauridae

アオグロハシリグモ *Dolomedes raptor* Bösenberg & Strand 1906

古毛沢 y

スジアカハシリグモ *Dolomedes saganus* Bösenberg & Strand 1906

古毛沢♀

ヒメグモ科 Theridiidae

カグヤヒメグモ *Achaearanea culicivola* (Bösenberg & Strand 1906)

八王子城址♀ 富士 14 ♀

ギボシヒメグモ *Chrysso albipes* (S.Saito 1935)

富士 18 ♀ 富士 16 y 富士 14 y

シモフリヒメグモ *Takayus lyricus* (Walckenaer 1841)

富士 16 my

タカユヒメグモ *Takayus takayensis* (S. Saito 1939)

富士 14 ♀

ホシミドリヒメグモ *Chrysso foliata* (L.Koch 1878)

富士 14 y 富士 12 y

カニミジングモ *Trigonobothrys mustelina* (Simon 1888)

古毛沢 m 富士 14 my

- ボカシミジングモ *Yaginumena castrata* (Bösenberg & Strand 1906)
 富士14 富士12y
- シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* (Karsch 1881)
 小野路♀
- トビジロイソウロウグモ *Argyrodes cylindratus* Thorell 1889
 古毛沢♀
- ヤリグモ *Rhomphaea sagana* (Dönitz & Strand 1906)
 古毛沢♀♂y 富士12y
- カラカラグモ科 Theridiosomatidae
- ナルコグモ *Wendilgarda* sp.
 小野路y 古毛沢y
- サラグモ科 Linyphiidae
- アシナガサラグモ *Prolinyphia longipedella* (Bösenberg & Strand 1906)
 古毛沢♀ 富士14♀ 富士12♀
- コシロブチサラグモ *Prolinyphia marginella* Oi 1960
 富士18y
- ムネグロサラグモ *Neolinyphia nigripectoides* (Oi 1960)
 大弛峠m 富士18y 富士16y 富士14y 富士12y
- ヤガスリサラグモ *Neriene albolimbata* (Karsch 1879)
 富士16♀
- オニノカナボウケズネグモ *Gonatium nipponicum* Millidge 1981
 富士18♀
- サザナミサラグモ *Strandella fluctimaculata* H. Saito 1982
 大弛峠my
- アシナガグモ科 Tetragnathidae
- キタドヨウグモ *Metleucauge yaginumai* Tanikawa 1992
 大弛峠y 富士18y 富士16y 富士14y 富士12y
- メガネドヨウグモ *Metleucauge yunohamensis* (Bösenberg & Strand 1906)
 富士14y 富士12y
- ヤマジドヨウグモ *Meta reticuloides* Yaginuma 1958
 古毛沢♀♂
- ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* Karsch 1879
 富士18y 富士16y 富士14y 富士12y
- エゾアシナガグモ *Tetragnatha yesoensis* S. Saito 1934
 富士16y 富士14y
- キヌアシナガグモ *Tetragnatha lauta* Yaginuma 1959
 八王子城址y 富士12y

アシダカグモ科 Sparassidae

コアシダカグモ *Sinopoda forcipata* (Karsch 1881)

古毛沢 y

エビグモ科 Philodromidae

アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* Bos. & Str. 1906

八王子城址♀

キエビグモ *Philodromus flavidus* S. Saito 1934

富士 1 6y

コガネエビグモ *Philodromus aureolus* (Clerck 1758)

富士 1 6y 富士 1 4y

カニグモ科 Thomisidae

コハナグモ *Diaeaa subdola* O. P.-Cambridge 1885

古毛沢♀ 富士 1 2y

ハナグモ *Misumenops tricuspidatus* (Fabricius 1775)

富士 1 4y

ワカバグモ *Oxytate striatipes* L. Koch 1878

富士 1 2♀

アマギエビスクモ *Lysiteles coronatus* (Grube 1861)

富士 1 4 ♀y

トラフカニグモ *Tmarus piger* (Walckenaer 1802)

富士 1 2y

ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* Fox 1937

富士 1 2y

フクログモ科 Clubionidae

ムナアカフクログモ *Clubiona vigil* Karsch 1879

富士 1 2y

ハエトリグモ科 Salticidae

ウススジハエトリ *Yaginumaella striatipes* (Grube 1861)

古毛沢♀ 富士 1 8♀ 富士 1 4♀♂ 富士 1 2♂

ジャバラハエトリ *Helicius yaginumai* Bohd. & Pros. 1987

富士 1 2♀

チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis* (Bos. & Str. 1906)

小野路♀

ホオジロハエトリ *Evarcha proszynskii* Marusik & Logunov 1997

富士 1 8♂

マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L. Koch 1878)

小野路♀

科の配列は、2006. 11. 30新海栄一著「日本のクモ」に従った。

まとめ

富士山の標高別垂直分布では、ギボシヒメグモ・ムネグロサラグモ・キタドヨウグモ・ウロコアシナガグモ・イシサワオニグモ・カラフトオニグモ・ウススジハエトリが標高に関係なく生息していることが分かった。

師弟コンビとして毎年採集旅行に出掛けているが、近年は歳のせいか近場に甘んじる傾向にある。毎年、「来年は中部、関西地方に殴り込み。」と思うだけで、実行が伴わない。せめて、師匠の昔の弟子熊田氏がヤマギシを追い出される前に、一度は三重県の方まで足を伸ばしてみたい。

長野県高峰高原のクモ

貞元 己良
〒274-0824 千葉県船橋市前原東 5-42-12

2013年師弟コンビ採集会第2弾は、10月5日の土曜日から7日の月曜日の三日間、長野県の高峰高原で行われた。この採集旅行は前回の旅行が師匠の仕事により半分以上が不満足であったため、計画されたモノであった。しかし、今回も1日目の夕刻までは師匠の出張仕事に費やされ、3日目も昼頃に急遽仕事で呼び出され慌てて東京に戻った次第であった。高峰高原は昨年、長野の千国先生のお弟子さんで藤澤さんという方が、マユミオニグモを採集された場所だったので、時期としては終わっているが雰囲気だけでも感じ取り、今後の参考にさせて頂こうと考えて選んだ場所であった。

1日目

前日までは晴れていたが、当日は台風の接近に伴い雲行きが怪しい寒い日となっていた。千葉の自宅を出たときは、曇天ではあるものの薄日が差し意気揚々と歩けたが、師匠と待ち合わせをした埼玉県内を走る電車に1時間半ほど揺られているうちに車窓から見る風景が一変し、土砂降りとなっていた。待ち合わせの駅で途方に暮れながら待っていると、「渋滞にはまって動けない。あと30分ほど待ってくれ。」と携帯に連絡が入る。結局、1時間近く遅れて来た師匠の車に乗り込み、関越自動車道を経由して長野県の佐久市を目指し出発した。雨は更に強くなる傾向にあり、埼玉県内は殆ど土砂降り状態であった。藤岡 IC の手前付近から雲行きが変わり雨も小康状態になったので、寄居 SA で小休止するとともに弟子の私と運転を交代し藤岡 IC 経由で上信越自動車道を通って「佐久」で下りた。時間通り昼頃に付いた師匠を、出張先であった小海線の岩村田駅の公民館近くで降ろし、仕事が終わる午後7時ころ迎えに行く約束で別れた。佐久市内に土地鑑は無かったが、師匠から群馬県と長野県の県境に「最勝洞」という洞窟があるので「観てたら？」と言われていたので、近くのコンビニに車を停め、地図帳を頼りに目的地を検索した。師匠の車はナビが付いていないので、知らない土地を走るとき不便である。目的地の洞窟は図測約25キロメートルと判明したので、地図を横目で見ながら道路標示に従い走行していたが師匠の地図帳には載っていない新たなバイパス道路を発見し、時間の短縮に成功した。目的地まで後半分程度付近で道路脇に沢山の幟が立つ場所があり、前方を走っていた観光バスが脇道に逸れて走って行くので名所旧跡があるのかと思い、興味本位で付いて行くと「竜岡城址公園」で停車した。私も近くの駐車場に車を置き、観光客の老人達に混じって中へ入ってみたが、非常に綺麗に整備された公園で採集する側にとっては面白くない場所だったので、公園内の「休み処」で軽食を注文し遅い昼食とした。師匠の地図帳では、このまま河原宿という村の中の道を進めば目的の洞窟に行ける様だったので、人の飛び出しに注意しながら閑散とした街中を走っていると左手に見えた神社の名前を見て思わずブレーキを踏む。神社は師匠の名前と同じ漢字で「新海

神社」とあった。後で師匠に確認したところ、なーんと！…この地は「師匠の祖先」の発祥の地だ！そうである。時間が惜しかったので、お参りはしてこなかったのが悔やまれた。村を抜けると新たな道が村を迂回する形で出来ており、「地図に載ってない…。」と独り言を言いつつ1キロほど走ったところで、「この先、土砂崩れにより通行止め。」と看板が出ていた。看板前に車を停めて思案に暮れていると後方から来た車が、私の車の横をすり抜けて走っていくのが見えたので「行ける。」と確信し、看板を避けて車を進めたが約2キロ走ったところで、通行止め箇所の詳しい地図が出ており洞窟までは行き着けないことが分かった。そこで私は、反対側から回り込んでみようと考え地図帳を広げ、国道254号線、通称コスモス街道を通るコースから群馬県の下仁田を経由する道を選択し、走り出した。しかし、約25キロ走行しコスモス街道の長野県と群馬県の間にある内山トンネルを超えると、群馬県側は土砂降りの雨だった。長野県側は雲が多めなるも薄日が差す天候だったので、一気にテンションが下がっていくのが分かった。洞窟探索は諦め、晴れている長野県側に戻りコスモス街道沿いで地図帳を広げ新たな採集場所を探していると、「内山城址」という旧跡を見た。行ってみると人の気配のない寂れた場所だったので大いに満足し、時間の許す限り採集に没頭した。

午後7時に待ち合わせをしていた千曲川に掛かる佐久大橋の脇に建つ、佐久グランドホテルで師匠と合流し、夜空に星が見えたことから夜間採集は、翌日行く予定だった目的地「高峰高原」に向け出発した。高峰高原の車坂峠（標高1,973メートル）に着いたのは、午後9時半を回っていた。車坂峠には立派な高峰高原ホテルがあり付随する施設の壁にクモの姿を見ることが出来た。ホテルも本日の営業は終了したようで街路灯や施設を照らす明かりなどが消され、真っ暗な状態だったので、クモの採集は採り放題であった。下界は快晴であったが高原は霧雨状の雨が降っており時間の経過とともに本降りになってきたのには閉口した。ここでは建物沿いに立てかけていた看板の裏側にオニグモ系の卵のうを発見し、師匠に確認して頂いたところ「これは見たことない。が、マユミオニグモの卵のうの可能性が高い。」という回答であった。また、師匠とともに多数採集したヤマヤチグモ sp は千国図鑑に載っているシナノヤマヤチグモ *Celotes* sp であったが、現在日本産クモ類目録には載っていない、未確認種であった。

2日目

佐久市内に宿を取っていたので、小諸市に向けて午前9時に出発。助手席の師匠が地図帳を広げ、本日最初の採集地を決める。1カ所目は佐久市長土呂町の長福寺と周辺の水田、ここでは、師匠がシナノヤハズハエトリを採集したと喜んでいた。実は私も採集したつもりでいたが家で顕微鏡により確認したところ普通のヤハズハエトリであった。2カ所目は小諸市乙女町の乙女公園と糖塚山。ここで私が採集したキンヨウグモ成体は、背面模様が非常に綺麗であると言うので師匠に献上した。その後、車にガソリンを満タンに入れ我々も昼食をコンビニで購入して、一路高峰高原へ出発した。高峰高原の車坂峠にあるホテル駐車場は道路も含め観光客でいっぱいに入れなかったので、師匠の遠い記憶から湯ノ丸林道を池ノ平方向へ行ってみたが道を間違えたようで、群馬県の田代湖方向に向かっていた。

車内の高度計で1600メートル地点と確認できた所で車を停め、霧雨状の雨が降るなか車

内で食事を摂る。食後せっかくだから、ということで採集活動に時間を割く。その後再度、車坂峠に戻り車を駐車して、標高の高いところに生息するクモの痕跡を、沢山の人の目をはばかりながら検索するも手がかりを得ることなく終了。尚、昨夜見たオニグモ系の卵のうも人が多すぎて近づく事も出来ずに終わった。下に下りる途中で「野馬取湯の平」という林道があったので入ってみる。終点は浅間山荘という宿泊場所であった。駐車スペースに駐車し、採集活動に入るが面白いクモには出会えず。その後、小諸市内でホテルをチェックインし、夕食を兼ね夜間採集に出る。国道18号線から少し離れて小諸市柏木町の八幡弓神社に入る。この神社は杉林に囲まれた簡素な造りで、建物の周囲にオニグモが沢山見られた。次の場所は弓神社から約5キロ走った小諸市の隣にある御代田町の「真楽寺」という仏閣へ行った。この寺は広い敷地の中に三重の塔、五重の塔、社殿、回り舞台、祈祷所、水子供養塔など沢山の人工構造物が配置されており、田舎に有るせいか管理がすんで敷地を囲む金網もなく防犯設備は一切無かった。私たちにしてみれば一晩中でもクモを採集してみたいと思える場所だった。師匠に教わったクモとして、石垣の間にタイリクユウレイグモが居る、という。さっそく眼を皿にして石垣に取り付きユウレイグモとは明らかに違うタイリクユウレイグモを雌雄で採集する。教わったお返しで、昼間であれば売店になると思われる建物の軒先でニシキオニグモの雌成体を採集、師匠に献上した。

時期が良ければ、面白そうなクモが続々採れそうな場所であると確信できたが、気候的に無理があった。約2時間、時間と体力の許す限り採集活動に没頭した。

3日目

師弟ともども歳のせいか疲れが抜けず、午前10時に宿を出発した。今日は一気に南下し、以前所属する東京クモ談話会で合宿採集会を行った女神湖で、当時行けなかった立科町の御泉水自然園を目指した。季節的にクモの採集は絶望的であったが、下見をしておけば次の機会に準備が出来るという期待があった。ビジターセンターで入園料300円を支払ったが、歩くコースによっては料金不要の場所もあり勉強になった。珍しいクモどころか普通のクモも全然見られないので師匠が、アカオニグモの居る八島ヶ原湿原へ行こうと説き、ビーナスラインを通って湿原に行った。八島ヶ原湿原は、二十数年前に新婚のころ妻と二人で信州旅行をしたとき、たまたま立ち寄ってアカオニグモが沢山いることに驚いた懐かしい場所であったが、駐車場に車を置き、湿原の入り口に立つまで全く記憶にない場所であることが判明した。師匠曰く「数年前に入り口を造り替えた。」そうであるが、それにしても入り口から見える湿原の風景が全く記憶と違い最後まで納得できなかった。しかし、付近に類似の湿原は他に無く、妙に釈然としないまま湿原を後にした。次に私達は白樺湖畔まで戻り、コンビニで昼食を買っていたところ師匠に急な仕事の連絡が入る。まだまだ日は高く、絶好の採集日和ではあるが師匠の仕事が優先であった。急いで東京へ帰り、私達の採集旅行は尻切れトンボ気味に終了した。

採集場所（略称）

内山城址・・・・長野県佐久市内山町、内山城址

長福寺・・・・長野県佐久市長土呂町、長福寺と周辺の水田

車坂峠 ··· 長野県小諸市高峰高原、車坂峠（標高 1973m）
糖塚山 ··· 長野県小諸市乙女町、糖塚山（乙女公園も含む）
浅間山荘 ··· 長野県小諸市、野馬取湯の平林道の奥、浅間山荘周辺
八幡弓神社 ··· 長野県小諸市柏木町、八幡弓神社境内と周囲杉林
真楽寺 ··· 長野県御代田町、真楽寺の敷地内
御泉水 ··· 長野県立科町、御泉水自然園
八島ヶ原 ··· 長野県下諏訪町、八島ヶ原湿原
高峰林道 ··· 群馬県下、高峰林道の大沢川上流（標高 1600m）至田代湖方向

記号説明

♀ 雌成体 ♂ 雄成体 f 雌亜成体 m 雄亜成体 y 性別不明幼体 sp 種不明

採集リスト

ユウレイグモ科 Pholcidae

タイリクユウレイグモ *Pholcus opilionoides* (Schrank 1781)
真楽寺 ♀

ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* Bos. & Str. 1906
真楽寺 y

ヤチグモ科 Coelotidae

シナノヤマヤチグモ sp
車坂峠 ♀

ヒメシモフリヤチグモ *Coelotes interunus* Nishikawa 1977
浅間山荘 ♀

ヒメヤマヤチグモ sp *Coelotes michikooae* Nishikawa 1977
真楽寺 y

メガネヤチグモ *Coelotes luctuosus* L. Koch 1878
八幡弓神社 ♀

コモリグモ科 Lycosidae

アライトコモリグモ *Trochosa ruricola* (De Geer 1778)
八幡弓神社 ♂ 御泉水 y

ウツキコモリグモ *Pardosa astrigera* L. Koch 1878
長福寺 y

ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* Karsch 1879
長福寺 y

ヒラタグモ科

ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch 1878
内山城址 y 真楽寺 ♀

センショウグモ科 Mimetidae

センショウグモ *Ero japonica* Bos. & Str. 1906

真楽寺♂

ヒメグモ科 Theridiidae

オオツリガネヒメグモ *Achaearanea tabulata* Levi 1980

八島ヶ原♀ 高峰林道♀

オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* (C. Koch 1841)

内山城址♀y 車坂峠y 八幡弓神社y 真楽寺y

ハモンヒメグモ *Achaearanea simulans* (Thorell 1875)

高峰林道♀

ヒメグモ *Achaearanea japonica* (Bos. & Str. 1906)

内山城址♀

バラギヒメグモ *Takayus chikunii* (Yaginuma 1960)

内山城址♀

ムナボシヒメグモ *Keijia sterninotata* (Bos. & Str. 1906)

内山城址y

オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* (Simon 1888)

内山城址m 八幡弓神社y 真楽寺y

サラグモ科 Linyphiidae

クスミサラグモ *Neolinypbia fusca* (Oi 1960)

内山城址y 浅間山荘m

コシロブチサラグモ *Prolinyphia marginella* Oi 1960

御泉水y 高峰林道y

アシナガグモ科 Tetragnathidae

キタドヨウグモ *Metleucauge yaginumai* Tanikawa 1992

長福寺y 車坂峠y 高峰林道y

アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L. Koch 1878

長福寺♀

ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa* Thorell 1895

真楽寺y

エゾアシナガグモ *Tetragnatha yesoensis* S. Saito 1934

内山城址y

キンヨウグモ *Menosira ornata* Tikuni 1955

糖塚山♀

コガネグモ科 Araneidae

オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch 1878)

内山城址y 八幡弓神社y 真楽寺y

- ニシキオニグモ *Araneus variegatus* Yaginuma 1960
 真楽寺♀
- ムツボシオニグモ *Araniella yaginumai* Tanikawa 1995
 御泉水 y 高峰林道 y
- ヤエンオニグモ *Araneus macacus* Uyemura 1961
 長福寺 y 糖塚山 y 八島ヶ原 y
- ヤマオニグモ *Araneus uyemurai* Yaginuma 1960
 真楽寺 y
- オオクマヤミイロオニグモ *Araneus acusisetus* Zhu & Song 1994
 内山城址 y 真楽寺 y
- ヤマキレアミグモ *Zygiella dispar* (Kulczynski 1885)
 車坂峠♂
- ナカムラオニグモ *Araneus cornutus* Clerck 1758
 長福寺♀
- カラフトオニグモ *Eriophora sachalinensis* (S. Saito 1934)
 浅間山荘 y 御泉水 y 八島ヶ原 y 高峰林道 y
- ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* Bos. & Str. 1906
 糖塚山 y
- ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879
 内山城址 y
- エビグモ科 Philodromidae
- キハダエビグモ *Philodromus spinitarsis* Simon 1895
 八幡弓神社 m y
- カニグモ科 Thomisidae
- ワカバグモ *Oxytate striatipes* L. Koch 1878
 内山城址 y
- ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* Fox 1937
 糖塚山 m y
- セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus* Paik 1973
 八幡弓神社 y 真楽寺♀
- タカネエビスクグモ *Lysiteles maius* Ono 1979
 御泉水 y 高峰林道 y
- フクログモ科 Clubionidae
- アカギフクログモ *Clubiona akagiensis* Hayashi 1985
 車坂峠♂
- ハエトリグモ科 Salticidae
- オオハエトリ *Marpissa milleri* (Peckham & Peckham 1894)
 糖塚山♀

デニツツハエトリ *Plexippoides doenitzi* (Karsch 1879)

真楽寺 y

ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* (Latreille 1819)

長福寺 y 糖塚山 y

ヤハズハエトリ *Mendoza elongata* (Karsch 1879)

長福寺♂

アリグモ *Myrmachne japonica* (Karsch 1879)

糖塚山 y

科の配列は、2006. 11. 30新海栄一著「日本のクモ」に従った。

まとめ

クモを採集する季節として、絶対に行かない時期に出歩くこととなった。場所としては最高のロケーションと感じているが、服装が冬支度に近い格好で中途半端であり、これに伴い採集されたクモも幼体が多かった。ただ成体も若干見られたが今年の生き残りと越冬準備中と思慮された。車坂峠の建造物周囲に多数見られたシナノヤマヤチグモ sp は丁度この時期が交尾期間のよう♂の徘徊が数例観察できた。師匠は♂♀両方を採集していた。また、アカギフクログモの♂も多数徘徊していたので繁殖時期と思われる。

プライベートな旅行と言うことで見たいクモだけを探す目的があるため、各地を廻っても真剣に採集活動をしている訳ではない。道具類もビーティング、シフティング等が出来る機材は持って行くが使わないことが多い。また、リストとして発表はしているが私だけの採集品で、師匠である新海栄一氏の記録はご本人が所持する秘密ノートに記載されており、例え弟子であっても見ることは出来ない。いつか親族の新海明氏が公開してくれるであろう。

ジョロウグモの横糸の分子構造研究

矢部 寛延・片山 詔久
名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究科

クモは様々な種類の糸を張る。今日では、クモの牽引糸は強靭な物性から工業化が注目されている。それに対して、造網性のクモの巣の中で横糸は弾性が最も特徴的であり [1]、一般に知られている“くっつく糸”である。このような優れた弾性を再現するには蛋白質配列のみならず、詳細な立体構造を知る必要がある。しかし、牽引糸では蛋白質配列が知られているが、横糸の詳細な立体構造は知られていない [2]。また、図1ではジョロウグモの横糸や横糸と縦糸との接点を走査型顕微鏡で観察した写真であるが、この測定からは形状は観察できても分子レベルでの構造評価は議論できない。そこで、ジョロウグモの横糸について分子構造の研究を試みた。

ジョロウグモを選択した理由は、比較的採取が容易で大きな円網をつくることや、活動時期が7月～12月と長いことから実験材料として適していることのほか、他の造網性のクモと比較していくつかの特徴があるためである [3]。今回は、名古屋市（平和公園、名古屋大学）に生息するジョロウグモを研究対象とし、赤外分光法によって横糸の分子振動および分子配向を研究した。赤外分光法は、赤外光を当てて吸収された赤外光の強度を測定することで、分子の状態を知る手法である。横糸に分子振動と同じエネルギーの光を当てると光のエネルギーを吸収するが、このとき入射した光から透過した光を差し引き、吸収された光から糸の分子振動の情報を知ることができる。このように、赤外吸収法からジョロウグモの横糸の分子構造を観察した。

まず、一般的な横糸の赤外吸収スペクトルを図2に示す。縦軸の吸光度は吸収した光の量を表し、吸光度の数値が高いほどその分子の存在量が多いことを示している。単位Absorbanceは対数で表され

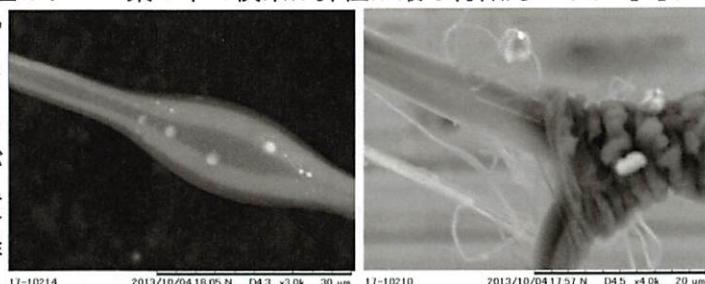


図1 走査電子顕微鏡を用いた横糸の様子
左は粘球に覆われた横糸、右は縦糸と横糸の接点

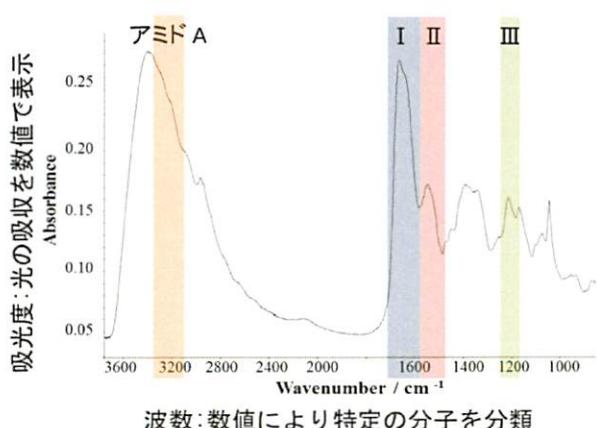


図2 横糸の赤外吸収スペクトル

た数字で、Abs が 0.1 では横糸の分子が赤外光を 20.57% 吸収していることになり、Abs が 1 では分子が 90.00% 吸収することになる。次に横軸は波数を表し、その数値から分子結合や分子構造が区別される。図 3 に各アミドバンドのグループ振動を示す。波数 3200cm^{-1} はアミド A と呼ばれ O-H、N-H の分子の伸縮振動であり、 1650cm^{-1} はアミド I で C=O 伸縮振動を表す。 1500cm^{-1} はアミド II で主に N-H の変角振動を表し、C-N の伸縮振動も含まれている。また、 1240cm^{-1} はアミド III で主に C-N の伸縮振動を表し、N-H の変角振動も含まれている。

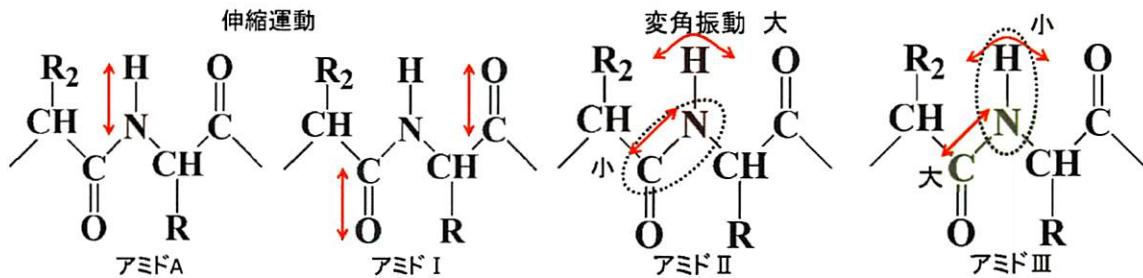


図3 アミドの各グループ振動

赤外分光法を用いた横糸の分子構造の測定は次のように行った。まず、粘球のついている横糸とついていない横糸の赤外吸収から、糸蛋白質と粘球の分子構造の違いを研究した。図 4 の PerkinElmer 製のフーリエ変換赤外分光光度計 SpectrumOne を用いて、分解能は 4.00 cm^{-1} 、積算回数は 128 回を用いて赤外透過測定を行い、 $100\mu\text{m}$ のアパー チャーを用いた Multiscope ユニットにより、より範囲の狭い測定を行った。

横糸の粘球は横糸を水に浸することで粘球を除くことができる。この方法では糸蛋白質も水に浸すことになるので、そのままの状態の糸蛋白質を厳密に測定できない。しかし、粘球の成分は親水性であることや、牽引糸を水に浸しても変化がみられないことから大きな影響を与えないと推測した。まず、横糸の適切な赤外スペクトル測定方法を検討した。通常糸に直接赤外光を照射すると、図 5 左の上部の赤外スペクトルのようなベースラインの乱れを起こした。これは空気の光の屈折率が 1.0 であるの対し、糸の赤外光屈折率が 1.5 程度であることから反射や屈折を起こしたと考えられる。

そこで、今回は図 5 右のような CaF_2 板を基盤としてその上に糸を乗せて測定した。このような赤外に透明な CaF_2 板に横糸を乗せることで、ベースラインを整えることができた。これは、図 6 で表されるように屈折率の近い CaF_2 板に糸を乗せることによって糸を透過する赤外光の屈折を抑えることができたからであると考えられる。

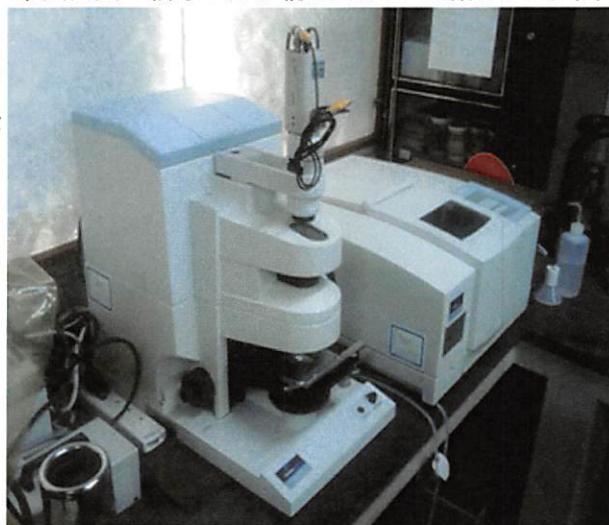


図4 フーリエ変換赤外分光光度計

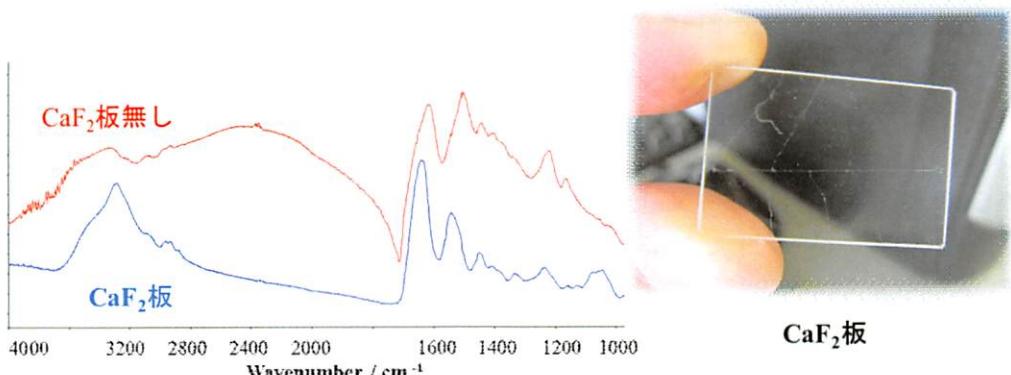


図5 CaF_2 板を用いた赤外吸収スペクトルの測定

図7は粘球の有無による横糸の赤外スペクトルを比較したものである。上部の赤外スペクトルが粘球を含んだ横糸、真ん中は粘球を除いた横糸であり、下部は比較として牽引糸の吸収スペクトルである。

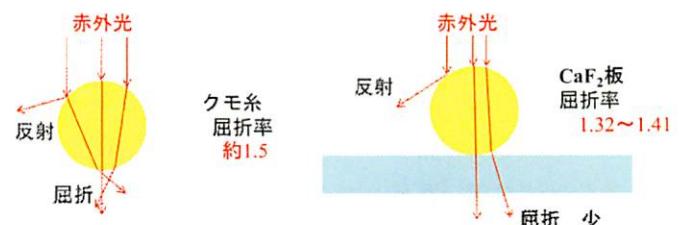


図6 CaF_2 板による赤外光の屈折の減少

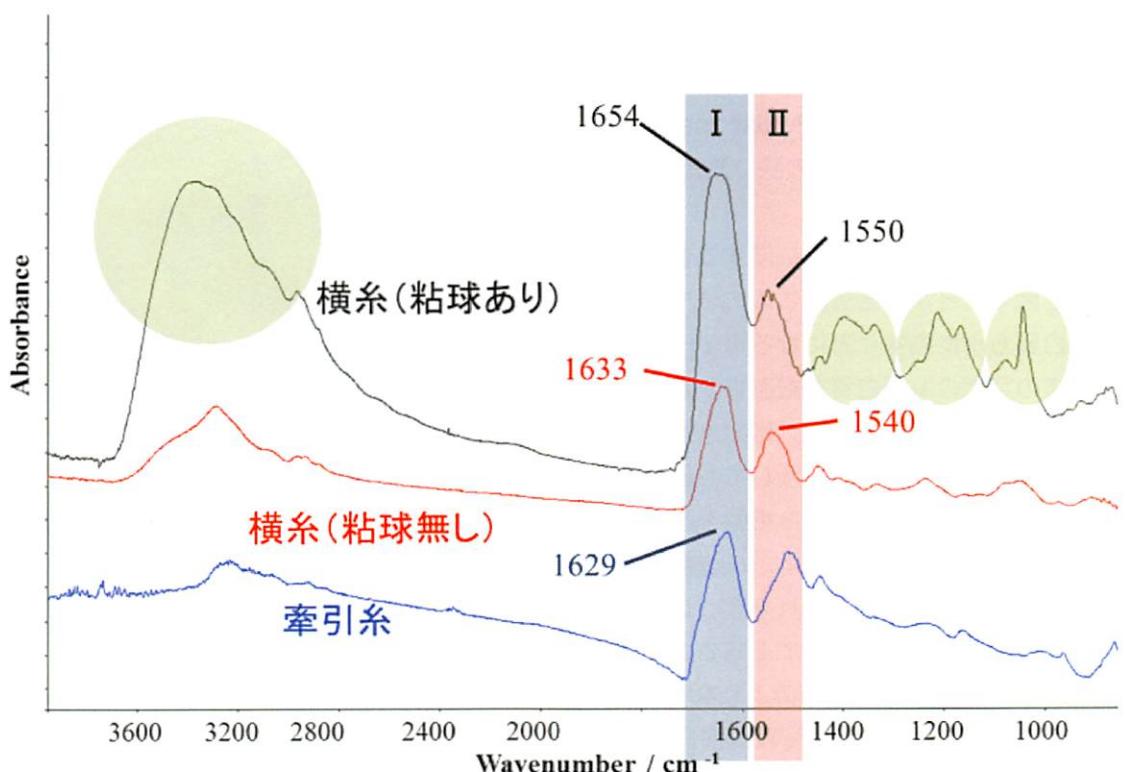


図7 粘球の有無による横糸の赤外スペクトル

粘球を除いた横糸のスペクトルと、牽引糸のスペクトルは 3200cm^{-1} に違いがみられるが糸蛋白質の構造に大きな差異は見られなかった。一方、粘球を含んだ上部のスペクトルには他の二つのスペクトルにはみられない特徴的な 4 つのバンドがみられた。このことからこのバンドは粘球の成分によるものだと考えられる。中でも、 3200cm^{-1} にみられる特徴的なバンドは水分の O-H 伸縮振動によるものと考えられる。また、牽引糸は偏光測定による構造の差異がみられたのに対し、横糸にはみられなかった。これは牽引糸の糸軸方向と垂直方向の分子の向きが異なることを表している。一方、横糸では分子の向きの秩序が整っていない。この違いが牽引糸の強靭さと、横糸の弾性力を生む特徴であると考えられる。

次に、アミド I、II バンドそれぞれに粘球と糸蛋白質の成分の特徴がみられた。

	アミド I	アミド II	アミド III
α -ヘリックス 構造	1650	1516 弱	1270
	1652	1546	1274
β シート 構造	1685 弱	1530	1221
	1632	1550 弱	1240
不規則構造	1656	1535	1246

表 I 蛋白質の各バンドの帰属
単位 cm^{-1} 、上段：並行偏光、下段：垂直偏光

表 I は各バンドにおける、図 8 で示す α -helix、 β -sheet ような蛋白質構造に帰属される波数を表したものである [4]。 α -helix は分子がらせん構造をとっており、 β -sheet は分子が並行に平面構造をとっている。測定した赤外スペクトルの各ピーク波数について検討すると、粘球を含んだ横糸におけるアミド I の吸収波数は α -helix 構造のそれを値した。一方、粘球を除いた横糸のアミド II の吸収波数は β -sheet 構造のそれを値した。以上から、粘球の成分は α -helix 構造に富んでいることや、糸蛋白質の成分は β -sheet 構造に富んでいることが明らかとなった。

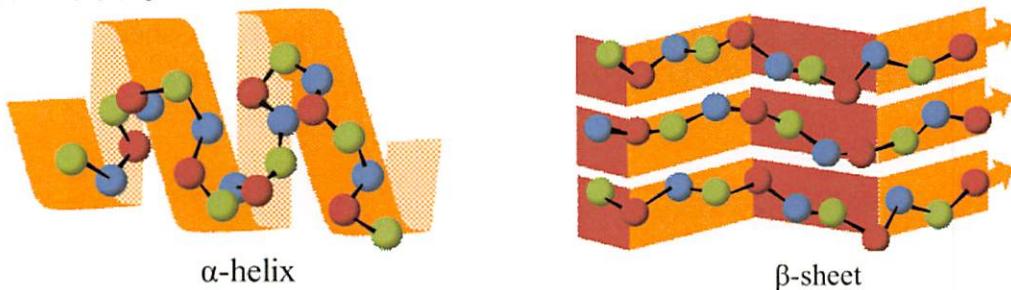


図8 α -helix、 β -sheetの構造

次に、横糸の耐久性に関して分子構造学的な知見から検討した。ジョロウグモは規則的に網を張り替えるクモとは異なり、一晩で張り替えることもあれば、二週間ぼろぼろの網でも平然としていることもある。この要因は糸の劣化が関係しているのではないかと仮説を立て、その劣化の度合いを分子構造から考察した。

図 9 は横糸に紫外線照射する前後での赤外スペクトルを比較したものである。紫外線はハンディー UV ランプを用いて 254nm の紫外線を 24 時間照射し続けた。その結果、粘球を含んだ横糸で構造の変化がみられたのに対し、粘球を除去した横糸では赤外スペクトルの変化は見られなかった。

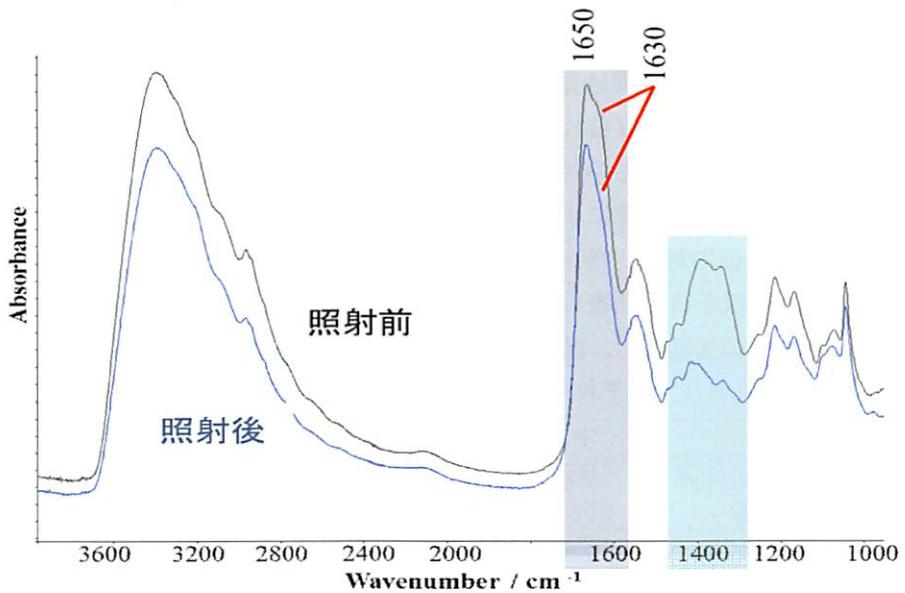


図9 紫外線照射による横糸の赤外スペクトル変化

この実験によって、紫外線照射により 1400cm^{-1} の粘球の赤外吸収バンドが減少しているが、他の粘球のバンドにはみられなかった。このことは、紫外線により粘球の一部の成分に分解や構造変化が生じたと考えられる。一方、アミド I バンドでは β -sheet に帰属されるショルダーバンドのみ吸収の減少がみられた。この結果は、粘球が α -helix に富んでいることや、粘球を除いた横糸では紫外線照射による変化がみられなかったことから、単純に糸蛋白質または粘球の β -sheet が減少しているとは結論できない。したがって、粘球に覆われていることで糸蛋白質が影響を受ける要因が示唆され、今後深く研究する必要がある。

次に、横糸を熱したときのスペクトル変化を図 10 に示す。まず、加熱と同時に 3200cm^{-1} の水の吸収が減少した。 1400cm^{-1} の特徴的な粘球の成分は 160°C まで構造を保持して、 180°C から構造の変化がみられた。また、アミド I、II とともに β -sheet によるショルダーバンドが 60°C から減少しており、蛋白質分子構造の変化がみられた。

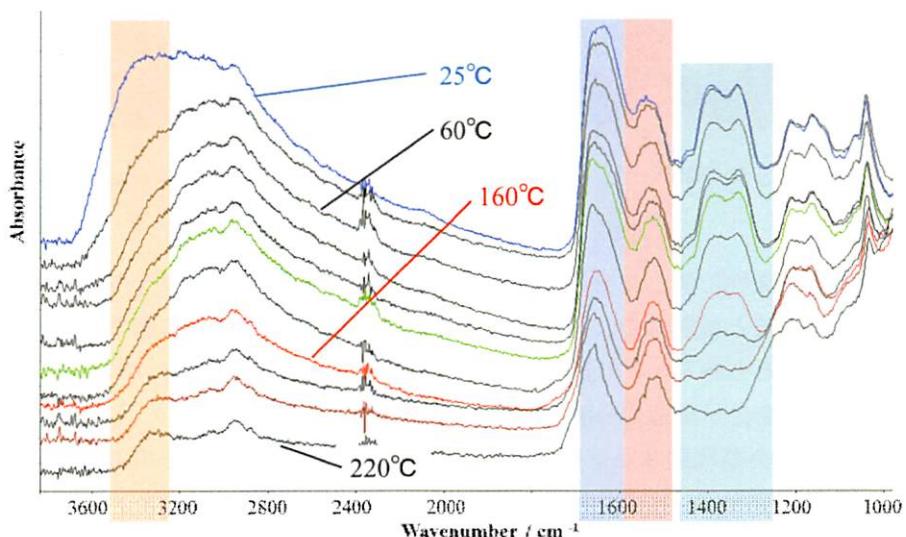


図10 過熱に伴う粘球を含んだ横糸の赤外スペクトル変化

一方、粘球を除いた横糸での加熱による赤外スペクトル変化を図11に示す。

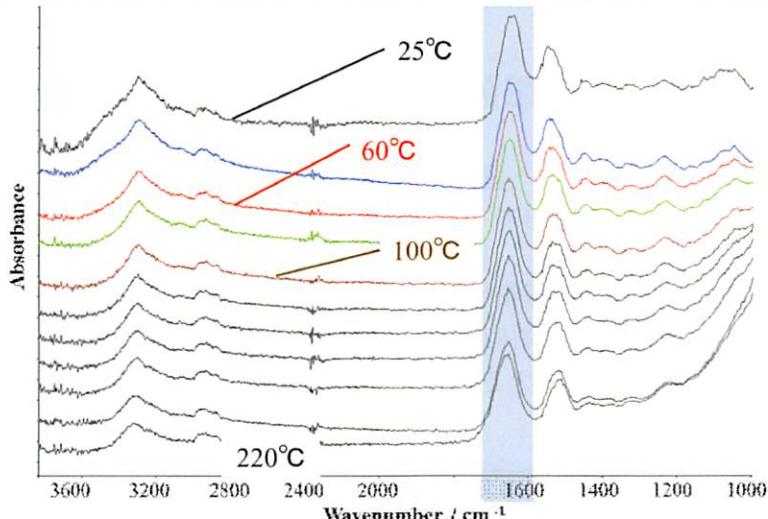


図11 過熱に伴う粘球を除いた横糸の赤外スペクトル変化

粘球を含んでいる横糸が 40°Cまで蛋白質分子構造を保持していたのに対して、粘球を除いた場合では 100°Cまでスペクトル変化はみられなかった。さらに 100°C以上での吸収の減少はアミド I の β -sheet にのみ構造の変化がみられた。以上の結果から、熱に対して粘球の成分自体は 160°Cまで、糸蛋白質は 100°Cまで構造を保持する。しかし、粘球が糸蛋白質を覆うと 60°Cで構造が変化した。変化した 60°Cは粘球自体の構造保持温度の 160°Cより低温であることから、紫外線照射同様に粘球が糸蛋白質を覆うことで影響を持つと考えられる。

結論として、今回の分子構造学的観点に基づいた研究から、横糸は牽引糸に比べて糸蛋白質の糸軸方向と垂直方向に分子の向きの秩序が整っていないことが大きな物性の違いであることが分かった。また、粘球と糸蛋白質はそれぞれ熱や紫外線に対する耐久性が異なり、糸蛋白質を粘球が覆うことで糸蛋白質とは異なる性質を示すことが示唆された。

このように、赤外分光法を横糸の分子構造解析に用いることで、X 線構造解析などの手法に比べてより自然な状態での横糸を簡便に測定できたと共に、ジョロウグモは横糸を粘球や糸蛋白質の性質を使い分けて、優れた弾性で獲物を捕らえていることが示された。今後、より詳細な粘球の構造を研究することで粘球の役割を深めていく予定である。

参考文献

- [1] 北川正義、ジョロウグモの引き糸と横糸の構造と変形、材料、46、470-474 (1997) .
- [2] A.H.Simmons, C.A.Michal and L.W.Jelinski, "Molecular orientation and two-component nature of the crystalline fraction of spiders dragline silk" Science, 271, 84-87.
- [3] 浅間茂、石井規男、松本嘉幸、野外観察ハンドブック 校庭のクモ・ダニ・アブラムシ、全国農村教育協会 (2001) .
- [4] T. Miyazawa and E.R.Blout, "The Infrared Spectra of Polypeptides in Various Conformations: Amide I and II Bands " Journal of the American Chemical Society, 712-719 (1961) .

単眼欠如のクモ (II)

貝 発 憲 治
515-0088 三重県松阪市萌木町 7-4

35 年ぶりに単眼欠如のクモを採集したので報告する。この個体は写真のように、左側後側眼、左側前側眼、右側前側眼、右側前中眼の 4 眼が欠如している。左側後中眼は、右側後中眼より半眼後方にずれており大きさもやや小さい。また、左側前中眼は中央にずれている。

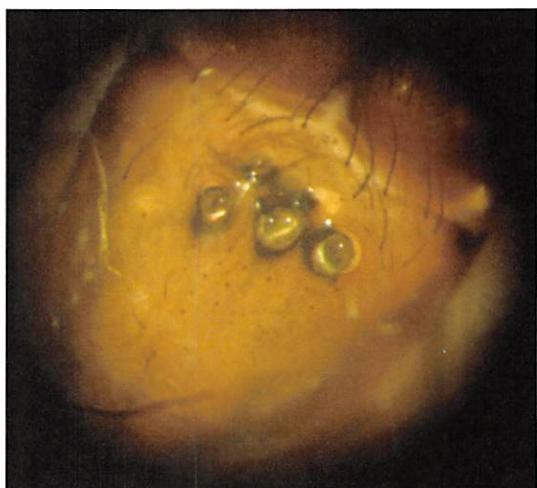


写真 I 上方から撮影（右側前中眼付近
に小さな黒斑がある）



写真 II 前方から撮影

採集記録

種名：カミガタヤチグモ ♂成体

採集日：2012年10月13日

採集場所：三重県鳥羽市神島

過去に見られた単眼欠如例

ジグモ *Atypus karschi* Dönnitz 1887

♀亜成体 1952.9.25 大阪府堺市中深井町 右側後中眼欠如 (1 眼)

オウギグモ *Hyptiotes affinis* Bösenberg & Strand 1906

♀亜成体 1952.8.18 香川県小豆島 右側前中眼欠如 (1 眼)

ハラビロセンショウグモ *Australomimetus japonicus* (Uyemura 1938)

♀幼体 1965.7.28 島根県松江市持田町北山 両側後中眼欠如 (2 眼)

ヤハズフクログモ *Clubiona jucunda* (Karsch 1879)

♂幼体 1966.2.13 島根県松江市西川津町

右側前側眼、右側後中眼、右側後側眼欠如（3眼）

ヒノマルコモリグモ *Arctosa ipsa* (Karsch 1879)

♂成体 1977.11.5 三重県四日市市河原田町

左側前側眼、左側後側眼以外の6眼欠如（6眼）

アシハラメキリグモ *Gnaphosa primorica* Ovtsharenko Platnick & Song 1992

♂成体 1994.4.7 千葉県柏市 右側前側眼、右側後側眼以外の6眼欠如（6眼）

ミヤグモ *Ariadna lateralis* Karsch 1881

♀ 2005.10.23 長崎県平戸島白岳 右側後中眼欠如（1眼）

参考文献

大志茂善平,1953. 蜘蛛の奇形数例 ,*Atypus*.4 : 7-8.

景山純孝,1966. ハラビロセンショウグモとヤハズフクログモにみられた単眼の奇型について ,*Atypus*.40 : 1-2.

貝發憲治,1977. 単眼欠如のクモ ,*しのびぐも* .5 : 21-22.

H.Ono&Y.Kudo,1996.The Ocular Anomaly in a Ground Spider (Araneae:Gnaphosidae) from Japan,*Acta arachnol.*45(1) : 73-75.

奥村賢一,2007. ミヤグモの単眼消失個体 ,*KISHIDAIA*. 91 : 40.

石垣島・西表島探蛛行（2013.4.15～4.19）

塙崎 哲哉

〒519-5203 三重県南牟婁郡御浜町下市木 2338-1

発端は、中部蜘蛛懇談会総会の後の懇親会の席上だった。緒方さんから、西表島へ行くとの話を聞き、酔った勢いもあり、一緒に連れてってよ、と言ったのが始まりだった。家に帰り、冷静になって考えてみると、これは家族旅行の計画だったのではないか、などと思われ出し、都合が悪ければ取り消しますとの連絡をしようと考えているところへ、緒方さんから電話があり、是非行きましょうとのこと。迷惑をかけていないかと聞くが、大丈夫のこと。その後は、飛行機や宿の手配の一切を緒方さん（の娘さん）にお世話をかけることになった。

緒方さんとは、日本蜘蛛学会の沖縄大会の折りに、終了後、やんばる方面と一緒に採集しながら歩いた楽しい思い出がある。今回訪れる西表島は私にとって初めての訪問である。石垣島は、数年前仕事で訪れる機会があったが、その合間に少し採集しただけで、十分な調査はしていない。出発までの間、西表島のフィールドガイドなどを求め、あれを採集したい、これを見てみたいと、彼の地に思いを馳せながらのわくわくする日々を送る。緒方さんとも観察地のポイントなどをメールでやりとりしながら、出発の日を迎えることになった。

4月15日

宿泊するとその後8日間は無料で駐車させてくれるという中部国際空港近くのホテルで、目が覚めると外は明るくなっている。遅刻しては大変だと緊張感からか、少し早く目が覚めたようだ。やがて、日の出。宵張りで朝寝坊の自分としては、久しぶりに日の出を見る。チェックアウトし、電車で一駅の中部国際空港につくと、緒方さんはすでに到着している。大変な荷物だ。撮影機材をたくさん持ってきてる。野鳥撮影用も入っているようだ。搭乗手続きをし、トランスオーシャン航空で那覇を経由して石垣島へ。3月に開港した新石垣空港へ13時過ぎに到着。レンタカーの予約はしていなかったが、車がないと身動きがとれない。石垣港の近くで返すことができるのであれば借りようかと、空港に迎えに来ているレンタカー会社に聞くとOKだというので、借りることとする。宿に入る前に調査しようということで、どこへ行こうかと思案したが、何年か前に於茂登岳に登ったとき、登山口付近の環境が良かったことを思い出し、調子の悪いレンタカーのカーナビを操作しながら於茂登岳（石垣市平得）の登山口へ向かう。

登山口への入口手前の道沿いを走っていると、クワズイモが茂っていたりして環境が良さそうな所がある。まずここで採集することに。クワズイモの葉裏でヒメユウレイグモが造網している。道路脇の崖に鉄の矢板が打ち込まれており、ヒメグモの仲間が造網している。ケアシハエトリも2頭採集する。1頭は卵のうをガードしていた。地表には卵のうを抱えたPirata sp. もいる。1時間あまり採集撮影した後、於茂登岳登山口への入口に向かう。入口の所に車を置こうとすると、居合わせた人が登山口まで車で入れるというので、少しうかるんだ地道を進んで少し広くなっている登山口まで行き、駐車する。広場のすぐ下を小さな沢

が流れている。大きな石もなく、イシガキアオグロハシリグモの環境としてどうだろうね、などと話しながら付近を調査する。沢を少し遡ると岩の積み重なりの中から水が流れ出ており、ここならイシガキアオグロハシリグモがいそうな感じだ。が、それより奥は藪になっており入れそうにない。付近の立木で緑色をしたきれいなザトウムシを見る。その近くに、地元の人々がヤマンギといっておそれているというイワサキカレハの幼虫を見る。皿網を張っているのはムネグロサラグモだろうか。緒方さんがヤエヤマナガイボグモを見つける。そうこうしているうちに18時をまわったので、石垣港に向かい、離島ターミナルの前にある宿にチェックインする。

近くの食堂で夕食をとり、一息ついたあと、再び於茂登岳登山口へ夜間採集に出かける。まず昼間調査した道沿いの少し先を調査する。緒方さんが道路脇側溝のところでサソリモドキを見つける。登山口への入口の所へ車を置き、登山口まで歩く。夜の森の中はいろんな生き物の気配でぎわっている。何種類かのカエルの声が聞こえる。ようやく1頭を見つけ写真を撮る。もう一つ別の種類のきれいな声でなくカエルがいる。道のすぐ脇で鳴いているのだが、いくら探してもどうしても見つけられない。少し離れるとまた鳴き出すが、探そうとすると鳴き止み、探しても見つからない。そんなことを何度も繰り返し、おちょくられていると緒方さんが怒る。その他、カニの仲間、ゴキブリの仲間、ホタルなどの写真を撮りながら登山口に向かう。沢に入りイシガキアオグロハシリグモを探す。石めくりをしていると、幼体がいた。水の流れ出している岩のところで緒方さんが♀成体を見つける。付近を探し、何頭かの個体を見つける。23時30分、切り上げて宿へ戻る。標本を整理したり、シャワーを浴びたりで、就寝したのは1時半をまわっていた。



イシガキアオグロハシリグモ

4月16日

今日は西表島へ渡る日だ。7時起床。朝食後、荷物をまとめレンタカーを返しに行くが、港の駐車場に乗り捨てていいと言うので、港に戻り、駐車場に車を置く。9時40分発の船で西表島へ向かう。船から見る西表島は、結構山がちな島だなという印象。山頂には雲がかかっている。滞在期間中あまり天気予報は良くない。ここは晴れ男を自認する私の神通力を信じるしかない。10時半ころ西表島大原港に到着。しばらく前から島に来て鳥の調査をしているという緒方さんの友人の真野さんという方が迎えに来てくれており、挨拶する。緒方さんがレンタカーを借りに行ってくれている間、休憩所をぶらぶらしていると、天井の片隅にゴミがいっぱいいくついたたくさんのクモの網が。よく見ると、トゲゴミグモである。ゴミと思ったが、その一部は卵のうだった。写真を撮ろうとするが、



緒方さんと真野さん

風に揺れてうまくとれない。そこへ緒方さんがレンタカーを借りて戻ってくる。真野さんが、ちかくの植え込みにイワサキクサゼミがいるというので見に行く。15mmほどの小さなセミである。そっと指をさしのべるとその上にのっかってくる。指の中にすっかりと収まってしまう大きさである。

とりあえず今日からの宿であるラティーダ西表に向かう。フロントに聞くとまだチェックインはだめだと言うので、あらかじめ送っておいた採集道具等の入った段ボール箱を受け取る。その後、真野さんの案内で南風見田浜方面へ向かう。途中、野鳥観察のために車を停める。緒方さんと真野さんは鳥談義。ムラサキサギという珍しいサギを間近で撮影したという真野さんの話にし緒方さんがうらやましがっている。途中の電柱のてっぺんにカンムリワシが止まっている。さっそく緒方さんは写真撮影。このカンムリワシは国の特別天然記念物であり、RDBの絶滅危惧IA類である。ワシというが、あまり精悍さのないワシだ。この後もあちこちで見ることができた。他ズアカアオバト等を見ながら南風見田浜への入口まで行き車を停める。ここから浜への道を、緒方さんは道の左側、自分は右側をビーティングする。(この後も、ビーティングをするときは緒方さんが道の左側、自分は右側との暗黙の了解が出来上がった)。ヘリジロツケオグモやコキハダカニグモ、ハエトリグモの仲間、ハグモの仲間などが入る。青い色をしたカタツムリを見る。1時ころになって、真野さんが、遅くなると食堂が閉まってしまう、と言うので切り上げる。来た道を戻り、満八食堂という食堂へ入り、豆腐チャンブルで昼食をとる。



ビーティングする緒方さん

午後は真野さんの案内で大富遊歩道へ行くことに、ここは事前に谷川さんと緒方さんの友人の虫屋さんから紹介された場所のひとつでもある。二人から紹介されたポイントのいくつかは共通しており、分野は違っても、いいポイントは同じようだ。遊歩道入口のところが少し広くなってしまっており車が停められる。もう少し先にゲートがあり、そこまでは車で入ることができることである。遊歩道入口の所からは東の方向にも道が分岐している。真野さんはいったん宿に帰るとのことと別れる。我々はゲートまで車を進めることに。途中、何かの調査をしているのか、それらしい格好をして歩いている女性を一人見る。ゲートの手前にフェンスで囲われた水道施設だろうか、がある。道の脇には植栽だろうヤエヤマヤシの木が何本か立っている。準備をしていると、先ほどの女性がやって来る。聞くと、カラスバトを調べているとのことで遊歩道を歩くとのこと。我々も準備を整え、ゲートの脇をすり抜けて遊歩道へはいる。右左に別れてビーティングをしながら道を辿る。途中の水たまりにはチョウが吸水している。木の枝で見たのはミナミヤモリだろうか。1時間余りのビーティングの後、ゲートの所まで戻る。

再び遊歩道入口まで戻り、今度はそこから東の方向に分岐している道沿いを調査することに。ビーティングしながら奥に向かう。途中のぬかるみで動物の足跡を見つける。イリオモ

テヤマネコの足跡ではないかと、写真を撮る（後日、野生生物保護センターで、石膏で型どりしたイリオモテヤマネコの足跡をみるが、そのサイズはもっと小さく、ここで見たものはヤマネコのものではないと判明する）。水たまりにはたくさんのオタマジャクシがいる。大きな木の根元にジョウゴグモの網らしきものを見るが、巣穴が木の根元の奥に向かっているため採集を諦める。崖地ではキムラグモがないかと探すが見つからない。ここでも1時間余り調査する。

宿のチェックインがまだのため、適当に切り上げ、宿に向かいチェックインする。部屋は別棟の2戸建ての一室で、床も広い。荷物を広げるのに最適である。また、フロントを通らず駐車場から直接入れるので、夜遅く帰ってきてても大丈夫だ。

部屋で一息した後、夜間採集に出かける。途中、でいご食堂にて夕食。真野さんと落ち合い、再び大富遊歩道入口に向かう。途中、ヤエヤマイシガメを見る。遊歩道入口から東に続く道に入る。と、道の向こうから暗闇の中を何かが盛んに飛んでくる。コウモリである。次から次ぎへと切れ間がない。写真撮影を試みるが、ピンボケでまともに写っているのは一枚もなかった。さらに奥へ進む。と、今度は前方から人の声がする。ガイドらしい男性が数人の年配の女性を連れてやって来る。ナイトツアーのようだ。まっ黒で大きなゴキブリがいる。木の幹にはヤモリの仲間が、木の枝からぶら下がって、ハエトリグモ sp. がコオロギのようなものを補食しているのを見つける。それを撮影していると、ハブがいる、との声が。大きな三角の頭をしたサキシマハブがゆっくりと茂みの中に入していく。とたんに、足下が気になりだした。緒方さんが木の幹にヤエヤマナガイボグモを見つける。撮影していると、真野さんがここにもいる、あそこにもいると次々と見つけ出してくれる。夜、懐中電灯の光で探す方が見つけやすいようだ。大木にいる、と聞いていたが、直径5cm位の細い木の幹にもいたのは意外であった。あまり常識にとらわれない方がいいのかもしれないね、などと話す。昼間見つけたジョウゴグモの網をそっと覗くと、いるいる、大きな黒いクモが。いたよ、と緒方さんに声をかけた瞬間、網の奥に逃げ込んでしまった。木の根の奥で、採集できるような所ではないと諦める。遊歩道入口まで戻り、車でゲートまで行き、ゲートの先を少し覗く。あちらこちらでリュウキュウコノハズクが鳴いている。ゲートの所から川の方へ向かう道の途中でオオクイナの声を聞く。なかなか姿を見ることの難しい鳥だそうだ。真野さんが集音器を使って録音する。帰路、リュウキュウコノハズクの撮影などをしながら宿に戻る。石垣島と、南風見田浜への道で採集した標本の撮影や整理をし、寝たのは1時半をまわっていた。

4月17日

眠い眼をこすりながら起床。7時からの朝食の後、昨日採集した標本の撮影と整理。その後、真野さんと落ち合い、谷川さんに教えてもらった祖納岳方面へ向かう。島をぐるっと回った反対側だ。途中、古見のサキシマスオウノキ群落（国指定天然記念物）を見る。大きな板根が見事だ。大きなものは私の背丈を超えていて、干潟にはマングローブの仲間が群落をつくっている。その根元に群れている大きな巻き貝はキバウミニナだろうか。大きな土の塔はオキナワアナジャコのつくった塚だという。その先、途中、古見岳の登山口を確認し、船浦湾でヒナイ滝を遠望する。

上原の新八食堂で野菜そばを食べ、祖納岳麓の墓地へ。ここで谷川さんがヤエヤマサソリ

を見たという。石をひっくり返していると、いたいた、大きなタイワンサソリモドキである。撮影していると酢酸のにおいがする。近くでもう1頭見つける。積み上げられた瓦をひっくり返していると飛び出してきたのはヤエヤマシボグモだ。石の下からヤエヤマジョウゴグモが見つかる。ヤエヤマサソリがいるよ、と声がかかる。墓地の脇のブロックの下に潜んでいたとのこと。ひとときの観察採集を楽しんだ後、さらに車を進め祖納岳登山口に向かう。

林道終点の広場に車を停める。真野さんはここで宿に帰ること、準備を整え、緒方さん



ヤエヤマサソリ

と登山道に入る。ビーティングをしていると、緒方さんから、ジョウゴグモの網ではないかと声がかかる。見ると、木の根元から棚網状の大きな網が張り出している。探してみると、近くにいくつかそのような網がある。採集しようとするが、巣穴が木の根元に向かっているやつは、その奥に逃げ込まれるとどうしようもない。緒方さんが、張り出した木の根の下に巣穴のあるやつの採集を試みる。幸い根の下を通って反対側にも通じているようだ。これなら反対側から追い出せそうだ。手前側と反対側から、七つ道具を駆使して追い出しにかかる。と、真っ黒い、巨大なものが飛び出した。緒方さんは思わず手を引っめる。そのときの緒方さんの驚いた顔が忘れられない。体長が30mmもある見事なオオクロケブカジョウゴグモである。広場に持ち出して撮影タイム。赤褐色の大顎と牙はいかにも獰猛そうである。牙を振り上げて威嚇してくれる。

こうなると自分も採集しないとおさまらない。いくつか試みるが、どの巣穴も木の根元に向かっていて手が出せない。諦めかけたとき、巣穴が根元に向かっているが、その幹の少し上に5cmほどの穴が空いていて、そこにも糸が少し張り巡らされているのに気づく。これは、中で通じているに違いないと判断して、緒方さんにも手伝ってもらいながら採集を試みる。下から突っつき、上の穴から突っつきするが出てこない。そのうち、下から突っついでいるとき、穴を通り過ぎて上へ走り抜ける黒い影を確認する。なんと、幹の中の空洞は穴の上部にまで続いているのだ。今度は穴の上部をつつつく。と、黒い影が穴を通り過ぎて下へ走る。下からつつつくと、また上へ。らちが明かないので、穴の中に落ち葉や土を詰め込んで下に逃げられないようにする。そのようにしてから、穴の前に捕虫網をセットし、準備万端。穴から上部をつつつくと、ねらいどおり、黒い影が捕虫網の中に飛び込む。小一時間もの悪戦苦闘の末、ついにゲット。二人とも大きな安堵のため息とともに笑うしかなかった。

ジョウゴグモとの格闘に疲れ果て、帰路につく。途中子午線モニュメントを見る。なんと



オオクロケブカジョウゴグモ

ここは東経123度45分6.789秒の地点であるそうだ。うまく数字が並んだものである。その先、緒方さんがずいぶんと昔に歩いたという干立の集落を見、浦内橋近くの展望台からマングローブ林を見、船浦橋の所ではセイタカシギの群れを見、道路の途中に立っているヤマネコ注意の看板を撮影したりしながら大原まで戻り、でいご食堂で夕食をとる。

夕食後、そのまま夜間調査に向かう。大富遊歩道入口のところで真野さんと合流し、ゲートの所まで車を進め、遊歩道を調査することに。車を降りると、真野さんが、ハブがいると言う。見ると水道施設だろうか、フェンスで囲われた中にとぐろを巻いている。これは気をつけねばと、長靴に履き替え、遊歩道に入る。と、またハブがいる。なんとこの先100mほどの間に6匹ものハブを見る。その一つを緒方さんは踏んづけそうになる。そんなこんなで、足下に注意を払いながらの調査となる。リュウキュウカジカガエルやアシダカグモsp.などを観察採集しながら調査する。ゲートに戻ったところで真野さんは先に帰る。我々は美しい太腿、オッと間違い、フトモモの花を撮影したり、リュウキュウコノハズクを撮影したりしながら、24時前宿に帰着。シャワーを浴び、泡盛を飲んで就寝。



サキシマハブ

4月18日

起床、朝食後、11時ころまで標本撮影や整理。その後、真野さんと合流し、途中のスーパーで弁当を仕入れ、古見のサトウキビ畑奥の駐車地へ。昼食後、駐車地から奥に続く農道を調査する。農道に入ってすぐヤエヤマセマルハコガメを見る。腹側の甲羅が蝶番状になっていて、頭や手足を完全に甲羅の中に引っ込めることができる。見ていると、そっと頭を出し、手足を出してきたと思ったら、その動きは意外と素早い。たちまち茂みの中に逃げ込んでしまった。農道に沿って調査するが、足下が結構茂っている。昨夜のことを思い出し、足下を確認しながらの調査となる。結構気温が高く、汗をぬぐいながらのビーティングである。一通り調査し、駐車地に戻る。ここで真野さんは先に帰る。駐車地の付近ではチョウやトンボがたくさん飛んでいる。友人の虫屋さんへのおみやげにと採集したり撮影したりでひとときを過ごす。

その後、古見にある野生生物保護センターを見学する。西表島の動植物について、剥製やパネル展示で詳しく説明している。見学の後は、南風見田浜方面へ向かい野鳥の観察。緒方は、真野さんが途中の湿地で見たというムラサキサギを見たがっていたが、空振りであった。

さて、今日はレンタカーを返さなければならない。途中のスーパーで土産物を買い、いつたん宿へ戻って荷物を降ろした後、レンタカーカー会社へ返却に行く。レンタカーカー会社の職員にホテルまで送ってもらう途中、職員が、この西表島はこのまま自然を残した方がいいか、それとも開発する方がいいか、どう思うかと聞いてくる。緒方さんはすかさず、自然を残すべきだ、この自然こそが西表島の宝だ、と答える。この日初めてホテルの夕食を食べ、その後

は標本撮影と整理、一通り片づけた後、採集道具や土産物を宅配便で送るための荷物作りをする。シャワーを浴び、泡盛を飲んで就寝。

4月19日

いよいよ最終日。チェックアウト後、迎えに来て頂いた真野さんの車で、今日はクモのことを忘れて野鳥観察。南風見から大富の水田やサトウキビ畑などを巡る。ムラサキサギ、カンムリワシ、リュウキュウツミ、ズアカアオバト、リュウキュウヨシゴイ、タカブシギ、ツバメチドリ、アオアシシギ、クロツラヘラサギなどを見る。二人は盛んに写真を撮っている。大富の仲間川の天然保護区域を望む展望台へ行く。少し傾きかけた展望台だ。眼下にマングローブの広大な林が広がっているのが見える。近くに牧場があり、牛がのんびりと草をはんでいる。本当に自然豊かな島だと感じる。展望台を後にして戻りかけたとき、道ばたから1羽の鳥が飛び立つのを見た。「ヨシゴイっ」と覚えたばかりの鳥の名前を言うと、「違う。アカガシラサギだ」という。珍しい鳥のこと。それにしても、一瞬にして鳥を判別する鳥屋さんの能力には感心する。近くの枝にとまつたので、しばし撮影タイム。その先ヤッセ橋のところで二人が野鳥を見ている間、橋の下のマングローブの林を見ていると、ミナミトビハゼがたくさんいる。さっそく水辺に降りて写真撮影する。

そんなこんなで、瞬く間に半日が過ぎていった。でいご食堂で昼食をとり、大原港へ。ここで真野さんと別れる。まだしばらく西表島に滞在するそうだ。石垣島へ向かう船上から西表島の山並みを見ながら別れを告げる。自然豊かで本当にいい島だ。また来たいと思う。石垣港からはタクシーで最近できた新石垣空港へ。搭乗手続きのため荷物を預けようとしたら、なんとレントゲン検査で引っかかってしまう。見ると標本ピンが映っている。係員が、確認したいので出してくれと言う。ピンのふたを開け、においをかぎながら「アルコールはだめだ。飛行機に乗せられない。」という。船便ならOKと言うことなので、あわてて荷造りをし直し、船便で送る手配をする。ようやく機上の人となり、那覇を経由し、22時ころ無事中部国際空港に到着。緒方さんに5日間のお礼を言って別れる。

朝から晩までクモ三昧の5日間、心配していた雨にも降られず、楽しく充実した採集旅行であった。

クモの幼体の記録と撮影

池田 博明
〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手 1099

クモの同定は成体で行うのが原則である。とはいっても、クモの種ごとの生活史を知るうえでは、幼体で正しく同定しなければならない。そして、幼体でも正しく同定できる場合がある（池田, 1992）。しかし、親と同時に卵を取り、飼育して親子関係を明らかにするだけでなく、地域のクモ相が正しく把握されており、同一地点で継続観察ができるとして、類似種がない場合には、おむね幼体でも種を正しく認識できるとみてもよいのではないだろうか。

私は種の生活史を把握することに关心があるので、クモ初心者にはぜひ自分の好きなクモを数種選んで、それぞれの種の生活史（卵から幼体を経て成体まで）を明らかにして欲しいと思っている。そして記録された生活史情報は決して古びることはない。ファーブルの昆虫記がいまでも愛読されていることを考えてみれば、それは明らかだろう。

記録の際に、フィールドノートはもちろん大事だが、近年は接写が撮影可能なカメラが安価で入手できるので、写真で残して記録することも併用して欲しい。これをまとめていけば幼体写真図鑑ができることになる。地域限定の記録であっても、それは有用な資産になっていくだろう。ブログやウェブ上に記録や写真をアップしてほかの人々のコメントを受けるのもよいと思う。同定の間違いもあるかもしれないが、そういう間違は徐々に正していくべきいいのではないだろうか。

ただし、幼体は体長が小さく、歩脚を縮めてしまうため、全身を撮影することが困難な場合も多い。クモを水面に落とすことで八本の脚を伸ばした状態で静止させて撮影することができる事が分かったので、その方法を紹介したい。

クモを撮影する際に逃げ場を水で制限するのは新海栄一氏が行っている方法であった。水盤に剣山を置き、剣山に植物を刺す。植物上にクモを放すとクモは水に制限されて行動圏を狭める。新海氏の小形のサラグモやヒメグモなどの写真はそのような方法で撮影されている場合がある。

そこで、私も真似をして中型のタンクに水をはり、中央部に植木鉢を置き、植木鉢の上に瀬戸物の皿を置いて撮影を試みた。白い瀬戸物の皿の上に出されたクモは動き回るが、白い



皿の上でも撮れるし、植木鉢の縁でも撮れるし、逃げ出した先の水面でも撮れる。

撮影していて気がついたことは、水面に落とされたクモは大抵の場合、脚を八方に伸ばして水面に浮いているということであった。クモの全身が濡れると沈んでしまう

ことがある。水面に植物の茎などのクモにとってつかまれる物がある場合には、それにつかまってしまうことが多い。しかし、何もないときには脚を広げて浮かんでいる。そこで各脚の輪紋などの特徴がたいへんはっきりと映ることになる。



シボグモ幼体 3mm, 0416



アサヒエビ幼体 2mm, 0416



ミスジハエトリ♀ 0803



ヤマトカレハ♀ 0523



チクニエビス♂ 2mm. 0519



ヤマトゴミ♂ 0911



シロスジショウジョウ幼体
3mm, 0418



イタチ 幼体 5mm, 0425



イタチ幼体 3.5m 0627

撮影データはチクニエビスグモのみ埼玉県日和田山、それ以外は神奈川県西部（大井町・松田町・真鶴町）である。0416は撮影日4月16日を表す。2013年または2014年の撮影である。標品の撮影日時・場所および体長サイズの記録は必須である。ヤマトゴミグモ♂の写真は白皿上の撮影である。

生活史の記録の例としてネコハエトリの幼体の写真を挙げておく。



左から孵化幼体（1令幼体, 2mm, キッチンペーパー上で撮影）・出囊分散幼体（2令幼体, 3mm, 白皿上で撮影）・徘徊幼体（3令幼体, 4mm, 水上で撮影）である。産卵室内の孵化幼体には背面にネコハエトリ特有のまだら状の紋様が出来ていないし歩脚に輪紋もないことが分る。この発育段階では野外に出て来ないので、通常は私たちが見ることはない。産卵室内で脱皮して2令になり、孵化からほぼ二週間後に分散する。歩脚にはっきりと輪紋が出来ている。背面の毛もしっかりして紋様も出来ている。キイロショウジョウバエを10匹程度捕食できると脱皮し（前川・池田, 1994），3令幼体になると背面の紋様にも個体変異が見られるようになる。ネコハエトリはこの後、5回の脱皮を経て雌雄とも8令で翌春に成体になると思われる（前川・池田, 1994）。

水面上で撮影された写真については「不自然である」という批判がある。むろん自然な写真を参照することも必要であろう。いろんなアプローチがあって良いと思う。

参考文献

池田博明, 1992. クモの幼体の記載 1. *Kishidaia*, (63):17-22.

前川隆敏・池田博明, 1994. 飼育条件下でのネコハエトリの幼体と発育, *Kishidaia*, (66): 27-33.

比叡山のクモ類 I

吉田 真
〒525-0055 滋賀県草津市野路東1-1-1

比叡山は京都府と滋賀県の境界にそびえる標高 848mの靈山である。筆者は 2010 年からこの山のクモ相を調査してきた。今回は、2010 年秋に比叡山の標高 400m以上の地域で採集したクモの種類と個体数を報告する。

クモの同定に関しては、田中穂積さん、池田博明さん、斎藤博さん、谷川明男さん、加村隆英さん、吉田哉さんにさまざまな教示を受けた。謹んで御礼申し上げる。

採集には、おもにビーティングとシフティングの 2 つの方法を用いた。ビーティングでは、木の枝や丈の高い草などを棒で、逆さに開いた直径 55 センチのコウモリ傘（通学用の黄色い傘）に叩き落とし、傘に落ちたクモを吸虫管で採集した。

また、シフティングには、洗った食器の水切りに用いる二重の籠（長さ 35cm、幅 26cm、深さ 9cm）を用いた。シフティングでは、落ち葉などをこの籠に入れ、籠を振ってクモを下の籠に落とし、吸虫管で採集した。採集結果を表 1 に示す。

表 1 比叡山のクモ類 I. GM 比叡:グリーンミュージアム比叡（植物園）。数字は個体数を、♂はオス成体を、♀はメス成体を、♂y はオス幼体を、y は幼体を示す。

1) 10月 20 日 左京区一乗寺 GM 比叡, N35°3'56.4", E135°49'48.7", 815mH

マシラグモ科		<i>Achaeearanea</i> sp.	y1
<i>Falcileptoneta</i> sp.	♂1, ♀1, y1		
ナミハグモ科		アシナガグモ科	
カチドキナミハグモ	♂1	<i>Metleucauge</i> sp.	y1
ハタケグモ科		<i>Tetragnatha</i> sp.	y1
ヤマハタケグモ	y1	コガネグモ科	
ヤチグモ科		アオオニグモ	y1
ヒメシモフリヤチグモ	♂1♀1	ギンメッキゴミグモ	♂y1
gen. sp.	y12	ヤマゴミグモ	y1
コモリグモ科		<i>Araniella</i> sp.	y1
ウツキコモリグモ	y1	コマチグモ科	
<i>Pirata</i> sp.	y16	アカスジコマチグモ	♂y3, y2
サラグモ科		エビグモ科	
スソグロサラグモ	y2	アサヒエビグモ	y18
デニッツサラグモ	♀1	ワシグモ科	
		gen. sp.	y5

フタスジサラグモ	♀1	カニグモ科
ユノハマサラグモ	y1	アマギエビスグモ ♂y6, y9
<i>Neriene</i> sp.	♂2, y3	コハナグモ y3
<i>Nippononeta</i> sp.	♀4, y1	セマルトラフカニグモ y1
gen. sp.	♂y2, y5	ヤドカリグモ y1
ヒメグモ科		gen. sp. y1
タカユヒメグモ	y1	イツツグモ科
ヒシガタグモ	♂y1, y1	イツツグモ ♂1
シモフリヒメグモ	y2	ネコグモ科
ボカシミジングモ	♂y1	<i>Phruruolitus</i> sp. y9
ホシミドリヒメグモ	y1	ネコグモ y1
ミジングモの一種	♂y2, y8	ハエトリグモ科
ムナボシヒメグモ	y19	ネコハエトリ ♀1
ムラクモヒシガタグモ	y1	

2) 10月20日 左京区一乗寺 GM 比叡2, N35°3'57.8", E135°49'47.4", 800mH

ヤチグモ科	<i>Leucauge</i> sp. y3
ヒメヤマヤチグモ	♀1
ヨゴヤマヤチグモ	♂1
サラグモ科	コガネグモ科
ムナグロサラグモ	ギンメッキゴミグモ y1
ヒメグモ科	コオニグモモドキ y4
シモフリヒメグモ	ヤエンオニグモ y1
タカユヒメグモ	カニグモ科
ヒシガタグモ	セマルトラフカニグモ y1
ホシミドリヒメグモ	ワカバグモ ♂y1, y4
アシナガグモ科	フクログモ科
キンヨウグモ	<i>Clubiona</i> sp. y1
メガネドヨウグモ	ネコグモ科
	ネコグモ y1

3) 10月20日 左京区一乗寺 GM 比叡3, N35°3'51.9", E135°49'41.4", 825mH

サラグモ科	<i>Araniella</i> sp. y1
アシナガサラグモ y1	<i>Eriophora</i> sp. y1
ムナグロサラグモ y5	コマチグモ科

ヒメグモ科		<i>Cheiracanthium</i> sp.	y1
カニミジングモ	y1	エビグモ科	
タカユヒメグモ	y4	アサヒエビグモ	y3
ヒシガタグモ	y3	カニグモ科	
ホシミドリヒメグモ	y2	アマギエビスクモ	♂y6, y8
ミジングモの一種	y1	クマダハナグモ	y1
ムナボシヒメグモ	y2	ワカバグモ	y10
<i>Achaearanea</i> sp.	y1	ネコグモ科	
コガネグモ科		ネコグモ	y5
ギンメッキゴミグモ	y2		

5) 10月29日 大津市滋賀里町夢見が丘, N35°3'5.9", E135°50'22.3", 515mH

ヤチグモ科		ヤエンオニグモ	y1
ヒメシモフリヤチグモ	♂1	<i>Eriophora</i> sp.	y2
ヤチグモの一種	y6	エビグモ科	
コモリグモ科		アサヒエビグモ	y4
<i>Pirata</i> sp.	y1	カニグモ科	
サラグモ科		アマギエビスクモ	♂y6, y21
<i>Gonathium</i> sp.	♀1	クマダハナグモ	y3
ザラアカムネグモ	♀1	トラフカニグモ	y1
ムネグロサラグモ	y2	ワカバグモ	♂y1, y7
gen. sp.(白色, 1.5ミリ)	♂1	フクログモ科	
gen. sp.	♂1, ♀2	<i>Clubiona</i> sp.	y3
ヒメグモ科		イナフクログモ	♂2
タカユヒメグモ	y2	ネコグモ科	
ヒシガタグモ	y1	ネコグモ	y3
ホシミドリヒメグモ	y1	<i>Phruruolithus</i> sp.	y12
<i>Rhomphaea</i> sp.	y1	ハエトリグモ科	
アシナガグモ科		ネコハエトリ	y1
ウロコアシナガグモ	y1	<i>Mendosa</i> sp.	y1
コガネグモ科		<i>Phintella</i> sp.	y1
コオニグモモドキ	y4		

5) 10月29日 大津市滋賀里町夢見が丘, N35°3'5.9", E135°50'22.3", 515mH

タマゴグモ科 ダニグモ	♀1	コガネグモ科 ヤマゴミグモ	y1
ヤチグモ科 カメンヤチグモ	♀1	Araniella sp.	y1
Iwogumoa sp.	♂1	コマチグモ科 コマチグモsp	y1
ヤチグモの一種	♀1,y2	アシダカグモ科 Heteropoda sp.	y1
コモリグモ科 ウツキコモリグモ	y1	エビグモ科 アサヒエビグモ	y10
サラグモ科 アサカワゴマグモ*	♀2	カニグモ科 アマギエビスグモ	♂y8, y1
ムナグロサラグモ	y1	ガザミグモ	♂ y 1
ユノハマサラグモ	y6	ワカバグモ	y 4
Ainerigone sp.	y2	クマダハナグモ	♂y1, y5
Nippononeta sp.	♀1	コハナグモ	y1
ヒメグモ科 ヒシガタグモ	y1	イヅツグモ科 イヅツグモ	♂1
フタオイソウロウグモ	y1	ウエムラグモ科 イタチグモ	y1
ホシミドリヒメグモ	y4	ネコグモ科 ネコグモ	y 4
ムナボシヒメグモ	y2	Phrurolithus sp.	y3
Achaearanea sp.	y1	ハエトリグモ科 アリグモ	♀1
ジョロウグモ科 ジョロウグモ	♀1	Helcius sp.	y4
アシナガグモ科 ウロコアシナガグモ	y1	デーニツツハエトリ	♂1, ♀1, y1
キンヨウグモ	♂1, ♀1	ネコハエトリ	y1
Leucauge sp.	y2		

6) 10月29日 大津市坂本本町口テルド比叡, N35°3'17.3", E135°50'2.7", 520mH

タナグモ科 Cicuria sp.	♂1	シャコグモ	y1
コモリグモ科 Pirata sp.	y1	ワシグモ科 gen. sp.	♂y1
サラグモ科 ユノハマサラグモ	y14	カニグモ科 アマギエビスグモ	♂y1, y14
		ガザミグモ	♂y1

ノコバヤセサラグモ	♂1, ♀1	コハナグモ	y1	
<i>Ainerigone</i> sp.	y1	セマルトラフカニグモ	y2	
<i>Neriene</i> sp.	♂y4, y2	チクニエビスクグモ	♂y1, y1	
gen. sp.	♂2, ♀1	ワカバグモ	y2	
ヒメグモ科			<i>Xysticus</i> sp. y2	
ハラナガヒシガタグモ	y2	フクログモ科		
ヒシガタグモ	y2	<i>Clubiona</i> sp. y1		
ホシミドリヒメグモ	y3	イツツグモ科		
ムナボシヒメグモ	♀1, y6	イツツグモ		
<i>Achaearanea</i> sp.	y1	ネコグモ科		
アシナガグモ科			<i>Phrurolithus</i> sp. y1	
ウロコアシナガグモ	y2	ネコグモ		
コマチグモ科			ハエトリグモ科	
アカスジコマチグモ	y1	ウススジハエトリ		
エビグモ科			デーニツツハエトリ	♀1, y1
アサヒエビグモ	y10	<i>Neon</i> sp. y1		

7) 11月3日 大津市坂本本町桜茶屋, N35°3'30", E135°50'13.6", 590mH

ヤチグモ科		ウロコアシナガグモ	y3	
カミガタヤチグモ	♀1	キンヨウグモ	♂1, ♀1	
カメンヤチグモ	♂1	コシロカネグモ	y2	
ヤチグモの一種	y1	<i>Leucauge</i> sp.	y1	
センショウグモ科			コガネグモ科	
センショウグモ	y1	オオクマヤミイロオニグモ	♂y3, y1	
サラグモ科			ハツリグモ	
アシナガサラグモ	y2	ヨツデゴミグモ	♂1, y1	
<i>Meioneta</i> sp.	♂1	<i>Araneus</i> sp.	y2	
スソグロサラグモ			エビグモ科	
ユノハマサラグモ	♂y11, y23	アサヒエビグモ	y1	
<i>Ainerigone</i> sp.	y7	カニグモ科		
gen. sp.	♂y4, y6	アマギエビスクグモ	♂y2, y13	
ヒメグモ科			コハナグモ	
タカユヒメグモ	y4	チクニエビスクグモ	♀1, ♂y3, y15	
タテスジヤリグモ	♂y1	ワカバグモ	♂y1, y5	
ツリガネヒメグモ	y1	<i>Xysticus</i> sp.	y3	

バラギヒメグモ	y2	フクログモ科	
ハラナガヒシガタグモ	♂y6, y19	イナフクログモ	♂1
ヒシガタグモ	♂y1	Clubiona sp.	♂1, y15
フタオイソウロウグモ	y2	イツツグモ科	
ホシミドリヒメグモ	y7	イツツグモ	♂1, y8
ムナボシヒメグモ	y5	ネコグモ科	
<i>Achaearanea</i> sp.	y3	<i>Phrurolithus</i> sp.	y1
カラカラグモ科		ネコグモ	y20
カラカラグモ	y1	ハエトリグモ科	
アシナガグモ科		デニツツハエトリ	♂2, ♀2, y4

8) 11月3日 京都市左京区一乗寺病ダレ, N35°3'21.5", E135°50'2.8", 520mH

コモリグモ科		<i>Leucauge</i> sp.	y3
<i>Pirata</i> sp.	♂y1, y1	コガネグモ科	
サラグモ科		オオクマヤミイロオニグモ	♂y1, y1
ツリサラグモ	♂y1	カラフトオニグモ	y2
ムネグモサラグモ	y7	コオニグモモドキ	y1
ユノハマサラグモ	♂y17, y19	ヨツデゴミグモ	♂y1, y1
<i>Ainerigone</i> sp.	y4	エビグモ科	
<i>Nippononeta</i> sp.	♀1	アサヒエビグモ	y3
ヒメグモ科		カニグモ科	
カグヤヒメグモ	y3	アマギエビスクグモ	♂y2, y5
ツリガネヒメグモ	y1	コハナグモ	y1
ハラナガヒシガタグモ	♂y2, y8	チクニエビスクグモ	y2
ホシミドリヒメグモ	y1	ワカバグモ	y4
ムナボシヒメグモ	y6	イツツグモ科	
ヤリグモ	♂y1	イツツグモ	y11
<i>Trigonobothrus</i> sp.	♂y1	ネコグモ科	
gen. sp. (白色)	♂1	ネコグモ	y5
アシナガグモ科		ハエトリグモ科	
ウロコアシナガグモ	y1	デニツツハエトリ	♀1, y1
キンヨウグモ	♀1	ヒメカラスハエトリ	y1
ヤマジドヨウグモ	♀1		

9) 11月3日 京都市左京区一乗寺病ダレ 2, N35°3'20.2", E135°49'59", 540mH

ウズグモ科 マネキグモ	y1	アシナガグモ科 ウロコアシナガグモ	y1
ヤチグモ科 ヨゴヤマヤチグモ	♀1	キンヨウグモ	♀2
キシダグモ科 <i>Dolomedes</i> sp.	y2	シナノアシナガグモ	y1
		ヤマジドヨウグモ	♀1
		<i>Leucauge</i> sp.	y5
コモリグモ科 <i>Pirata</i> sp.	♂y1, y1	コガネグモ科 アオオニグモ	♂y1
ウツキコモリグモ	y5	オオクマヤミイロオニグモ	♂y2, y4
サラグモ科 ツリサラグモ	♂y1	カラフトオニグモ	y2
フタエツノヌカグモ	♂1	コオニグモモドキ	y1
ムナグロサラグモ	y11	サガオニグモ	♂y1, y2
ユノハマサラグモ	♂y27, y25	ヨツデゴミグモ	♂y3, y2
<i>Ainerigone</i> sp.	y4	<i>Araniella</i> sp.	y1
<i>gen.</i> sp.	♀1	エビグモ科 アサヒエビグモ	y4
<i>gen.</i> sp.	♀1	カニグモ科 アマギエビスクモ	♂y9, y10
ヒメグモ科 アシブトヒメグモ	y1	コハナグモ	y2
カグヤヒメグモ	y3	チクニエビスクモ	y5
ツリガネヒメグモ	y1	ワカバグモ	y10
バラギヒメグモ	y4	イツツグモ科 イツツグモ	y26
ハラナガヒシガタグモ	♂y8, y8	ネコグモ科 ネコグモ	y8
フタオイソウロウグモ	♂y1	ハエトリグモ科 デーニツツハエトリ	♂1, ♀2, y1
ホシミドリヒメグモ	y1	ヒメカラスハエトリ	y1
ムナボシヒメグモ	y8		
ヤリグモ	♂y1		
<i>gen.</i> sp. (白色)	♂1		

10) 11月3日 京都市左京区一乗寺又ノ滝, N35°3'20.8", E135°49'51.5", 530mH

キシダグモ科 <i>Dolomedes</i> sp.	y1	<i>Tetragnatha</i> sp.	y1
サラグモ科 ムネグロサラグモ	y3	コガネグモ科 オオクマヤミイロオニグモ	♂y1, y6
ユノハマサラグモ	♂y6, y4	サガオニグモ	♂y1
		ヨツデゴミグモ	y1

ヒメグモ科		イヅツグモ科	
オナガグモ	y1	イヅツグモ	y2
ムナボシヒメグモ	y2	ネコグモ科	
アシナガグモ科		ネコグモ	y2
タニマノドヨウグモ	y22	ハエトリグモ科	
メガネドヨウグモ	♂y3, y6	ウススジハエトリ	y1
ヤサガタアシナガグモ	♂1	デニツツハエトリ	y1
<i>Leucauge</i> sp.	y8		

11) 11月19日 京都市左京区一乗寺井手ケ谷, N35°3'20.5", E135°49'43.1", 510mH

タマゴグモ科		コシロカネグモ	y2
アカハネグモ	♀1	メガネドヨウグモ	♂y2, y3
ウズグモ科		<i>Leucauge</i> sp.	y1
マネキグモ	y5	コガネグモ科	
キシダグモ科		オオクマヤミイロオニグモ	♂y2
イオウイロハシリグモ	y1	サガオニグモ	y1
<i>Dolomedes</i> sp.	y6	ヨツデゴミグモ	y1
サラグモ科		カニグモ科	
ナラヌカグモ	♂y1	アマギエビスクグモ	♂y2
ムネグロサラグモ	y1	コハナグモ	y1
ユノハマサラグモ	♂y5, y7	クマダハナグモ	y2
<i>Anerigone</i> sp.	y1	セマルトラフカニグモ	y2
ヒメグモ科		トラフカニグモ	y2
オナガグモ	y1	<i>Xysticus</i> sp.	y1
バラギヒメグモ	y5	フクログモ科	
ヤリグモ	♂y1	ムネアカフクログモ	y2
<i>Achaeareanea</i> sp.	y3	<i>Clubiona</i> sp.	y1
アシナガグモ科		イヅツグモ科	
オオシロカネグモ	y37	イヅツグモ	y2

12) 11月19日 京都市左京区一乗寺黒目滝, N35°3'19.4", E135°49'34.2", 480mH

ウズグモ科		コガネグモ科	
マネキグモ	y1	カラオニグモ	y1
キシダグモ科		クマダハナグモ	y1
<i>Dolomedes</i> sp.	y2	ヨツデゴミグモ	y1

サラグモ科		エビグモ科	
ムナグロサラグモ	y1	アサヒエビグモ	y3
ユノハマサラグモ	♂y14, y7	カニグモ科	
ヒメグモ科		Xysticus sp.	y1
アシブトヒメグモ	y1	アマギエビスクモ	♂y1, y3
オナガグモ	y1	ガザミグモ	y1
バラギヒメグモ	y4	クマダハナグモ	y1
ホシミドリヒメグモ	y2	セマルトラフカニグモ	y1
Achaeareana sp.	y3	トラフカニグモ	y1
アシナガグモ科		ワカバグモ	♂y1, y1
アシナガグモ	y3	フクログモ科	
ウロコアシナガグモ	y1	ウエノフクログモ	♂1
タニマノドヨウグモ	y1	Clubiona sp.	y1
ヤサガタアシナガグモ	y3	イヅツグモ科	
Leucauge sp.	y67	イヅツグモ	y5
Tetragnatha sp.	y3		

13) 11月19日 京都市左京区一乗寺黒目滝下, N35°3'17.8", E135°49'29.9", 480mH

ウズグモ科		ジョロウグモ科	
マネキグモ	y1	ジョロウグモ	♀2
ナミハグモ科		アシナガグモ科	
カチドキナミハグモ	♂1, ♀1, y2	アシナガグモ	y3
gen. sp.	y1	オオシロカネグモ	y1
ハタケグモ科		キンヨウグモ	♀1
ヤマハタケグモ	y1	メガネドヨウグモ	y2
ヤチグモ科		コガネグモ科	
カミガタヤチグモ	♂1, ♀2	オオクマヤミイロオニグモ	♂y1, y2
ヒメヤマヤチグモ	♂1	ニシキオニグモ	♀1
gen. sp.	y2	ヨツデゴミグモ	♂y2
タナグモ科		カニグモ科	
Cicurina sp.	y1	アマギエビスクモ	♂y1
サラグモ科		クマダハナグモ	y1
デーニツツサラグモ	♀1	コハナグモ	y1
ムネグロサラグモ	y3	トラフカニグモ	♂y1, y7
ユノハマサラグモ	♂y3, y10	フクログモ科	

ヒメグモ科		<i>Clubiona</i> sp.	y1
シモフリヒメグモ	y1	イツツグモ科	
バラギヒメグモ	y1	イツツグモ	y1
ヒシガタグモ	y1		

14) 11月19日 京都市左京区一乗寺弁天道, N35°3'13.2", E135°49'23.4", 445mH

ウズグモ科		アシナガグモ科	
マネキグモ	y2	<i>Leucauge</i> sp.	y2
ヤチグモ科		コガネグモ科	
ヒメシモフリヤチグモ	♂1	オオクマヤミイロオニグモ	♂y2, y1
gen. sp.	y1	カラオニグモ	y1
キシダグモ科		トガリオニグモ	♀1
<i>Dolomedes</i> sp.	y1	ハツリグモ	y1
サラグモ科		エビグモ科	
フタスジサラグモ	♀1	アサヒエビグモ	y1
ムネグロサラグモ	y7	カニグモ科	
ユノハマサラグモ	♂y21, y18	アマギエビスグモ	♂y1, y2
<i>Ainerigone</i> sp.	♂y1, y1	セマルトラフカニグモ	y1
ヒメグモ科		チクニエビスグモ	♂y1, y1
バラギヒメグモ	y9	トラフカニグモ	♂y1
ヒシガタグモ	y3	ワカバグモ	y2
ホシミドリヒメグモ	y1	イツツグモ科	
ムナボシヒメグモ	y1	イツツグモ	♂1, ♀2, y7
ヤリグモ	y2	ネコグモ科	
ジョロウグモ科		ネコグモ	y3
ジョロウグモ	♀1		

今回は合計 120 種のクモが採集された。このうち、滋賀県新記録は、ダニグモ、スソグロサラグモ、タテスジヤリグモ、アカスジコマチグモ、クマダハナグモの 5 種、京都府新記録は、アカハネグモ、ヨゴヤマヤチグモ、スソグロサラグモ、フタエツノヌカグモ、シモフリヒメグモ、ニシキオニグモ、アカスジコマチグモ、チクニエビスグモ、ヤドカリグモ、イナフクログモ、ヒメカラスハエトリの 10 種であった (新海ら, 2012; 吉田ら, 2014)。また、成体であるにもかかわらず同定できなかったものは、ヒメグモ科 1 種、サラグモ科 7 種、マシラグモ科 1 種の合計 9 種であった。

引用文献

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2012. CD 日本のクモ Ver. 2012. 著者自刊.
吉田真・熊田憲一・西川喜朗・黒田あき, 2014. くものいと 47 : 34-50. 関西クモ研究会.

愛知県内におけるツシマトリノフンダマシの記録

緒 方 清 人

〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

はじめに

ツシマトリノフンダマシ *Paraplectana tsushimaensis* Yamaguchi, 1960 は本州、四国、九州、南西諸島に分布する。採集例は少なく希少種の一一種 (新海, 2010)。愛知県では 2014 年 7 月現在まで 4 例が確認されている。その内、2 例が今年の 6 月と 7 月に相次いで発見されたので、これを機に過去の 2 例も含めて報告する。報告にあたり発見者の加藤尊常氏、杉山時雄氏に感謝の意を表する。

【初記録】

発見地：宝飯郡音羽町長沢（下谷下林道）。2008 年 1 月に豊川市と合併。

観察日：2001 年 7 月 28 日。

個体：1 ♀。

発見者：杉山時雄氏・大原満枝氏。

メモ；前の週に筆者と林道でクモの調査中に見つけたムツトゲイセキグモを見に行った折り、梅林で杉山・大原両氏が葉裏に静止する♀を発見する。

【第 2 例】

発見地：南設楽郡鳳来町（表参道中腹）。2005 年 10 月に新城市と合併。

観察日：2004 年 5 月 30 日。

個体：1 ♀幼体。

発見者：加藤尊常氏。

メモ；鳳来寺山自然科学博物館主催の観察会で、加藤尊常君（8 歳）がアラカシの幼木の葉裏に静止する♀幼体（体長約 3mm）を発見する。筆者は標本を恵与していただきフィルムケースで飼育をする。6 月 1 日に脱皮し体長約 4mm になる。餌はショウジョバエ、ハエ、アリを与えるが補食した形跡はなし。6 月 25 日に死んでいるのを確認する。

【第 3 例】

発見地：豊田市琴平町（トヨタの森）

観察日：2014 年 6 月 26 日

個体：1 ♀。

発見者：杉山時雄氏。

メモ；勤務先のトヨタの森で杉山時雄氏が、遊歩道を横切るように張っていた糸に気づき、辿っていくと地上 180 cm の高さのタカノツメの葉っぱ裏にいる♀成体を発見する。即電話をいただき、明日（27 日）採集した個体を見せさせていただき撮影し標本を一時的に預かる。さらに明後日（28 日）杉山さんにお返しし、発見場所に放つ。杉山さん曰く「追跡調査を試みるが直に見失う」と電話をいただく。

【第 4 例】

発見地：岡崎市小呂町（小呂湿地）

個体；1♀.

発見者；緒方清人.

観察日；2014年7月6日

メモ；小呂湿地は市の委託で毎月クモ類調査を実地している。湿地保護用の木道を歩いていたら地上約170cmの高さに、湿地内のスギの梢から湿地外のシャシャンボの梢にやや丈夫な糸が残っていた。実は、糸が頭にひっかかって気づいた。その糸をたどるとシャシャンボの梢に♀成体を発見する。標本は国立科学博物館の小野展嗣博士にお送りする。



図1, 豊田市琴平町（トヨタの森），2014年6月26日，♀(杉山時雄氏採集個体)



図2, 岡崎市小呂町（小呂湿地），2014年7月6日，♀

参考・引用文献

新海栄一, 2010. ネイチャガイド日本のクモ. 文一総合出版. 335pp.

緒方清人, 2005. 第3節クモ類, 音羽町史 自然編 本文. 283-307.

緒方清人, 2005. 凤来寺山で記録されたツシマトリノフンドマシについて, 博物館館報. 34:5-8.

愛知県知多郡美浜町奥田のクモ類

緒 方 清 人
〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

はじめに

孫が通う名古屋市緑区大高町の NPO 法人保育園は、愛知県知多郡美浜町の農家から土地を借りて、幼児のころからの体験学習として無農薬、自然農の田畠を耕作している。娘曰く「クモが沢山いるので案内する」とのこと。2014年6月28日に現地のクモ類を調査したので報告する。報告にあたり、調査の機会を与えてくれた緒方ふみ氏に感謝の意を表する。

調査結果

調査地は水田脇の草地、女竹の繁る竹林脇、セイタカアワダチソウやイネ科植物が繁る草地の根元である。その結果、16科44種を確認した。GPSによる緯度経度は北緯34度46分04秒30、東経136度52分35秒49、標高21mである。



図1. 知多半島における調査地地図（丸印）

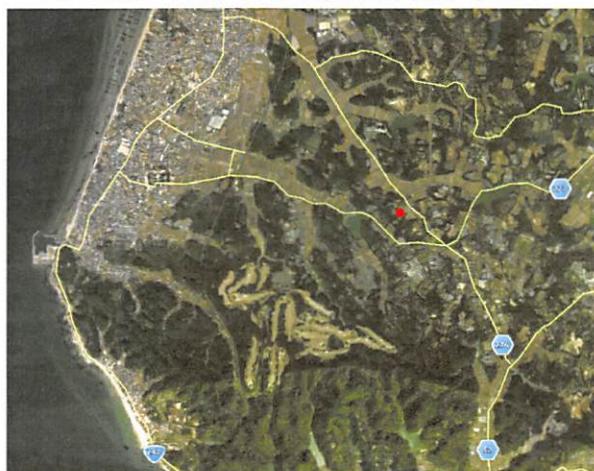


図2. 知多半島における調査地地図（丸印）

目録

I. ヒメグモ科 Theridiidae

1. チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai* Chida et Tanikawa, 1999 1♀幼体.

2. キヨヒメグモ *Parasteatoda oculiprominens* (S.Saito, 1939) 1♀.

II. コツブグモ科 Mysmenidae

3. ヤマトコツブグモ *Mysmenella ogatai* Ono, 2007 2♀.

III. サラグモ科 Linyphiidae

4. ノコギリヒザグモ *Erigone prominens* Bösenberg & Strand, 1906 1♀.

5. タテヤマテナガグモ *Microbathyphantes tateyamaensis* (Oi, 1960) 1♀.

6. チビアカサラグモ *Nematogmus sanguinolentus* (Walckenaer, 1837) 1♀, 2♂.

7. ヘリジロサラグモ *Neriene oidedicata* (van Helsing, 1969) 2♀幼体.

8. セスジアカムネグモ *Ummeliata insecticeps* (Bösenberg & Strand, 1906) 1♂.

IV. アシナガグモ科 Tetragnathidae

9. チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* (L. Koch, 1878) 1♀.

V. ジョロウグモ科 Nephilidae

10. ジョロウグモ *Nephila clavata* L.Koch, 1878 8幼体.

VI. コガネグモ科 Araneidae

11. コガネグモ *Argiope amoena* L.Koch, 1878 1♀, 1♂.

12. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* (Scopoli, 1772) 4幼体.

13. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch, 1879 1♀卵のう.

14. シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand, 1918 1♂.

15. コガネグモダマシ *Larinia argiopiformis* Bösenberg & Strand, 1906 1幼体.

16. ドヨウオニグモ *Neoscona adianta* (Walckenaer, 1802) 1♀幼体.

17. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellotteei* (Simon, 1895)

18. コゲチャオニグモ *Neoscona punctigera* (Doleschall, 1857) 1♀.

19. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (Karsch, 1879) 1♀.

20. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (Bösenberg & Strand, 1906) 1♀幼体.

VII. コモリグモ科 Lycosidae

21. ヒノマルコモリグモ *Arctosa japonica* (Karsch, 1879) 1♂.

22. イナダハリグモモリグモ *Pardosa agraria* Tanaka, 1985 4♀卵のう個体あり.

23. ウツキコモリグモ *Pardosa astrigera* L.Koch, 1878 1♀, 2♀幼体.

24. キバラコモリグモ *Pirata subpiraticus* (Bösenberg et Strand, 1906) 1♀幼体.

25. チビコモリグモ *Piraulta procurvus* (Bösenberg et Strand, 1906) 1♀.

26. ナガズキンコモリグモ *Trochosa aquatica* Tanaka, 1985 1♀.

VIII. ササグモ科 Oxyopidae

27. ササグモ *Oxyopes sertatus* L.Koch, 1878 1♀, 2♀幼体, 1♂.

IX. シボグモ科 Ctenidae

28. シボグモ *Anahita fauna* Karsch, 1879 2♀幼体, 1♂.

- X. タナグモ科 Agelenidae
29. クサグモ *Agelena silvatica* Olliger, 1983 2 幼体.
30. コクサグモ *Allagelena opulenta* (L.Koch, 1878) 5 幼体.
31. ヤチグモ属の一種 *Coelestes* sp. 3 幼体.
- X I. ツチフクログモ科 Miturgidae
32. ヤマトコマチグモ *Cheiracanthium lascivum* Karsch, 1879 1♀産室内卵のう.
- X II. ネコグモ科 Corinnidae
33. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* Bösenberg & Strand, 1906 1♀.
- X III. ワシグモ科 Gnaphosidae
34. ムナキワシグモ *Cladothela unciinsignita* (Bösenberg & Strand, 1906) 1♀.
35. ヤマトフトバワシグモ *Odontodrassus hondoensis* (S.Saito, 1939) 1♀.
36. クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus* (Bösenberg & Strand, 1906) 1♀.
- X IV. エビグモ科 Philodromidae
37. ヤマトヤドカリグモ *Thanatus nipponicus* Yaginuma, 1969 1 幼体.
- X V. カニグモ科 Thomisidae
38. ハナグモ *Edrechella tricuspidatus* (Fabricius, 1775) 1 幼体.
39. アズチグモ *Thomisus labefactus* Karsch, 1881 1♀幼体.
40. ソウシキカニグモ *Xysticus saganus* Bösenberg & Strand, 1906 1♀幼体.
- X VI. ハエトリグモ科 Salticidae
41. マツモトハエトリ *Bristowia heterospinosa* Reimoser, 1934 1♂.
42. マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L.Koch, 1878) 1♂.
43. オスクロハエトリ *Mendoza canestrinii* (Ninni, 1868) 1♂.
44. キレワハエトリ *Sibianor pullus* (Bösenberg & Strand, 1906) 1♀.

目録作成は谷川（2013）に従う）

あとがき

本調査地は水田周りの狭い範囲で実地した。1回の調査で44種を確認できたことは意外な収穫であった。知多半島は南北に約40km、半島の中央部から先端に向かって自然度の高い山脈が帯状に延びている。このことから、クモ相はかなり豊かだと想像できる。しかしながら、知多半島のクモ類に関する報告は極めて少ない。筆者は「常滑市常滑のクモ」(2007)、「常滑のクモ(2)」(2009)、「常滑のクモ(3)」(2010)、「知多郡南知多町篠島のクモ類と生物」(2011)を報告した、がいずれも調査不足の感が強い。これを機に知多半島のクモ相を明らかにしたいと思うが、皆様の協力を願いしたい。

参考・引用文献

- 小野辰嗣編、2009. 日本産クモ類. 738pp. 東海大学出版会、東京.
- 新海栄一、2010. ネイチャーガイド日本のクモ. 335pp. 文一総合出版、東京.
- 千国安之輔、2008. 写真日本クモ類大図鑑改訂版. 308pp. 偕成社、東京.



図3 調査地（右上の一角）環境 2014.6.28



図4 コガネグモ♀ 2014.6.28



図5 シロオビトリノフンダマシ♂ 2014.6.28



図6 ムナキワシグモ♀ 2014.6.28



図7 ヒノマルコモリグモ♂ 2014.6.28

愛知県三河地方におけるセアカゴケグモの現況

緒 方 清 人

〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

はじめに

愛知県のホームページ（以下 HP）によると、セアカゴケグモが初めて発見されたのは2005年8月19日に常滑市中部国際空港である。その後から、海部郡飛島村・海部郡弥富町・知多市などおもに海岸部から相次いで発見された。その後も急速に分布を拡大し、名古屋市・知多市・常滑市など市街地にまで分布拡大し、民家からも発見されている。現在では清洲市・岩倉市・春日井市・愛西市・大府市など内陸部まで分布を拡大している。このように尾張地方には広範囲に確認されているが、なぜか三河地方から報告例がない。筆者は数年前から三河湾沿岸部を中心に調査を継続しているが、発見まで至らなかった。そんな中、2013年に岡崎市の発見を機に、刈谷市・豊橋市・豊田市で相次いで確認された。そこで、三河地方におけるセアカゴケグモの発見の経緯を市毎に報告する。報告にあたり情報の提供と、調査を協力していただいた豊橋市自然史博物館学芸員吉川博章氏、岡崎市役所環境部環境保全課職員の方々、豊田市役所環境政策課職員の方々、豊橋市役所環境部環境保全課職員の方々、豊橋市港湾合同庁舎職員の方々、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋支店環境技術科の方々に深くお礼申し上げる。また昆虫類を同定していただいた矢作川研究所総括研究員間野隆裕氏、豊橋市自然史博物館学芸専門委員長谷川道明氏に深くお礼申し上げる。

【岡崎市の発見の経緯】

2013年9月30日に東名高速道路上り線の美合PA内トイレで清掃作業員により1♀が発見される。写真撮影後駆除される。その時の画像を市役所経由で確認のメールを受け、「セアカゴケグモに間違いありません」と返信する。10月1日付け朝日新聞朝刊三河版に「岡崎にセアカゴケグモ」、中日新聞朝刊西三河版に「セアカゴケグモ美合PAで確認」との見出しで報道される。明10月1日は中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋支店環境技術科（以下中日本ハイウェイ）の担当者が再調査し、ゴミ箱底部から1♀と数個の卵のうを発見し駆除される。2日は市役所職員2名と同伴し、中日本ハイウェイの担当者4名と現地で合流する。トイレ、ゴミ箱、ベンチなど調査するが発見されず（図1）。しかし、トイレに至る屋根付き歩道の各柱の根元には、本種と思われる不規則網を数ヶ所で確認する。柱の底部は空洞で割り箸や棒を差し込み、採集を試みたが網のみが絡み付いていた（図2）。

2013年10月4日、久後崎町地内の民家敷地内の側溝で1♀が発見された。急遽市職員が現地調査に出向き、生きた個体を採集する。その個体をわざわざ拙宅まで届けていただき、岡崎産で初めて液浸標本にすることができた（図3・4）。10月5日付け中日新聞朝刊西三河版に「セアカゴケグモ岡崎でまた発見」との見出しで報道される。

2014年5月1日、才栗町地内の岡崎墓園でお墓参りの市民が側溝で1♀を発見する。墓地管事務所から市保険所へ、保険所から市役所に通報される。市職員がその個体を撮影し、



図1 美合PA内の調査 2013.10.2



図2 柱の下部に不規則網を確認す 2013.10.2



図3 久後崎町で採集された個体 2013.10.4

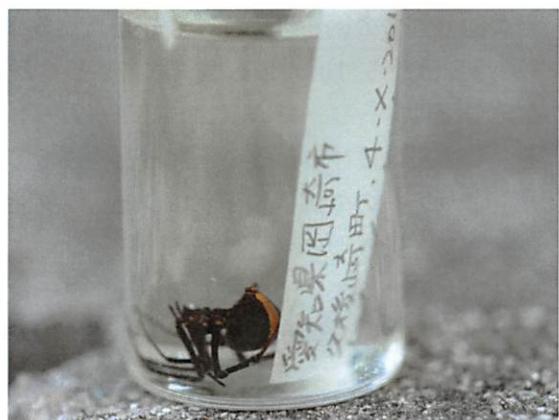


図4 岡崎市産初の液浸標本 2013.10.4



図5 岡崎墓園の生息環境 2014.9.14



図6 岡崎墓園で確認した♀と卵のう 2014.9.14.

確認のメールを受ける。「セアカゴケグモに間違いありません」と返信する。明2日に市役所に出向き、その標本をいただく。発見日は市職員が再調査し、新たに3頭が見つかり駆除される。5月2日付け中日新聞朝刊西三河版に「セアカゴケグモ今年も岡崎で確認」との見出で報道される。筆者は9月14日に現地を調査し、側溝、墓石のすき間などから雌雄成体、幼体、卵のうを多数確認し採集する。墓園の敷地は広大で相当数が生息しているものと思われる(図5・6)。

2014年7月28日に市役所より「市緑丘地内の民家の敷地内で1♀卵のうが発見された」とメールを受ける。個人宅なので調査等は遠慮してほしのことなので、市側も筆者も再調査は実地していない。

2013年8月2日に昨年と同じく、美合PA内公衆電話内でセアカゴケグモの目撃情報が市役所に通報された。市職員が現地を調査し10数頭が確認され駆除される。その時に撮影された画像（♀3頭が写っている）をメールで受ける。やはり昨年10月の調査時に採集困難な場所に網を幾つも確認済みなので、今回の出来事は予測していた。

【刈谷市での発見の経緯】

2014年8月30日付け朝日新聞朝刊三河版に「セアカゴケグモ刈谷で見つかる」との見出しで報道される。記事によると、伊勢湾岸自動車道PA「刈谷ハイウェイオアシス」内の岩ヶ池公園で公園管理の従業員が植え込みから1頭と卵のう3個が発見された。文末には「9月1日から付近一帯を農薬散布する」と記してあるので、当日に現地調査を行った。岩ヶ池公園はマーリーゴーランド・ゴーカートなど複合遊具類がエリアごとに設置されている。この日は夏休み最後の土曜日と相成って、どのエリアも幼児連れの家族で混雑していた。エリアの外周は格子状のフェンスで囲まれている（図7）。フェンス1本の大きさは親指大で、長方形の棒状の底部から、地面に向かって幾つもの不規則網を確認した。まぎれもないセアカゴケグモの網であった。クモはフェンスの空洞部に隠れているので直接は見えないが、幸い♀幼体が網の中でハナムグリの幼虫を捕食していた（図8）。さすがに人ごみの中での採集は躊躇し、1♀成体を追加採集して調査地を後にした。農薬散布に関しては、新聞やTVニュースなど報道を注視したが情報は得ていない。



図7 岩ヶ池公園の生息環境 2014.8.30



図8 ハナムグリの幼虫を捕食する♀幼体 2014.8.30

【豊田市の発見の経緯】

豊橋市自然史博物館学芸委員で当会員でもある吉川博章氏から、2014年8月20日に東海環状自動車道下り線の鞍ヶ池PA内でセアカゴケグモを発見したので確認してほしい。と生息環境の画像も含めてメールをいただいた。8月30日に現地調査を行った。PA内のトイレ、ベンチ、公衆電話、側溝など本種が好みそうな場所では確認されず、吉川さんの指示通り展望台のみ生息を確認した。展望台は円錐形の建物で螺旋状の通路（車椅子でも通行可

能)が屋上の展望台まで設置されている。そこからの眺望は素晴らしい、眼下に鞍ヶ池公園を望み市街地を遠望できる。外壁は等間隔に柱で取り囲んでいる。この柱は外壁の固定とデザイン性もかねている(図9)。その柱の根元やガラス窓の外枠などに多数の不規則網を確認した。柱の内部は空洞で採集は難しく、おもに外壁や窓枠から雌雄、幼体の合計16頭と卵のう3個採集した(図10)。早速、吉川さんに結果を報告すると同時に、豊田市環境政策課へ通報した。9月1日に市職員が拙宅に来訪していただき、具体的な経過と駆除方法などを話し合った。3日に保健所と市の担当者が現地で駆除作業を実地したと連絡を受ける。夕方のNHK TVのローカルニュースでその時の映像が放映された。新聞への報道はないと記憶している。筆者が採集したセアカゴケグモの液浸標本は、1♀1♂1卵のうを豊橋市自然史博物館へ、1♀1幼体1卵のうを豊田市環境政策課へ提供した。

図9 鞍ヶ池PAの生息環境 2014.8.30



図10 ガラス窓の外枠にいる♀ 2014.8.30



図11 上郷SA下りの環境 2014.8.30



図12 マダラヒメグモ♀と卵のう 2014.8.30



せっかく機会なので、鞍ヶ池PAから一端一般道に出て、再度鞍ヶ池PAから東海環状自動車道上がり線を逆走し、豊田Jctから進路を東名高速自動車道下りに入り上郷SAを調査した(図11)。売店、トイレ、ゴミ箱、ベンチなど丁寧を探したが、セアカゴケグモは確認できなかった。多くの網はマダラヒメグモ(図12)とクロガケジグモであった。刈谷PAと鞍ヶ池PAも高速道路沿線なので、てっきり生息していると思っていただけに以外であった。

【豊橋市での発見の経緯】

2014年9月2日に豊橋市役所環境部環境保全課から「セアカゴケグモではないか」と確認のメールを受ける。「間違いありません」と返信する。発見地は三河湾に面した神野ふ頭町地内市港湾合同庁舎の敷地内である。職員が草刈り中に1♀を見つけたとのことである。4日に現地で環境部環境保全課職員3名と合流し調査を実地する。草地からの発見は偶然性が高いので、おもに側溝や建物周辺を探し回る。側溝には多数のオオヒメグモとイエユウレイグモばかりで、セアカゴケグモは発見できなかった。しかし、建物の基礎と外壁のすき間から1♀を、散水栓の中から1♀を発見した(図13・14)。周辺の公共施設や公園なども追加調査をしたが確認できなかった。調査後の会話で「今回の発見は東三河地方で初ですね」と話したら「いや県のHPには、田原市と豊川市で確認されています」との返答。普段HPは閲覧していないので、HPの話になると常に話が合わない。9月6日付け朝日新聞朝刊三河版に「セアカゴケグモも豊橋で初の確認」との見出しで報道される。あらためて県のHPを閲覧した、確かに豊川市では2013年9月13日に一宮町内で、田原市では2014年8月8日に白浜1浪地内で確認されている。また、西三河地方でも西尾市で2013年12月3日に道光寺町内で確認されている。筆者が知らないところでデータが記載されているので、複雑な気持ちである。



図13 市港湾合同庁舎敷地内の生息環境 2014.9.4



図14 基礎上部にいた♀ 2014.9.4

【セアカゴケグモは何を食べているか】

セアカゴケグモの不規則網の糸は丈夫で、よく草の茎、根、落ち葉など絡み付いている。同時に補食された昆虫類、ダンゴムシ、ヤスデ等の食痕も確認できる。鞍が池SAでの調査で網に絡んでいる生物を撮影し一部は採集したので種名(不明種含む)を列挙する(図15・16・17・18)。

チョウ目；スジキリヨトウ(間野隆裕氏同定)・蛾類の蛹・蛾類の幼虫、コウチュウ目；ゴミムシ sp.・ゴミムシ sp.・キマワリ・アオドウガネ・オオクロコガネ・コクロコガネ・オオゾウムシ(長谷川道明氏同定)・クワカミキリ、カゲロウ目；カゲロウ sp.、カメムシ目；クサギカメムシ・チャバネアオカメムシ、ゴキブリ目；チャバネゴキブリ、バッタ目；エンマコウロギ・ショウリヨウバッタ・ヒナバッタ、ハチ目；ミツバチ sp.、アリ sp.、クモ目；ハラクロコモリグモ・カニグモ sp. 等脚目；オカダンゴムシの合計9目23種を確認する。



図 15 網に絡むハラクロコモリグモと
クサギカメムシ 2014.8.30



図 16 網に絡むアオドウガネ 2014.8.30



図 17 網に絡むオオゾウムシ 2014.8.30



図 18 網に絡むヒナバッタ 2014.8.30



図 19 網の下に落ちていた
クワカミキリ 2014.8.30



図 18 網から採集した生物 2014.8.30

終わりに

調査を終えて感じたこと

今回の調査で色々と考えさせられたことを率直に述べたい。各市からのセアカゴケグモか否かの確認のメールや電話等のやり取り、度重なる現地調査に随分時間を費やした。メールで送られてきた画像にはオオヒメグモやマダラヒメグモなどの別種も何回かあり、驚いたのはゴホントゲザトウムシまでもが送ってきた。上記に取りあげた各市は今回のセアカゴケグモの発見が初記録となり、おかげ様?で地域の目録に追加することができた。ご承知の通り、毒グモ騒動はマスコミに数しれず報道され、いまも地方のどこかで報道されている。日本の侵略的外来生物ワースト 100 のリストに挙げられているので、当然国民に広く認知されている。その証拠に市民が発見すると、即市や保健所へ通報される。通報は無視できず、市民を守るための選択肢は駆除しかない。しかし、調査地地での生息環境は側溝の中、外壁のすき間、柱の下部、排水溝の内部など人目につかない場所にあるので、農薬散布による駆除方法でも根絶是不可能である。その証拠に他県でも分布は拡大し、県や名古屋市の HP にも莫大なデータが日々追加されている。それに、他の生物への影響も懸念されるし、「毒グモ、セアカゴケグモに注意」の看板は市民に不安をあおるだけである。鞍ヶ池 SA や刈谷 SA など多くの人が出入りしている。網の直ぐ近くで人々は歩き、子どもたちは遊び、時には地面にしゃがみ込んでいる。ここで、その対策方法を根本的に見直す時期ではないだろうか。アシナガバチ・スズメバチ・マムシなど毒性のある生物は危険な生き物として、回避する方法も市民に広く認識されている。セアカゴケグモの場合も「攻撃性はなく、素手で掴まないかぎり安全である」と正しい認識を繰り返し訴えるよう努力すべきであろう。もし、一般市民がセアカゴケグモを見つけたら、絶対素手で触らない。即その場で踏みつぶすなり、殺虫剤を噴霧するなりして始末する。クモ関係者はできるかぎり採集に努め、液浸標本にして保存する。採集地のデータは3次メッシュや GPS による緯度経度を記録し、同時に公の場に発表し全国的な視野で捉える。今後、新たな地域で発見されても、それぞれが正しい判断のもとで対処していただくことを切望する。

参考引用文献

- 愛知県ホームページ. [www.homepage-premium.com/_](http://www.homepage-premium.com/)
名古屋市ホームページ. www.city.nagoya.jp/_
小野辰嗣編, 2009. 日本産クモ類. 738pp. 東海大学出版会.
酒井 馨・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説 第2巻, 172pp. 昆虫文献六本脚.
小林裕和・松本 武, 2011. 日本産コガネムシ上科図説 第3巻, 178pp. 昆虫文献六本脚.
朝比奈正二郎, 1991. 日本産ゴキブリ類. 230pp. 中山書店.
村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑, 449pp. 北海道大学出版会.

愛知県産クモ目録 追加種 (VI)

緒 方 清 人
〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

はじめに

本誌 No.46 (緒方, 2013) では愛知県産クモ目録 追加種 (V) とし、県初記録として 9 種を追加し 556~564 種目として報告した。本報告では愛知県産クモ目録 追加種 (VI) とし、2013~2014 年に新たに確認された種と新種記載され種の合計 6 種となったので報告する。報告にあたり、同定ならびに多くのお教示を快くしていただいた小野展嗣博士、須黒達己氏、吉田 哉博士に心から深く感謝申し上げる。

【県初記録種】

565. モリズミマシラグモ *Masirana silvicola* (Kobayashi, 1973)

採集地：豊田市（旧足助町）大多賀町（旧あいち憩の森付近）杉林リター

GPS ; N35°09' 36.63" E137°26' 09.23" 標高 829m

採集日；2013年 10月 22 日：1♂(画像 1)

採集者：緒方清人

566. コガタコノハグモ *Enoplognatha lordosa* Zhu & Song, 1992

採集地：豊田市（旧旭町）伊熊町（伊熊神社）杉林リター

GPS ; N34°53' 39.32" E137°23' 04.94" 標高 581m

採集日；2014年 5月 30 日：1♂

採集者：緒方清人：吉田 哉博士同定（標本 No.90）

採集地：豊田市（旧稻武町）黒田町（林道寺洞線）杉林リター

採集日；2014年 7月 2 日：1♀(画像 2)

採集者：緒方清人：吉田 哉博士同定（標本 No.91）

567. ミヤシタイソウロウグモ *Spheropistha miyashitai* (Tanikawa, 1998)

採集地：名古屋市熱田区（熱田神宮）ビーティング

GPS ; N35°07' 39.62" E136°54' 28.82" 標高 19m

採集日；2013年 5月 20 日：1♂(画像 3)

採集者：緒方清人：吉田 哉博士同定（No.88）

568. フタエツノヌカグモ *Paikiniana keikoae* H.Saito, 1988

採集地：豊田市（旧下山村）大沼町 杉林リター

GPS ; N35°03' 57.18" E137°19' 11.31" 標高 449m

採集日；2014年 3月 8 日：1♀(画像 4)

採集者：緒方清人

569. ヤマジコナグモ *Tapinocyba silvicultrix* H.Saito,1980

採集地；豊田市（旧下山村）蘭町 杉林リター

GPS ; N35°01' 15.13" E137°20' 44.37" 標高 533m

採集日；2014年3月19日：3♀

採集者；緒方清人

570. シロスジカノコハエトリ *Chinattus ogatai* Suguro,2014

採集地；豊田市西広瀬町 草地

GPS ; N35°09' 32.76" E137°12' 49.30" 標高 93m

採集日；2011年10月11日：1♀4♂(画像5・6)：内1♀1♂Paratype

採集者；緒方清人

メモ；2014年に須黒達己氏により新種記載された。県初記録は1992年4月9日に南設楽郡鳳来町（現新城市）豊岡で1♂1♂幼体である（緒方, 1993）。その後、安城市・岡崎市・旧新城市・名古屋市で確認している。県外では2009年10月10日に三重県津市一色町（安濃川河川敷）で1♂幼体（画像掲載）である（緒方, 2010）。

*愛知県で記録されたデータ（地名・年月日・個体数・採集者など）は次回に報告いたします。

参考・引用文献

Tatsumi Suguro, 2014. Japanese spiders of the genus *Chinattus* (Araneae: Salticidae). *Acta Arachnologica*, 63(1):7-14.

緒方清人, 2008. 愛知県産クモ類目録. KISHIDAIA, 94:82-98.

緒方清人, 2009. 愛知県産クモ目録追加種. 蜘蛛, 42:24.

緒方清人, 2010. 愛知県産クモ目録 追加と削除ならびに変更と改称. 蜘蛛, 43:33-35.

緒方清人, 2011. 愛知県産クモ目録 追加種 (III). 蜘蛛, 44:52-54.

緒方清人, 2012. 愛知県産クモ目録 追加種 (IV). 蜘蛛, 45:14-16.

緒方清人, 2013. 愛知県産クモ目録 追加種 (V). 蜘蛛, 46:26-28.

緒方清人, 1993. 凤来寺山の真正クモ類. 凤来寺山自然学会館30周年記念誌, 525-606.

緒方清人, 2010. 津市一色町安濃川河川敷で記録したクモ類. しのびぐも, 37:13-15.

新海栄一, 2010. ネイチャーガイド 日本のクモ 第2版. 文一総合出版. 335pp

千国安之輔, 2008. 写真日本クモ類大図鑑 改訂版. 偕成社. 306pp.



図1 モリズミマシラグモ♀
旧いこいの森 2013.10.22 撮影



図2 コガタコノハグモ♂
林道寺洞線 2014.7.2 撮影



図3 ミヤシタイソウロウグモ♂
熱田神宮 2013.5.20 撮影



図4 フタエツノヌカグモ♀
大沼町 2014.3.8 撮影



図5 シロスジカノコハエトリ♀
西広瀬 2011.10.11 撮影



図6 シロスジカノコハエトリ♂
西広瀬 2011.10.11 撮影

クモを捕らえた野鳥の記録

緒 方 清 人
〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

はじめに

野鳥関係の図鑑や写真集などを拝読すると、ブッポウソウ目・キツツキ目・スズメ目など昆虫類を捕食している写真も少なくない。特にモズ科・ヒタキ科・シジュウカラ科・ホオジロ科など、繁殖期になると昆虫・クモ・多足類などを巣内のヒナに頻繁に給餌し育雛する。図鑑にクモを捕らえている写真としては、ドヨウオニグモを捕らえたキセキレイ（高野, 1974）、クモ（種不明）を捕らえたセッカ（真木, 2014）、スジブトハシリグモを捕らえたキセキレイ（新海・緒方, 2014）、などが挙げられる。筆者はクモを野鳥が捕らえたのを数例観察したので報告する。報告にあたり、貴重な情報と生態写真を提供していただいた吉村信紀氏、金山洪益氏、杉山時雄氏に深く感謝申し上げる。

【イオウイロハシリグモをオオヨシキリが捕らえる】

観察地：愛知県日進市。

観察日：1989年7月31日。

確認者：吉村信紀氏。

観察記録：オオヨシキリがヨシ原で営巣中に、イオウイロハシリグモを捕らえてヒナに給餌するのを撮影される。その写真を拝見し、捕らえられたクモはイオウイロハシリグモであると確認する。

【アシナガグモ sp. をセッカが捕らえる】

観察地：愛知県春日井市矢田川河川敷。

観察日：1973年6月14日

確認者：金山洪益氏。

観察記録：セッカが河原で営巣中に、アシナガグモの一種を捕らえてヒナに給餌するのを撮影される。その写真を拝見し、残念ながらアシナガグモは種名までいたらなかった（図1）。

【コアシダカグモをヤマガラが捕らえる】

観察地：愛知県北設楽郡設楽町裏谷。

観察日：2014年5月12日。

確認者：緒方清人。

観察記録：筆者が設置したシジュウカラ用巣箱にヤマガラが営巣した。ふ化後6日後の観察では、親鳥はくちばしに昆虫類やクモ類などを多数捉えてはヒナに給餌を繰り返した。偶然にコアシダカグモ♂のみを捕らえてきたのを撮影する（図2）。

【ツユグモをノビタキが捕らえる】

観察地；長野県茅野市車山高原.

観察日；2014年6月24日.

確認者；杉山時雄氏.

観察記録；ノビタキ♀がツユグモ♂を捕らえているのを車山湿原で撮影された。育雛中と思われる（図3）。同じく、ノビタキ♀がツユグモ♂とクモの仲間2頭を同時に捕らえているのを撮影される（図4）。その写真を拝見し、不明のクモは腹部が淡い茶色で、縁に濃い茶色の条が確認できる。一見シボグモに似るが模様の違いなどから別種と思われる。筆者は霧ヶ峰高原でシボグモモドキを確認しているので、もしかしたら本種の可能性もある。

【コアシダカグモをコノハズクが捕らえる】

観察地；愛知県北設楽郡設楽町川合.

観察日；2008年7月6日.

確認者；緒方清人.

観察記録；キツツキ類の古巣を利用してコノハズクが営巣した。夜間観察によると、♂は♀に獲物をプレゼント（求愛給餌）のため何回か獲物を捕らえてきた。明らかにコアシダカグモ♂（図5）とクモではないがトビズムカデを捕らえているのを撮影する（図6）。

【オニグモをヒヨドリが捕らえる】

観察地；愛知県知立市山屋敷町.

観察日；2009年9月26日.

確認者；緒方清人.

観察記録；拙宅の庭にはジグモ・カタハリウズグモ・ジョロウグモ・オニグモ・コクサグモなど多数生息している。アカメガシワと日差しの間に張られたオニグモの円網を、窓越しに何気なく観ていたらヒヨドリがフライキッチでこしきに静止していた雌幼体を見事に銜え去った。

参考・引用文献

高野伸二, 1974. 野の鳥の四季. 生態写真+解説文 63pp. 小学館, 東京.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸, 2014. 日本の野鳥 650. 788pp. 平凡社, 東京.

新海栄一・緒方清人, 2014. 田んぼの生きものたち クモ. 56pp. 農文協, 東京.

小野辰嗣編, 2009. 日本産クモ類. 738pp. 東海大学出版会, 東京.

新海栄一, 2010. ネイチャガイド 日本のクモ. 335pp. 文一総合出版, 東京.

千国安之輔, 2008. 写真日本クモ類大図鑑改訂版. 308pp. 偕成社, 東京.



図1 アシナガグモ sp. を捕らえたセッカ
春日井市矢田川河川敷 1973.6.14. 金山洪益氏撮影



図2 コアシダカグモ♂を捕らえたヤマガラ
設楽町裏谷 2014.5.12. 緒方撮影



図3 ツユグモ♂を捕らえたノビタキ
茅野市車山高原 2014.6.24 杉山時雄氏撮影



図4 クモ2種を捕らえたノビタキ
茅野市車山高原 2014.6.24 杉山時雄氏撮影



図5 コアシダカグモ♂を捕らえたコノハズク♂
設楽町川合 2014.6.24. 緒方撮影



図6 トビズムカデを捕らえたコノハズク♂
設楽町川合 2014.6.24. 緒方撮影

越冬する蜘蛛－3 =名古屋市内地域を中心とした冬場のクモ観察記録=

柴田良成
〒451-0066 名古屋市西区児玉1丁目8-24

引き続き冬の時期に観察された蜘蛛の第三弾です。主に名古屋市西部地域を中心としましたが市内各地の公園なども含めた観察記録です。

観察期間：2014年1月から3月までの期間・・総フィールド回数15回以上

観察場所：・主に庄内川の中流部・庄内緑地公園周辺及び上下流域の河川敷内
・各地公園：[平和公園（千種区）戸笠公園（天白区）荒子川公園（港区）]

採取方法：主にピーティング 樹木、枯葉の集塊、樹木の樹皮内 イラガ殻内

*確認した蜘蛛類の科種名一覧 *科名及び種名は日本産クモ類に準ずる

総計：科種名数：20科68種 追記種名：種名（太字・本年）

ジグモ科：ジグモ

エンマグモ科：ミヤグモ

ガケジグモ科：クロガケジグモ

ハグモ科：ヤマトカレハクモ ネコハグモ

ウズグモ科：マネキグモ

ヒラタグモ科：ヒラタグモ

ヤチグモ科：シモフリヤチグモ

タナグモ科：クサグモ コクサグモ

キシダグモ科：イオウイロハシリグモ アズマキシダグモ

ササグモ科：ササグモ

センショウグモ科：センショウグモ

ヒメグモ科：ハンゲツオスナキグモ マダラヒメグモ セアカゴケグモ ヒシガタグモ ムラクモヒシガタグモ アシブトヒメグモ ムネグロヒメグモ バラギヒメグモ ムナボシヒメグモ サトヒメグモ ヤホシヒメグモ オオヒメグモ カグヤヒメグモ フタオイソウロウグモ オナガグモ

アシナガグモ科：メガネドヨウグモ チュウガタシロカネグモ ヨツボシヒメアシナガグモ
トガリアシナガグモ アシナガグモ ウロコアシナガグモ

コガネグモ科：コガネグモ ヨツボシショウジョウグモ ナカムラオニグモ ゴミグモ マルゴミグモ ギンメッキゴミグモ ムツボシオニグモ イエオニグモ コガネグモダマシ オニグモ ズグロオニグモ

エビグモ科：アサヒエビグモ キンイロエビグモ キハダエビグモ

ワシグモ科：シノノメトンビグモ

カニグモ科：ワカバグモ キハダカニグモ アマギエビスグモ コハナグモ
ハナグモ ガザミグモ アズチグモ

フクログモ科：ムナアカフクログモ マダラフクログモ ヤハズフクログモ

ネコグモ科：ネコグモ

ハエトリグモ科：ヤサアリグモ アリグモ ネコハエトリ イナヅマハエトリ ミスジハエ
トリ オスクロハエトリ ヤハズハエトリ 以上

*主に採取、観察したクモの紹介



ワカバグモ ♂



オナガグモ



マネキグモ



アズチグモ



マダラヒメグモ ♀



アシブトヒメグモ



セアカゴケグモ ♀



腹部面



セアカゴケグモ ♂



ミヤグモ ♀



外雌器



幼虫



ヨツボシショウジョウグモ



腹部面



バラギヒメグモ



ムラクモヒシガタグモ



ヒシガタグモ



フタオイソウロウグモ



サトヒメグモ



外雌器



ムナアカフクログモ



腹部面

この寒い冬期にはクモたちも春を待ちながら陽気のいい日には活動して暖かくなる春を待つ多くのクモ達と出合いました。2012年から3年間の冬季について主に見つけ取りとビーテングによりクモを見てきましたが来季以降については地上性クモやリターを主体としたクモを追いかけたい。

多くのクモの確認、同定には緒方氏の協力して頂きました・・感謝します

★参考文献

小野展嗣編, 2009. 日本産クモ類, 東海大学出版会, 738pp.

新海栄一, 2010. ネイチャーガイド 日本のクモ 第2版, 文一総合出版, 335pp

千国安之輔, 2008. 写真日本クモ類大図鑑 改訂版, 偕成社, 306pp.

短 報

名古屋市内でトゲグモを発見

柴 田 良 成

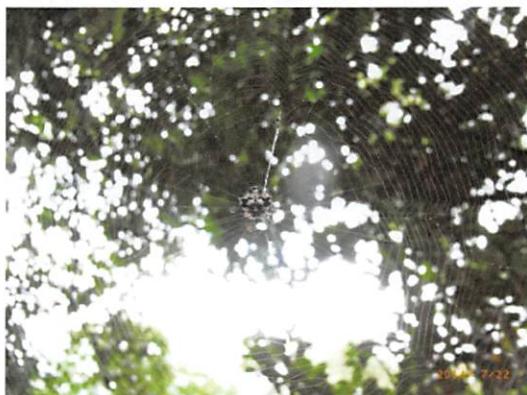
・年月日：2014年7月22日 午前11時頃

・場 所：名古屋市昭和区八事興正寺東面 八事山の森散策コースにて
(北緯：35°08'20" 東経：137°57'45")

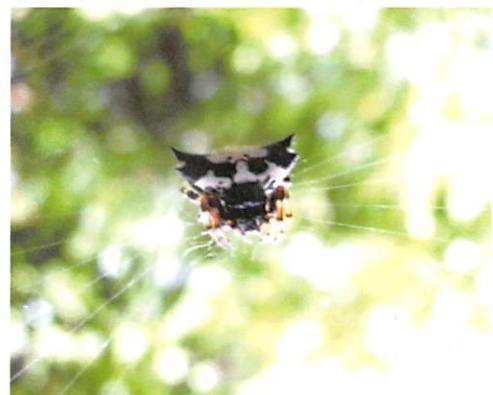
筒井女史と5日後に実施する「夏休みこども観察会」の下見を兼ねてのクモ観察中に何と？3頭も観察出来ました。この地域は昭和区の八事山の自然散策路・・温帯地域の照葉樹林が見られ、昭和区緑生土木事務所にて保全管理され市民の憩いの場所になっている場所です。確認の為に午後から近場で別の場所での環境確認調査をした後、緒方さんと須賀先生を案内して改めて皆さんと確認しました。何故この場所でトゲグモか？！は謎です。某氏はこの地に千本の桜植樹の計画中で、移植された桜の樹木から運ばれたのでは？と推測していますがよく分かりません。今後の此処での観察が楽しみになりました。須賀先生は早速、名古屋市のレッドデータ登録として頂きました。

★暖地広葉樹林の案内板より：この附近一帯は典型的な暖地広葉樹林でサカキ、ソヨゴ、アラカシ、カクレミノなどが群生しアカマツ、アベマキ、コナラ、イモノキなどの一部北方系の樹木が混ざった自然林を形成しております。

簡単な見分け方は常緑広葉樹が暖地系で北方系は落葉樹及び針葉樹であります。



1：樹林内に円網を張るトゲグモ



2：トゲグモ 接写



3：散策路の風景

短 報

本州にて採集されたヤスデ

益 田 和 昌

東北地方の山形県、関東地方の群馬県、中部地方の長野県の各地から貞元己良氏により、多くの倍足類が採集され、標本を恵与くださいされた。ここに同氏に謝意を示すと共に種名が判明したもの3種を報告したい。特に長野県産のクロヒメヤスデ科の1種は新種の可能性が高く、今後はメスと共に個体数がもう少し得られたい。

山形県西置賜郡小国町、小玉川小中学校

・ヤケヤスデ (*Oxidus gracilis* (Koch)) 4♂6♀ (17-VII-2010、貞元氏採集)

群馬県吾妻郡嬬恋村高峰林道、標高1600m

・キシャヤスデ (*Parafontaria laminata armigera* (Verh.)) 3♂1♀ (6-X-2013、貞元氏採集)

長野県北佐久郡御代田町、真楽寺

・クロヒメヤスデ科の1種 (*Parajulidae gen. et sp.*) 1♂ (6-VII-2013、貞元氏採集)

写真に見るように、第一歩肢のみ特化している。



写真1：クロヒメヤスデ科の1種、特化した第一歩肢



写真2：クロヒメヤスデ科の1種、肛門節

短報

ハツリグモの網は入るクロマルイソウロウグモ

杉 山 時 雄

2014年7月11日、愛知県豊田市立西広瀬小学校に観察会の講師として西広瀬小学校の隣接する丸根山に行った折り、ハツリグモの網にクロマルイソウロウグモ♀を見つけた。よく見るとクロマルイソウロウグモは、葉の中に隠れていたハツリグモ♀の背中にくっついていたが、全く動くことなくジッとしていた。クロマルイソウロウグモはハツリグモを食べているようであった。クロマルイソウロウグモはヒメグモ科の網に居候していることが多いが、コガネグモ科のハツリグモの網に入っているのは珍しいことだったので報告する。



2014.7.11 豊田市西広瀬町丸根山 大原満枝氏撮影

第一代代表 清水善夫氏に捧ぐ

須賀瑛文
〒509-0258 岐阜県可児市若葉台 3-168

中部蜘蛛懇談会の創立者で第一代の代表、清水善夫さんが4月29日9時12分にお亡くなりになったとの報を4月30日に事務局の柴田さんから頂きました。享年94歳、ご長寿とはいえ、さびしい限りです。

ところで、柴田さんから追悼文を！とのお話があり、書き出してはみましたが、長いお付き合いなのに、考えてみると「清水さんとの出会い」が愚生の頭の中では混沌としていて、よくわからないのです。何か自然に出会いがあったような気がするのですが、そんなことはありません。仕方なく、古い会員の一人、村上さんの助けをお借りして、いろいろヒントを頂くことができました。

さて、時は1969年、その頃の清水さんは、洞窟の動物を研究されていたようです。洞窟にはホラヒメグモほかいろいろなクモ類が住んでいます。そのためか、清水さんは、名古屋にクモの同好会を作りました。当時、大阪には東亜蜘蛛学会関西支部、東京には東京蜘蛛談話会があり、すでに活躍を始めていました。清水さんは、名古屋でのクモの同好会設立について、当時、東亜蜘蛛学会（現在の日本蜘蛛学会）の会長であった大阪の八木沼建夫先生にご相談されたらしいのです。そのころ、東亜蜘蛛学会の名古屋市（愛知県）在住の会員は、愚生・須賀と村上勝さんだけでした。清水さんの相談に対して、八木沼先生は、関西支部の会によく顔を出していた愚生をまず紹介されたらしいのです。清水さんとの出会いは、八木沼先生のご紹介による清水さんからの電話だったようです。

その後、清水さんが住み込みで勤務されていた愛知工業（中川区）にお邪魔して、現在でも会員の村上さんや益田さんなどと相談の結果、中部蜘蛛懇談会の創立（1969）にいたったのです。1970年、愚生の手によるガリ版刷りの会報No.1が、続いて、村上さんによりNo.2が発行されました。しかし、いずれも大変読み難いため、No.3からは、清水さんがご自身の会社で活字印刷の会報を発行、大変読みやすくなりました。清水さんに手になる会報は、以後No.12まで続きました。No.13からは印刷屋による印刷に変わりましたが、表紙だけは清水さんの手による印刷でNo.23まで続きました。独特の面白い印刷です。このころの会員はまだ皆若く、勤務先の仕事で手いっぱい、会の仕事は清水さんに任せっぱなしでした。この清水さんの活躍がなかったら、今の本会は存続していなかっただ、といっても過言ではありません。



さて、清水さんとは長いお付き合いではありましたが、会以外での深いお付き合いはありませんでした。そのため、清水さんのお人柄を語るには役不足といえるでしょう。ここでは、わずかに垣間見た清水さんのお人柄について触れてみたいと思います。

清水さんはどちらかというと無口な方でした。物静かで、余分なことはお話にならず、黙つて、皆の話をニコニコしながら聞いておられたようでした。出しゃばったり、強引にご自分のご意見を通すこともなかったと記憶しています。お酒はお好きのようでした。夜の街でお酒を飲んだ後、愚生宅を訪れられたことが一度だけありました。当時、勤務が忙しかった愚生は、自宅にはいなかったので、応対に出た愚妻が驚いた！という一つ話が、今でも時々我が家で話題になります。

清水さんは、洞窟のクモがお好きのようでした。先述のように、もともと洞窟の動物のご関心から本会を立ち上げた方なのだから、当然と言えば当然です。その成果の一つ「ニコイ(洞)の真正クモ類」という報文(会報No4)があり、八木沼先生の同定による21種のクモが挙げられています。会報にはそのほか「くもまんだら」と題した肩の凝らない隨筆風の読み物を長く連載されています。

前述しましたように、本会が今あるのは清水善夫さんのご活躍のおかけです。最後になりましたが、清水さんのそれらの偉業に対し、会員諸氏とともに、心から尊敬と感謝の念を捧げ、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。安らかにお休みください。



清水さんとのこと

村 上 勝

〒453-0032 名古屋市中村区塩池町 2-12-19

私と清水さんとの関わりについて思い出すまま箇条書きで記すことにしました。

- ・昭和 44 年 7 月 22 日～8 月 9 日、愛知学芸大学生物教室 O.B が主とする（名古屋生物 教育研究会）先島諸島生物調査団を結成し、石垣島・西表島・竹富島・与那国島等先島諸島の生物調査（昆虫：蝶・トンボ、蜘蛛、植物、海草、カニ類、棘皮動物、魚類、貝類）を行った。それに私も蜘蛛・蝶・トンボの調査ということでその調査に加えてもらった。このときの調査結果は、琉球先島諸島生物調査団報告 という冊子にまとめ、関係各位に配布した。（この送り状の日付けは 45. 12. 12 になっている）
- ・この話をどこで聞かれたか？その話をして欲しいと依頼があった。手紙だったのか電話だったのか記憶に無いがあて先が愛知大学ということで、約束の日・時間に標本や印刷物を用意し車で名古屋校へ出かけたが会場が分からない。守衛に聞いても分からぬし案内表示も出迎えも無かった。雨も降っていたし気持ちが落ち着かない、しょうがないので一寸ドライブをして帰った。その間に再度電話があったような気がするが？
- ・この頃、栄の地下街で生物教室の先輩鬼頭宏先生に偶然にお会いし「名古屋にクモの研究会が出来たことを知っているか？」と聞かれた。これが中部蜘蛛懇談会を知った初めである。昭和 44 年か 45 年頃かはっきりしないが市大生物クラブの学生が八木沼先生を招聘しクモの勉強会を持った。八木沼先生は東京への出張の帰りに名古屋によられた。この時に清水さんからお誘いを受け八木沼先生とお会いした。たぶん沖縄での不明種「ハラビロスズミグモ」を同定していただいたのではないかと思う。このときの会場は滝子のキャンパスの生物クラブの部室だったと思う（44 年に八木沼先生の「クモの話」読み物動物記 北隆館から出版されている）
- ・この頃のメンバーは市大の青木先生らが中心で（洞窟探検の会？ケイビングクラブ？）嵩山（スセ）の蛇穴や彦根近くの風穴などの洞窟に案内をしていただいて御一緒したことがあり、その後の会は日曜日に中川区の愛知工業で行われた。清水さんの勤務先である。
- ・中部蜘蛛懇談会の会報は、1 号（1970.8.31）と 2 号（1970.10.10）は孔版で 3 号（昭和 46 年 11.30）から 13 号までは滋賀県の吉田印刷で印刷された。それ以降は「蜘蛛」になった。初めの会員数は 17 名で市大の青木先生、京都の大江さん、鬼頭宏さん、益田さんらの名前がある。1 号には「東亜蜘蛛学会第 1 回 総会に参加して」の短報がある。生物教育学会全国大会の後に参加したので全国大会の後に開催されたのだろう。
- ・会社を辞められて滋賀県へ転居された。それまでの印刷物や寄贈図書を引き渡したいという話で長浜まで車で出かけた。板倉さんと一緒にいた。直ぐお別れするつもりでいたが長浜の町を案内して頂き豆腐料理の凝った店で昼食をご馳走になった。印刷物等は板倉さんに預けその後は総会、大会、観察会などで出席された折にお会いした事を懐かしく思い出す。

清水さん ありがとうございました

太田 定浩
〒510-0893 三重県四日市市前田町 23-2

加齢とともに記憶が薄っていくのはやむを得ないのかも知れないが、40年以上も前のこととなるとなおさらである。『蜘蛛』の前身『中部蜘蛛懇談会会報』などを繰りながら、亡くなられた清水さんに初めてお会いしたのは、1972年名古屋で第4回東亜蜘蛛学会が開かれた時のことである。

というのは、私はこの学会に初めて出席し、その後清水さんが会長をされていた「中部蜘蛛懇談会」に入会しているからである。しかし初対面の時の記憶は全く思い出せない。清水さんに度々お会いしお話するようになったのは、1989年第20回の大会が当時の王山会館（今のループラ王山）で開かれた前ごろだった。第4回の時はただ参加するだけだったが、この会の時には私も三重クモ談話会の会長だったし、準備や運営に中部蜘蛛懇談会に協力するという体制だったので、何回か当時清水さんが住んでおられた中川区松並町の愛知工業のビルへ伺ったことを思い出す。名古屋から名鉄本線で一つ目の「中日球場前駅」（現山王駅）で降りて、昔の下町風情が感じられる街中を10分足らず歩くとビルに着いた。誠実で物静かなお人柄と穏やかな物言いながら、案件を上手にまとめていかれたのが印象に残っている。その過程で教えられたことが、その後四日市で大会を開催した時の準備・運営などの参考として大いに役だったことを思い出し、もう直接申し上げるすべは無いが「ありがとうございました」と申しあげたい。なお、案件処理が終わった後の雑談が楽しかったことも思い出す。ご経験については存じ上げないが、中部蜘蛛懇談会会誌『蜘蛛』に連載されている「くもまんだら」を読んで、豊かな知識と暖かいお人柄がクモにまつわる話だけでなく、「クモとコンピューター時代に思う」や「クモとバーコード」といった時代を先取りしたようなことにも興味と関心をお持ちだと感じ入ったことを思い出す。

1991年滋賀県へ移られてからはお会いすることもなく、訃報を聞いてもお悔みに伺うことも出来なく申し訝なく思いながら、心からご冥福をお祈り申し上げたい。

清水善夫さんを偲んで

益田 和昌

〒497-0031 愛知県海部郡蟹江町須成字西河原 1417-10

清水善夫さんと初めてお会いしたのは、40 数年前に美術文化史研究会の例会だったと記憶しております。私は洞窟生物が専門で、蜘蛛については、網を張る8本脚の生物というだけで、ほとんど知識がないとお話をしていたにも拘らず、気が付いたときには中部蜘蛛懇談会に入会していました。それ程、清水さんには大きな包容力がありました。

当時は清水さんが勤めておられた会社に会も所在しており、名古屋市中川区前並町で月一回の例会も会社のご協力により、会議室にて開かれ、牛田清彦氏、須賀瑛文氏、村上勝氏らが名をつらねておりました。現在の様にフィールドワークを会の活動にと提唱したのは私で、しばらく後のことでした。会報の第1号は1970年8月に村上氏のご尽力によりガリ版（謄写版）が発行されました。第2号は須賀氏が担当されたと記憶しております。第3号から活字印刷になりました。

会報を見てみると、1990年第23号まで清水善夫氏が発行者、発行所が名古屋市中川区前並町になっています。1991年第24号では発行者が清水氏になっているも、事務局が知立市の緒方氏になり、1992年第25号では事務所は緒方氏で発行者が須賀瑛文氏になっています。そのときの経緯は記憶にありませんが、清水氏が退職され滋賀県浅井町のご自宅にもどられた頃だと思います。当時気になってはいたのですが、会報の印刷代はどこから出ていたのか清水さんから聞くことが出来ませんでした。推測するに自腹を切られていたとおもいます。清水さんが運営されていた頃は一度も会計報告がなかったからです。

1972年6月八木沼健夫先生が名古屋市大に来られホラヒメグモの講演をされたこともあります、そのときは清水さんもとても喜んでいられたようでした。1972年10月東亜蜘蛛学会が名古屋で開かれたときは、世話人が少人数にも拘らず、皆で成功を遂げることが出来ました。そんな時も、いつも清水善夫さんは表に出ることはなさらない、控えめな方でした。

個人的にも懇意にして頂き、清水さんとは三重県の藤原岳白船峠まで洞窟を探しに行ったりがあります、今思うと50代だったとおもいますがとても健脚で私と遅れることは一度もなく、気を使うことはありませんでした。滋賀県浅井町にある、清水さんのご自宅から比較的近くにある本宮の穴にも行きました。一泊させてもらい、翌日息子さんの車で送ってもらい、山中に入りました。先導していただくななど、なにかとお世話になりました。他にも豊橋市の嵩山の蛇穴にも共に行きました。

いろいろ思い出はありますが、清水さんのいつも微笑みを欠かさず柔軟な、お顔が思い浮かびます。

天寿を全うされた清水善夫さんご冥福をお祈りしております。

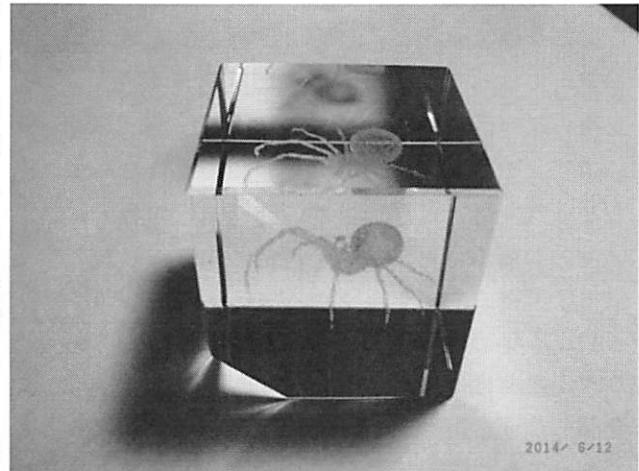
先生の形見

柴田 良成

〒451-0066 名古屋市西区児玉1丁目8-24

清水先生との最初の出会いは今から20数年前？！ 当時は年3回程度で参加者はいつも数人だけのクモ観察会。入会当時から4人か5人ぐらい！今から思えば良く続けられた事と思う程・毎回、寂しいクモ採取・観察の様子でした。そうした中に時折、先生が遠方（滋賀県）から駆け付けられ場所は定かではありませんが高齢の方がいつも物静かに各自のクモ観察の様子を眺めておられた。一人静かに寂しそうでありいつも横に座り話し相手となっていた事を良く覚えています。総会の折も杖を頼りに会場に駆け付け後輩達の様子を静かに見守っていた事を今では懐かしく思い出します。

先生が亡くなられる半月ほど前にわが家に娘さん（榎原さん）から電話を頂き先生の近況など音信不通の先生の様子を聞く事が出来ました。話の中でまだ元気であった2年前ころ・家族に「クモの事で岐阜の大垣まで行ってくる！」と言って出掛けたものの結局、遅くに帰宅したとの話を聞きその時は大変でしたねと返事をしましたが改めて考えてみると・・中部蜘蛛懇談会の将来を託す為に永井均さんの実家（山県郡高富町）を訪ねたのではと思ひめぐらすのです。高齢ながら電車で大垣まで向かった先生の会への想いを抱きながら現在会員120名近くにもなったこの中部蜘蛛懇談会を皆さんと共に引き継ぎ継続したく思う次第です。



2014/6/12

最後に何時の日かの総会（金山近く）終了後、先生が予約されていたホテルまで案内した折にお礼として頂いた「ガラスのクモの置物」を形見としながら先生のクモへの思い入れを感じながら何時までも大切にしたく思う次第です。

★後日談：長女の美知子さんとの電話会談より

- ・父は家庭では殆んど笑った顔を見た事がなく好きなお酒を飲んだ時に少し笑顔になるぐらいでした
- ・若い内から「民俗学」と「蜘蛛」を熱心に勉強していました
- ・性格は一口で言えば星飛馬の父親（一鉄）にそっくりの頑固者で特に漂泊の詩人・種田山頭火をこよなく愛していました

清水善夫さん 本当にありがとうございました

緒 方 清 人
〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

『学研の図鑑 クモ』(1976) に「クモの研究団体」の紹介があり、清水善夫さんが代表をされている「中部蜘蛛懇談会」を知ることができました。例会は清水さんが勤めておられる、会社の会議室でおこなわれていました。その例会に 1984 年 8 月 12 日に初めて出席し、そこで初めてお会いしました。第一印象は、小柄でとても親切な優しいお人柄でした。これを機に、例会や観察会で度々清水さんとお会いし、お話するようになりました。1989 年に蜘蛛学会第 20 回大会が今池の王山会館（現ルブラ王山）で開催され、準備、運営、案件等手際よく進められた事を深く印象に残っています。私も何かお手伝いがしたく、開催地にふさわしいものはないかと思案した結果、手みやげに常滑焼きの朱泥の湯のみ茶碗を提案し、心よく承諾していただきました。また、忘年会や新年会の席上でも豊かな知識をお聞きしました。あるインド料理店での新年会では、お酒の勢いもあってか「曼荼羅」のモデルはクモである。と熱く語られました。記憶は曖昧ですが、曼荼羅を取り囲む 8 体の諸仏諸尊はクモの 8 本の脚だそうです。会誌『蜘蛛』にシリーズとして書かれている「くもまんだら」は No.4(1971)～No.19(1985) に 9 編まで続けられました。あらためて拝読すると、どの文章も内容は濃く、豊富な知識が随所にあふれています。1970 年代に「コンピューター」や「バーコード」など最先端技術を詳しく解説され、なおかつ、近い将来までも予言されているのには、驚いてしまいます。クモの種類や生態よりも、蜘蛛そのものを大きなスケール、つまり宇宙観のような存在として捉えられていたのではないかでしょうか。1991 年にご都合で滋賀県へ移転されたとき、事務局をお引き受けしました。会の文献等を引き継ぐ際、清水さんの蔵書を何冊もいただきました。優しいお人柄に心を打たれました。一度だけ、湖北町大字速水のお住まいをお訪ねしました。琵琶湖の湖岸が間近で、「ハクチョウの渡来地」の看板がすぐ近くに設置されていました。一時間ほどの会話でしたが、とても楽しい一時でした。玄関先で見送っていただいたお姿がまぶたに焼き付いています。

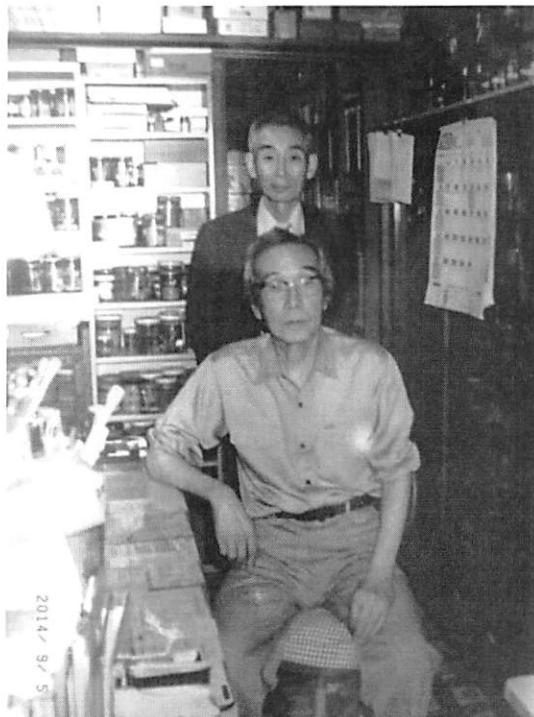
名鉄電車で金山駅から豊橋行きに乗車し帰宅する。季節は秋期、尾張と三河の境をなす境川を通過する。車窓から流れる風景は郊外にふさわしく、黄金色の稻穂が美しい。乗客の多くは若者を問わず、スマホの操作に下を向いている。ゲームか音楽かメールか・・・。人差し指と親指が忙しく動いている。異様な光景である。靈長類のアイアイは昆虫や果肉を食べるために、中指が細長く発達した。人も将来は細かなキーボードをより素早く操作するとめに、人差し指と親指が細長く発達するような気がしてならない。天国の清水さんは「くもまんだら」No.10 で、この世相をどう書かれるだろうか。心からご冥福をお祈りするとともに、どうか中部蜘蛛懇談会を暖かく見守ってください。

故清水先生を偲ぶ

当会の創設者であり長きに亘り蜘蛛の調査、研究に取り組んでこられました。

先生の思い出より

*遺品の一部が長女の美知子さまから送られてきました。その中に八木沼先生との記念写真がありましたのでここに紹介しておきます。(撮影1991年10月4日) 若き日の須賀先生・緒方さんと・・皆さんに了解して頂きました。



八木沼先生と清水先生



八木沼先生の研究室にて



4人で和やかな会食の様子



1986年1月26日 名古屋市千種区「養老の滝」にて新年会 左から清水さん、永井さん 緒方

2013年度総会・研究会報告

年月日：2014年2月11日（月）建国記念日 午前10時から

会場：名古屋市東区上堅杉町1 ウイルあいち

参加者：塩崎哲哉 白井俊哉 須賀瑛文 筒井明子 片山詔久 杉山時雄 緒方清人
村上 勝 井出鶴理 大原満枝 池田博明 太田定浩 貝發憲治 益田和昌
谷川明男 新海 明 加藤修朗 矢部寛延 国枝利満 大久保芳博・恭子
矢島葉子 山口宏子 中根洋次・奥さま 大谷敏和 角野智紀 柴田良成
吉田 真 中山幹夫・四葉 猪俣 寛 鈴木安雄 滝川正子 吉長聰子

35名 敬称略 記載順

総会

議事1. 2012年度 会員数および活動報告

会員数：正会員69名 準会員33名 こども会員18名

合同合宿報告：7月27日～29日 松坂市飯高町・飯南町一帯
(三重クモ談話会主催)

採集観察会報告：4回実施

会報：「蜘蛛 No.46」 通信：「まどい No.61～63」の発行

議事2. 2013年度会計&監査報告 会計：柴田良成 会計監査：村上 勝

議事3. 役員選出と分担：

- ・代表 緒方 ・書記 柴田 ・編集委員「蜘蛛」須賀、緒方、片山、杉山
- ・同「まどい」小栗、片山 ・会計 柴田 ・会計監査 村上

- ・HP理 筒井、片山 ・運営委員 須賀、村上、柴田、杉山、筒井、小栗、緒方

議事4. 会誌『蜘蛛』への投稿方法について（須賀瑛文・杉山時雄・緒方清人）

議事5. 本蜘蛛学会第46回愛知（名古屋）大会開催・運営について（片山詔久）

学会会員である中部蜘蛛懇談会会員の中から、以下のメンバが運営委員として決定した。運営委員：片山・太田定浩・緒方・小栗・貝發憲治・塩崎哲哉・柴田・須賀・村上・吉田真

議事6. 2014年度活動計画 採集・観察会

5月31日（土）：豊田市琴平町（トヨタの森）、杉山時雄・大原満枝

6月22日（日）：名古屋市内（未定）、小栗大樹

7月_日（日）：名古屋市内（未定）、「夏休み子ども観察会」、筒井・柴田

9月_日（日）：名古屋市内（未定）、須賀瑛文

10月05日（日）：名古屋市緑区（大高緑地公園）、緒方清人

議題7. 会誌『蜘蛛』No.47 4月末現行締切 8月末発行【杉山時雄】

機関紙『まどい』No.61, 62, 63【小栗大樹・片山詔久】

議題8. 次期 総会日 2015年2月11日（水）建国記念日

研究会報告

各地で記録的な大雪は1月下旬以降、週末毎に降る天気の連続の日々でしたが幸運にもその合間の11日の総会は青空に恵まれました。特に運営員の皆さん方は早くから駆けつけ会場のテーブルなどを並び替え、準備した資料やチラシなどを見やすい場所へ配置するなど毎度の事で要領良く作業が進みます。今回は8月末に行われる日本蜘蛛学会（名古屋市会場）の開催の件もあり事務連絡や事前の打ち合わせなどの相談です。やがて開始時刻の10時となりますまずは代表の緒方さんからの挨拶で開会となりました。

■「トヨタの森での体験学習」 杉山時雄・大原満枝



地域の小中学校の子供たちを中心として自然観察から多くを学ぶ為、年間170回程開催（参加者延べ7000人にも）午後から約2時間、インタープリターの指導のもとで子供たちが生き物と触れ合うこの時間を大切にしたいとの想いを抱きながら社有林であるトヨタの森での活動報告です。

子供達と自然に触れ合いながら、特にクモに興味を持ってもらえるあの手この手と苦心しながら、ジョロウグモは何匹？トタゲグモの扉やゲホウグモ探しなど子供たちに感動して欲しい想いで苦心している様子がよく分かりました。

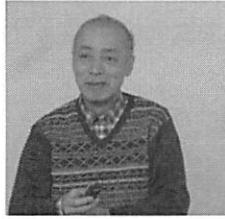
■「クモの巣図鑑作成の経緯」 新海 明・谷川明男



クモ本としては近年、珍しい現象でクモ図鑑本の出版は初版の5千部は完売、2版を3千部増刷発行するなど著者としては嬉しいばかりです。そしてこれからのクモ関連の本作りでは「クモへの疑問、リサイクルなどある程度分ると売れるのでは？」！前提には多くの図書館からの推薦がいい効果になる。

誰を対象のクモ本作りか？お薦めの「クモの巣と網の不思議」は専門過ぎてか売れない？出版社からの要望依頼、独断と偏見での本作りよりプロに任せた企画構成、編集任せが良いのではと足かけ6年、実質4年で完成した思いを振り返り語ってくれました。

■「京都と滋賀のクモ2」 吉田 真



この数年において京都府と滋賀県で採取した未記載種を主に画像で紹介しました。・コタナグモの1種雄のみで雌は採れない。

アサカワゴマグモでは？その他、カチドキナミハグモの近縁種、ヨシアキナミハグモ、ヤハギヤチグモが比叡山に、カミガタヤチグモ、ホラヤミサラグモそして滋賀の洞窟で採取された多くのクモと、その周辺環境の風景画像を説明しながらいつもの軽妙なる関西弁での語り口で紹介されました。

■「熱田神宮境内のクモ類について」 須賀瑛文・緒方清人・柴田良成



名古屋市内にある熱田神宮の概要を紹介しながら約2年間、原則として月1回の神宮内でのクモ調査の紹介と報告です。名古屋市の地形は大別して東部丘陵、中央台地、西部沖積地の3地質から形成されているなどを解説された。そして熱田神宮内と周辺地においては29科109種確認（名古屋市内42科303種）また今回初のチビクロドヨウグモ、クスミダニグモ、スズミグモ、コアシダカグモなど説明しながら画像の紹介です。

■「石垣・西表と沖縄で見つけた興味深いクモ」 塩崎哲哉・緒方清人



4月に石垣島、9月には沖縄本島へ昨年2回出掛けた沖縄クモ採取旅行の紹介です。石垣・西表にて約70種、沖縄本島で約30種を確認しました。その期間中に多くの採取したクモや出会った生き物たちを綺麗な画像の紹介です。

興味深いクモ達は殆んど見た事がない皆さん驚きと感嘆しながら画像に釘付けです。特に印象的なのは訪れた宅配事業所の建物内で出会ったハイイロゴケグモには驚きで、宅配車両にクモが居付き本土に運ばれて北上するらしい！

■「タイ南部クモ見遊山の旅」 谷川明男



タイ南部のハットヤエなどで出会ったクモや他の生き物達の紹介です。タイのレンタカーは運転手付きで1日1万円とか！現地では5名で各地を訪ね廻る。

トンガチャン自然保護区では目的のハラフシグモを観察、圧巻はシラヒゲナガイボグモの放射糸と扉の様子、いつもの語り口は軽快で見て

いる人達が現地で観察している如く臨場感溢れるばかりで皆さんは毎回楽しみにしています。

■特別発表「クモ・カレンダー（クモごよみ）作り」 池田博明



生い立ちや経歴を紹介しながら昔の療養中での教員時代や女子高の生物部の指導をしていた。卒論のテーマはコモリグモの捕食行動解析をまとめた。若き日に影響された本は「梅棹忠夫、モゴール族の探検記」の記載要領に感動哲学的には明日死んでもいい覚悟が必要と…それも20歳までに。

何故クモなのか？の理由は①肉眼で同定可能な種が多い
②日本全体を把握可能な種類 ③身近な野外に種類が多い
④日本には南方、北方の両種が分布

身近に進化のパノラマを一望出来る他に例がない生き物としてクモを選択①あなたの住んでいる場所の「クモカレンダー」を作りましょう②クモの種毎に記録（幼体・亜成体・成体・行動パターン・網形、サイズ）③写真記録そして④記録を記載し公表すれば…先行研究と異なる点があるかも？！…トコロが違えば結果も違って当然ですから是非皆さんもクモ暦を…。

■「ミカワホラヒメグモの現状」 緒方 清人



豊橋市嵩山村にある洞窟性のクモについて定点観察の調査報告です。荒い不規則網を張り雄は突起が有るのが特徴で洞窟である為、雌雄共に年中観察されるとの事。クモ以外の生き物たちも紹介しながら周辺の環境変貌には悩みは尽きない。一緒に見つけたカマドウマは新種らしいので期待したい！また近々に出版予定の田んぼのクモの紹介など更なる行動力を抱いての活動報告です。

■「ミヤコジマトタテグモは本当にいるのか？」 中根 翼



宮古島（2013/3/23.24）ではみやこパラダイス、熱帯植物園、東急リゾートなど観光と探蛛行を楽しんだ。特に宿泊したホテルの庭で採取したクモ成体は日本初記録と谷川先生のお墨付きの快挙！金メダルとなりました。何時か未だ見ぬ♂を又6月頃に出掛けたいとの事です。現在、沖縄本島、諸島のトタテグモは4種確認しているらしい。部活で忙しい翼君に代わりお父さんの報告でした。画像は翼君が夏休みのテーマとして作成した「クモの網アート」の紹介

■「オオトリノフンダマシは新種だった」 谷川 明男

クモの中では大好きなのはトリフンの仲間たちです。今回、DNA解析の為イギリス自然博物館に保存（1895年採取記録）されているタイプ標本を苦労して入手、送付された標本はピンを通したトリフンの乾燥標本との事でした。結果としてオオトリは本島と沖縄島では別種とか？また照合の為取り寄せたタイプ標本とも違うと3種の外雌器の画像を紹介して頂きました。

■「ジョロウグモ横糸の熱および紫外線に対する分子構造変化についての赤外分光」 矢部 寛延・片山 詔久



今年の卒論文テーマとして取り組んだクモ糸の分子構造変化の分析報告です。

判明した主な事項は ①引っ張り強度、伸び率はヨコ糸では2～3倍 ②ヨコ糸の粘球の解析や横糸の分子状態を観察された ③横糸の糸タンパク質と粘球のタンパク質を区別、粘球の膜構造を考察 ④加熱により粘球は40°Cまで糸タンパク質は100度Cまで構造保持出来るらしいなど紹介されました。

★総会：昨年度に開催した各地の観察会報告や会計などの報告、計画予定の行事などを提案、また数件の議事について審議して了解され、総会及発表会は皆さんのご協力のお陰で無事に終了しました。

★懇親会：会場近くの中華料理店に向かう。参加者は14名で昨年同様で一年振りに再会した皆さんは、和気藹々の楽しい雰囲気での宴会となりました。

話題はやはりクモを主にお互いの近況の雑談です。今度は8月の学会での再会を楽しみにと皆さん帰路へと向かいました。

(文責：柴田良成 注・一部まどい掲載文を改変しました)



会場風景

三重中部合同合宿・報告

開催年月日：2013年7月27～28日

場 所：三重県松阪市飯高町・周辺地 宿泊：「つつじの里・荒滝」飯高町赤桶

参 加 者：大久保芳博 大久保恭子 緒方清人 貝發憲治 加藤修朗 澤矢朋貴

澤矢由佳 澤矢琴音 澤矢明音 塩崎哲哉 柴田良成 須賀瑛文 杉山時雄

角野智紀 角野敦子 角野映 角野瓢 角野穂水 筒井明子 中根洋次

中根翼 船曳和代 敬称略（計22名）

恒例となりました合同合宿の今年の担当は三重クモ談話会、そして宿泊場所は松阪市飯高町の「つつじの里・荒滝」です。事前に貝發先生から「今回は三重からの参加が夫々都合があり少ないので中部から出来るだけ多くの参加者を」との要請連絡があり機会毎に多くの皆さんに呼びかけましたところ何と当日の参加者を含め総勢22名の大盛況での合宿開催となりました。

集合場所の「道の駅・飯高の駅」にはお互いに乗り合わせた各車で11時45分に集合、他にJR松阪駅からの参加者と合流して全員集合です。お互い久し振りの再会に皆さんの笑顔と和やかな会話などとても楽しみな雰囲気です。

早速、担当の貝發先生から今回の参加者名簿と行動予定表を配布して開催です。まずは緒方さんから挨拶の後、午後からのクモ採取・観察場所へと各車が駐車場所の関係で最小の台数に乗り合わせて奈良県との県境近くの木梶川まで細くて険しい山道を暫く走る事に、周辺は多くの山に囲まれた狭い林道を走りやがてゲート前にて到着、まずは見事な木梶川からの滝を見ながら全員での記念撮影です①写真 恵まれた天候の下で早速に周辺の素晴らしい景色の林道沿いにクモ観察、採取の開始です。今回が初めての人には採集の方法や注意点など説明しながら各自が夫々にクモ目になって行動開始です。岩の隙間にはユウレイグモ、アシナガサラグモそして見事な円網の端の葉内からは綺麗な背文様のイシザワオニグモ、鳥居の懸けられた注連縄内からはナント！ツクネグモが出現するなど自然豊かな沢沿いの林道の樹木、草原などからのクモ採取です。終了時間前では虫好き家族全員参加の角野さんの娘さんが指に摘まんだ甲虫がナント！珍しい「ゴホンダイコクコガネ」の発見で全員注視！②写真 また同時に足元にはニホンヒメグモを銜えた「狩人バチ」に緒方さんが少し興奮気味でシャツターチャンスに余念がありません。このツーショットに皆さんが珍しい生き物に大興奮！でした。

集合時間となり車で連なる山間のふるさとを見ながら国道166号線を戻り本日の宿である「つつじの里・荒滝」に向かう事にした。そしてこの宿の姿を見た瞬間にナント10年前の合宿での事が蘇って懐かしさで感慨無量の思い、あれから一昔が過ぎたのです。夕食は殆んど地元で採れた山菜と活き魚の手作りで美味しい豪華な料理で皆さん満足気味・・各自の自己紹介しながら和気藹々となり歓談しながら楽しみな一時でした。

8時頃から恒例の夜間での観察会、皆さん各自にライトで照らしながら宿周辺の道路や草原、樹木でのクモ観察でしたが期待外れで少し残念な気持ちです。10年前に出会った光景

を思い出しながら「見事なる円網のゲホウグモ」や「荒い同心円網のトリノフンダマシ」は期待外れとなりサツマノミダマシの円網が見られただけでしたが何故か？！夜通しこの宿は常に玄関や窓は開け放され明かりを求めた虫達が大いに飛び回り虫好きには結構楽しめる雰囲気の自然派を体感出来て好感触でした。夜の歓談は大部屋にて準備して頂いたクモ書籍や顕微鏡で先生達は種同定と船曳さんから「クモ網アート」作成方法に女性群を主に家族皆さんクモの巣、網のレクチャーを熱心に聞き入っていました。また緒方さんを中心にクモ話題など夜更けまで大いに語り話合い楽しい時間が過ぎてしまいました。

翌日は朝食後、粥見地区にある「石原神社」境内と周辺の里山を主とした場所でのクモ採取、観察の始まりです。昨日の渓谷、樹林の場所とは異なり神社、茶畠近くの里山での観察です。境内にあったトイレ周辺にはヒラタグモの群生、数頭のX字隠れ帯びのコガタコガネそして中学生の翼君はクモの中で最も観察が難しいと聞くキノボリトタテグモの扉を4カ所発見！久し振りの快挙です。皆さん夫々がクモ観察、採取そしてクモアート作成など存分に楽しめた事と思います。やがて昼近くになり境内にて食事をしながら2日間でのクモ合わせを緒方さんから採取、観察した蜘蛛の種名を呼び上げながら多くのクモと出会った楽しめた合宿でした。特に家族参加の澤矢家族にはこの夏休みの宿題のテーマが決まった様子で嬉しく思う次第です。そして今般、宿泊の予約、観察場所の下見、場所状況で車の手配など気苦労やお世話になりました貝發、塩崎の両先生には大いに感謝、有難うございました。

文責：柴田良成



旧高見峠木梶川林道の鳥居を背に記念写真



ゴホンダイイコクコガネ：接写

2013年度合同合宿：クモ目録の一覧表「26科 115種」

(目録中の科名、学名、和名とその配列は谷川の「日本産クモ類目録 Ver.2013R」)

ジグモ科：ジグモ **トタテグモ科**：キノボリトタテグモ **ユウレイグモ科**：アケボノユウレイグモ ユウレイグモ イエユウレイグモ **タマゴグモ科**：アカハネグモ **センショウグモ科**：センショウグモ **チリグモ科**：ヒラタグモ **ウズグモ科**：オウギグモ マネキグモ カタハリウズグモ **ヒメグモ科**：オナガグモ オダカグモ シモフリミジングモ ムラクモヒシガタグモ ハラナガヒシガタグモ フタオイソウロウグモ ツリガネヒメグモ カグヤヒメグモ ヒザブトヒメグモ ニホンヒメグモ オオツリガネヒメグモ オオヒメグモ ツクネグモ カニミジングモ ムナボシヒメグモ ヒゲナガヤリグモ ヤリグモ バラギヒメグモ ムネグロヒメグモ ボカシミジングモ コケヒメグモ ユノハマヒメグモ **カラカラグモ科**：カラカラグモ **コツブグモ科**：ナンブコツブグモ **サラグモ科**：ハラジロムナキグモ カイホツズキンヌカグモ クロナンキングモ チビサラグモ クスミサラグモ アシナガサラグモ ムネグロサラグモ ヒメヨツボシサラグモ ユノハマサラグモ **アシナガグモ科**：チュウガタシロカネグモ コシロカネグモ キララシロカネグモ キンヨウグモ ヤマジドヨウグモ **コガネグモ科**：イシサワオニグモ マルコブオニグモ ヤマオニグモ コガネグモ ナガコガネグモ コガタコガネグモ ヤマトカナエグモ ギンメッキゴミグモ クマダギンナガゴミグモ ゴミグモ ヨツデゴミグモ トリノフンダマシ オオトリノフンダマシ シロオビトリノフンダマシ スズミグモ トガリオニグモ シロスジショウジョウグモ ドヨウオニグモ ワキグロサツマノミダマシ コゲチャオニグモ ヤマシロオニグモ サツマノミダマシ カラフトオニグモ **コモリグモ科**：ウヅキコモリグモ ヤマハリゲコモリグモ ハリゲコモリグモ **キシダグモ科**：イオウイロハシリグモ **ササグモ科**：ササグモ タナグモ科：クサグモ コクサグモ **ウシオグモ科**：クロガケジグモ ツチフクログモ科：アシナガコマチグモ イタチグモ **イヅツグモ科**：ナガイヅツグモ イヅツグモ フクログモ科：ヤバズフクログモ ムナアカフクログモ **ネコグモ科**：ネコグモ アシダカグモ科：アシダカグモアシダカグモ **エビグモ科**：キハダエビグモ アサヒエビグモ **カニグモ科**：キハダカニグモ コハナグモ ハナグモ アマギエビスグモ ワカバグモ マツモトオチバカニグモ ガザミグモ チクニエビスグモ アズチグモ トラフカニグモ セマルトラフカニグモ **ハエトリグモ科**：ネコハエトリ マミジロハエトリ ジャバラハエトリ エキスハエトリ アシプトハエトリ マガネアサヒハエトリ デーニツツハエトリ イナズマハエトリ ヒメカラスハエトリ ナカヒラハエトリ キレワハエトリ ウススジハエトリ ムツバハエトリ

*目録作成：貝發憲治 詳細は「三重クモ談話会・しのびぐも第41号参照

2013 年度採集観察会報告

第一回 採集観察会

日時：2013 年 5 月 19 日 午前 10 時～

場所：名古屋市緑区 大高緑地公園

参加者：藤澤倭人、大久保芳博、大久保恭子、上村益道、中根翼、中根洋次、小栗大樹、国枝利満、矢部寛延、加藤修郎、柴田良成、緒方清人 以上 12 名（順不同敬称略）

第八駐車場に午前 10 時に集合しました。週間予報では雨になっていましたが、幸い朝から曇り空で雨の心配はなさそうなので一安心しました。総勢 12 名で藤澤さん、上村さん、矢部さん、加藤さんは初めて参加されました。小栗さん、大久保さん、中根さんは午後から帰られるとの事なので、出発前に集合写真を撮りました。

駐車場近くの林縁部の赤土の土手にはキシノウエトタテグモが沢山棲んでいるので、早速全員で住居を探しました。生息密度の高いところでは僅か 3 m ほどの距離に 40 巣ほどが確認されました。最近、生息地のひとつである東海市（聚楽園公園）では、道路工事などによりほとんどの崖地が破壊されました。ここではこのようなが事がないように祈りたいものです。柴田さんと小栗さんは林縁部をネットでビーティングされていますので、私は台所用品の 2 重笊を利用しリター層を調べました。個人的にヤバネウラシマグモの成体を期待したのですが、この季節はまだ幼体でした。でも、微小なシャラクダニグモやナルトミダニグモなどを採集することができました。ビーティングではマネキグモ・ヒゲナガヤリグモ・ムナボシヒメグモ・オオセンショウグモなどが網に入りました。

午後からは竹林を抜けて、歩道沿いのツツジなどが密に植えてあるグリーンベルトを観察しました。枝葉には多くのクサグモやコクサグモが棚網を張っていました。矢部さんが目ざとくコガネグモを見つけました。糸を調べたいと生きたまま採集され、解散後は大学に直行されたとの事です。2 時過ぎからは雨になりましたが楽しい観察会になりました。後日、小栗さんから記録された 25 種のクモリストと柴田さんから集合写真をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。最終的には 51 種を記録しました。

【緒方清人】

目録

ジグモ住居・キシノウエトタテグモ Ff 住居・ミヤグモ住居・ナルトミダニグモ F・シャラクダニグモ FM・アカハネグモ f・オオセンショウグモ F・マネキグモ F・カタハリウズグモ F・チリイソウロウグモ fy・オナガグモ M・ムラクモヒシガタグモ f・フタオイソウロウグ



モ FM・カグヤヒメグモ F・オオヒメグモ Fy・ムナボシヒメグモ f・ヒゲナガヤリグモ f・ヤリグモ f・スネグロオチバヒメグモ F・バラギヒメグモ F・ハラジロムナキグモ F・チビアカサラグモ F?・シロブチサラグモ F・オオイオリヒメサラグモ F・ユノハマサラグモ F・ウロコアシナガグモ M・アオオニグモ f・オニグモ f・コガネグモ f・ゴミグモ FM・マルゴミグモ F・ヤマシロオニグモ f・ハラクロコモリグモ M・ハリゲコモリグモ FM・チビコモリグモ f・イオウイロハシリグモ f・シボグモ f・クサグモ y・コクサグモ y・イタチグモ y・オトヒメグモ F・ネコグモ F・ヤバネウラシマグモ f・エビチャヨリメケムリグモ F・キンイロエビグモ f・アサヒエビグモ f・マツモトオチバカニグモ f・ヤミイロカニグモ FM・ネコハエトリ F・マミジロハエトリ FM・ウデブトハエトリ M・ヤガタアリグモ F・アリグモ f. 合計 53 種. F: ♀ 成体 M: ♂ 成体 f: ♀ 幼体 m: ♂ 幼体 y: 幼体(文・目録作成 緒方清人)

第二回 採集観察会

日時：2013年6月9日 午前10時～

場所：名古屋市守山区小幡 県営小幡緑地公園内

参加者：筒井明子 村上勝・裕麻・恵悟 大久保芳博 大久保恭子 国枝利満 上村益道

井出皓理 川内綺水 久保京介 小井俊哉 高谷昌志 高谷彰吾 矢部寛延 藤澤倭人
澤矢朋貴・由佳・明音 柴田良成

20名 敬称略

全国各地で真夏日となった本日のクモ観察会の参加者は何と20名！事前にメールで参加連絡頂いた多治見市からの親子は「この夏休みのテーマ決め」の思いの小学生。「クモ発生研究を主に」としている生物・科学部員の高校生達。趣味のクモ写真から「今後はクモの種名を学びたい」思いや「卒論文への資料、課題など現在模索中」の大学生達は夫々にテーマを持ち、その他多くの参加者はクモへの思いを込めての観察、採取となりました。簡単な挨拶後は事前に資料を渡した「クサグモとコクサグモの見分け方」「ジョウロウグモの幼体の様子」などを説明しながらこの時期ゲンジボタルの乱舞が見られ始めたホタルの里の場所へと向かう事にする。この辺りで見られたクモはコンピラヒメグモ、ササグモ、ウズグモ幼、チャイロアサヒハエトリ、マネキグモ、ナガコガネグモ幼など周辺の笹原での観察です。参加者の半数は初めて体験で他者のクモ探蜘蛛行動に少々戸惑い気味でしたが暫くすると採取の要領が分かり皆さんの行動や観察に驚きの連続です。毎度クモの観察会の時と同様になかなか先には進みませんがクモへの目線にとても興味深く用意した採取網やルーペを片手にとても満足気味です。お昼近くとなり近場でとりあえずは午前中のクモ合わせをして約20種のクモを記録しながら昼食としました。



午後からは半数の人達で竜巻池、湿地周辺、みどり池へと周辺の樹木や草原などでクモを観察しながら益々クモへの興味は高まり少し興奮気味状態！皆さんクモへの目線が高度になる感じであちこちから採取したクモを図鑑で確認しながら感心や納得して採集のヤル気度は高まる状況でとても良い感じの雰囲気となりました。最後は要望でオオヒメグモと卵のうを採取して帰路に、今回の感想や印象などを語りながら次回からの観察会の活動予定を報告して解散としました。

【柴田良成】

目録

(午前の部) クサグモ・ヤマウズグモ・コンピラヒメグモ・マネキグモ・ジョロウグモ・アサヒエビグモ・ウデブトハエトリ・ササグモ・オニグモ SP・コシロカネグモ・コクサグモ・チャイロアサヒハエトリ・オオヒメグモ・ナガコガネグモ・ゴミグモ・アズチグモ・コカニグモ・ワシグモ SP・アオオニグモ・オダカグモ (午後の部) ムネグロヒメグモ・アシブトヒメグモ・キララシロカネグモ・アリグモ・オナガグモ・キハダヒメグモ・ヤリグモ・カニミジングモ♂

以上 28 種 (目録作成 柴田良成)

2013年夏休みこども観察会

日時：2013年8月3日（土）

場所：名古屋市の八事興正寺

参加者：木村眞子（中3）親子、澤矢明音（小5）親子、永井佑典（小4）親子、
名山りんか（中2）親子、鳥井仁子、上村益道、国枝利満、高梨佑真（小5）、
一木琢磨（中2）親子、福田香織・彩葉・萌葉、矢部寛延、片山詔久、筒井明子、藤澤倭人、
田中美保子、柴田良成
以上 23 名 敬称略

2013年8月3日土曜日、名古屋市の八事興正寺にて、毎年恒例の夏休み子供観察会が行われました。今年はなんと！20人超えの大盛況！！名市大の片山先生にご尽力頂いた「わくわくキッズナビ」を見て来てくれた子。新海明先生、谷川先生の新作「クモの巣 図鑑」巻末にある会の名前からたどって来てくれた子。関西から、お父さんと里帰りで来てくれた子。などなど…初参加の子どもたちもいっぱい！もちろん、すっかりクモ研究者となつたリピーターの子も来てくれました！今年、特に多かったのはヒメグモの仲仲間。真ん中に吊り下げた枯葉の中には、卵のうも確認できました。去年2頭みつかったスズミグモは残念ながら みつからず。一昨々年に多かった（ワキグロ&）サツマノミダマシは1頭みつかつただけ。年によって（時期の差もあるかもしれません）出るクモが全然違うというのも不思議な気がします。

最後はみんなで恒例の「クモ合わせ」みんなで見つけたクモのデータは、大切な記録になります。今年は希少種の発見はありませんでしたが、わいわいガヤガヤ、楽しい観察会となりました。皆さん、お疲れ様でした！これを機に、ぜひまた観察会に遊びに来てください



さいね (^-^)

【筒井 明子】

<観察できたクモ>

アリグモ・ニホンヒメグモ・オオヒメグモ・ワキグロサツマノミダマシ・コシロカネグモ・
オダカグモ・アシブトハエトリ・ジョロウグモ・コモリグモ・イタチグモ・マネキグモ・
ギンメッキゴミグモ・ヤミイロカニグモ・キハダエビグモ・ウズグモ・コクサグモ・キシノ
ウエトタテグモ（巣）・ムナボシヒメグモ・コンピラヒメグモ

19種類

第三回 採集観察会

日 時：2013年9月15日 午後10時～

場 所：名古屋市港区品川町 荒子川公園周辺

参加者：柴田良成、村上 勝、上村益道、加藤 修朗、須賀瑛文 以上5名（順不同・敬称略）

「台風18号上陸近し」の報道で、大雨を心配しながら、あおなみ線・荒子川公園駅に着いた。台風の風雨心配して参加者が少ないだろうと思いながら、集合時間の10時まで公園改札口で待つ。やはり集まつたのは総勢わずかの5人であった。

ということで、10時05分、観察開始。幸い、雨は降っていない。あおなみ線に沿って園内を歩くが、やはりクモの姿はない。たたき網をやっても、網が水で濡れるばかり。ガーデンプラザ前で、先ずは記念撮影。

ここから、あおなみ線と分かれ、園内を南に向かう。目視では獲物が見つからないので、柴田さんとたたき網を続ける。それでも入ったのは、柴田さんがフクログモ科の幼体ともう一頭コマチグモ科のクモらしい幼体を得たくらい。そのほか、クモの姿を見たのはゴミグモだけであった。しばらくして、やっとクサグモの網に出会うがクモ姿はない。この網には産み付けられた卵



嚢だけがあり、それを撮影して先に進む。荒子川にかかる荒子パークブリッジで、下見の時にみたクロカケグモの網に出逢い、声とピンセットの振動で本体をおびき寄せる。しかし、すぐに隠れてしまうので写真にはならない。園内は消毒が行き届いているのか、ここでも網も一つだけ。写真はあきらめて次に向かうが、園内では相変わらずクモには出逢わない。

仕方なく、園外に出て園内に沿って東西に続く道路を歩く。ここでは2本の電柱の根元や石垣にある排水孔などで見つけたセアカゴケグモをモデルに撮影会。まだいを終わったばかりの幼体も一人前の網を作っている。このクモだけは雌雄幼体とともに沢山いるのでモデルには事欠かない。撮影会は一時間ほどかかってしまった。幸い気にしていた雨も全く降らない。しかし午後はどうなるか判らないので、観察会は午前中で打ち切りと決定して戻ることにする。

ガーデンプラザの手前まで戻ると、俄かに雨が降り出す。駅改札口までも近いが、とりあえず目の前のプラザ内に避難、この中にある喫茶店で軽い昼食を取りながらしばらく様子を見る。食事を終えて外に出ると、雨は止んでいた。これで解散するつもりであつ

たが、クロガケジグモの写真を撮り損ねたことを柴田さんが思い出す。あおなみ線高架下の自転車置場に下見の時に見た網があるのでそこに向かう。ここでもクモの網は、消毒から免れた？クロガケジの網が一つだけ。この個体はなんと、臨月？と思われ、お腹は丸と太った動きの鈍いメス。動作が鈍いおかげでゆっくり撮影することができた。

クモの種数は網を含めて極めて少なかったので、今日はクサグモの卵嚢と外来種のクモ 2 種の撮影会が中心となった。心配した雨も、屋内での昼食時以外は降らなかつたし、クモの種数が少ないので撮影に十分時間をとることができたので良しとしなければ！と自己満足しつつ、柴田さんと名古屋駅に向かって車中の人となった。

付) 当日見た種が少ないので、目録には、同年 9 月 9 日、下見時に見た種を併記した。

[須賀 瑛文]

目録

クサグモの網と卵嚢・ゴミグモ y・セアカゴケグモ♀、♂と y と卵嚢・クロガケジグモ♀・* ヤハズフクログモ y・* コマチグモ y sp. (*印は柴田さんが帰宅後同定) 以上 6 種

目録 (9 月 9 日下見時)

クサグモ♀と卵嚢・コクサグモ♀・ゴミグモ♀・マルゴミグモ♀・セアカゴケグモ♀♂卵嚢と y・クロガケジグモ♀・ネコグモ♀ y・コシロカネグモ y・ササグモ y・オオヒメグモ♀・ネコハエトリ♀ y・ネコハグモ♀ y・カニグモ sp.・ツリガネグモ sp・ジョウロウグモ♀・ニホンヒメグモ♀とまどい・ナガコガネグモ y・マダラフクログモ y・アサヒエビグモ y

以上 19 種 合計 21 種 目録作成: 須賀瑛文 & 柴田良成

第四回 採集観察会

(雨天中止のため有志者のみで開催しました)

日 時: 2013 年 10 月 20 日 午 10 時 ~

場 所: 名古屋市西区 庄内緑地公園

参加者: 加藤修郎、柴田良成、

小栗大樹 以上 3 名

今年度最後の観察会。庄内緑地で行われる予定でしたが生憎、大雨注意報が出るほどの雨が降り、中止とさせていただきました。現地の様子見のために私と柴田さんが集合し、二人だけでせっかくなので雨の当たらない場所で観察して帰ろう・・・なんて話をしていたところ、加藤さんから偶然のお電話。現地にいる、ということで三人で一緒に観察することになりました。小一時間のことでしたが、トンネルの下でイエオニグモや、壁に網を張ったネコハグモなど、約 10 種を観察しました。



【小栗 大樹】

「蜘蛛」投稿のきまり

1. 投稿は本会正会員とする。ただし、共著者には、正会員以外の者を含むことができる。なお、依頼原稿についてはこの限りではない。
2. 投稿は、クモ類および多足類に関する論文・総説〈解説〉・調査報告・短報・情報・紀行文・感想等、本会に関する報告・予定等の内容とする。なお、内容によっては、編集会議または運営委員会で掲載の可否を検討することができる。また、原稿の加筆、削除、訂正等をお願いすることがある。
3. 著者による校正は1回とする。ただし、短報については編集者で行うことができる。
4. ページ数は図表を含めて、刷り上がり9ページ以内とする。超過ページ分については、著者負担（超過1ページにつき2,500円）とする。ただし、依頼原稿・会の活動に関する報告ならびに運営委員会が認めたものはこの限りではない。
5. 掲載された原稿ならびにCD等については原則として返却しない。ただし、返却を希望する場合は、投稿時に切手を添付した封筒を同封し、返却希望の旨を編集者に連絡する。
6. 別刷り代は著者負担とし、投稿時に原稿のタイトルの右側に朱書きで「別刷り〇部」と記入する。なお、別刷りが不要の場合も「別刷り不要」と記入する。別刷りは原則として50部単位とするが、それ以外の場合は編集者と相談する。

原稿作成上のお願い

1. ワープロソフトで作成する場合

- ・文章はできる限りWordの形式を使用する（一太郎も可）。
- ・可能ならば図表も組み込む（図は白紙に書いたものも可、「2. 手書きで作成する場合」参照）。
- ・表はExcelの形式であれば本文と共にメールに添付する。
- ・A4判、44字×37行で印字する。
- ・文章は1行目にタイトル、3行目に著者名、4行目に著者の所属名または住所を記入し、本文は6行目から書き始める。
- ・報文のタイトルは12ポイント、本文等は10または10.5ポイントをめどに印字する。
- ・原稿の提出はメールに添付するか、CDまたはUSBメモリーに焼き付けたものを郵送する（3.5インチフロッピーデスクはできるだけ避ける）。
- ・できれば、確認のため、別途、紙にプリントした原稿を一部郵送する

2. 手書きで作成する場合

- ・400字詰め横書き原稿用紙に楷書（必ず）で書く。
- ・図は白紙1枚に1図ずつ、黒インク等で鮮明に仕上げたものを送付する。
- ・図の縮尺希望があれば、図の欄外に鉛筆書きで記入する。
- ・図表のタイトルは鉛筆書きとする。

3. その他

- ・別刷り希望を原稿に書き忘れた場合は、著者校正時に校正原稿のタイトル右側に朱書きで「別刷り〇部」と記入する。

蜘蛛 (kumo) No. 47

中部蜘蛛懇談会会報 Bulletin of chubu Spider Study Group

発行所：中部蜘蛛懇談会

事務局 〒451-0066 名古屋市西区児玉一丁目 8-24

柴田良成 方 電話 052-522-1920

2014年10月20日発行

編集者 須賀瑛文 緒方清人 小栗大樹 杉山時雄

原稿送付先 〒509-0258 可児市若葉台 3-168 (須賀)

電話 0574-65-1347

E-mail : chara-hs@bf7.so-net.ne.jp

発行者 中部蜘蛛懇談会 (代表 緒方清人)

印刷所 プラザー印刷株式会社 ☎0564-51-0651